

1992年度総会特集

UFO contactee

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO/超能力/宇宙哲学

コンタクティー

宇宙的な信念と勇気を起こす方法

二人の異星人からの忠告

テレパシーで植物を動かす方法

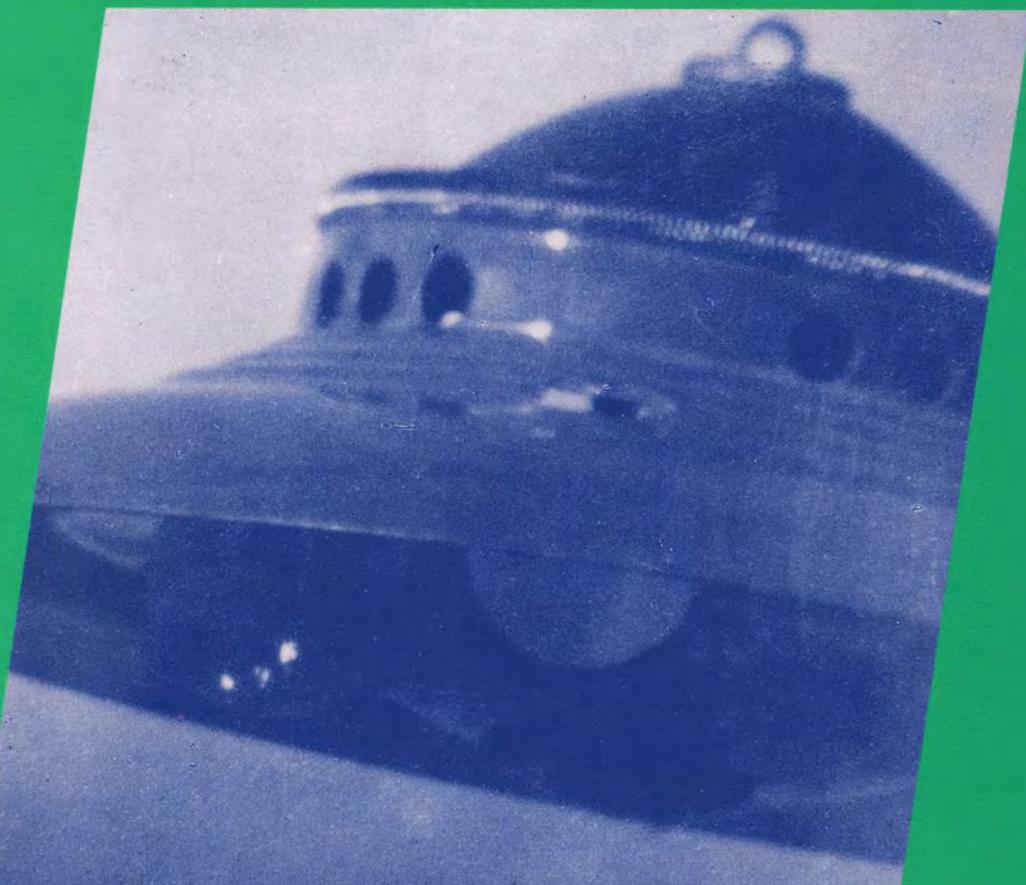
人間は生来テレパシー能力を持つ

夜空の不思議な映像

重力と宇宙の自然のパワー(1)

SPRING
1993

120



〈巻頭言〉自分を救う者	1
宇宙的な信念と勇気を起こす方法	久保田八郎 2
二人の異星人からの忠告	辻 俊昭 12
テレパシーで植物を動かす方法	遠藤 昭則 19
GAP短信	26
長野県支部大会、盛況	27
科学—SCIENCE	28
人間は生来テレパシー能力を持つ	堀江 健一 30
夜空の不思議な“映像”	田辺 優子 33
重力と宇宙の自然のパワー(1)	G. アダムスキー 36
モアイとUFOの島へ(完)	伊東 芳和 44
〈予告〉中米マヤ遺跡宇宙ロードの旅	45
〈投稿欄〉ユーコン広場	46
本誌/バックナンバー掲載記事目録	48
〈予告〉大阪支部大会	49
〈広告〉新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2箇の図形の内、左側は宇宙の女性原理(陽)、右側は男性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉

1952年12月13日午前9時10分頃、米カリフォルニア州バロマーガーデズ台地で、ジョージ・アダムスキーが6インチ反射望遠鏡に手札判カメラを取り付けて撮影した金星の円盤。詳細は「第2 惑星からの地球訪問者」(中央アート出版社)に出ている。

本号記事の白眉は、辻俊昭氏による「二人の異星人からの忠告」であろう。一八年前の記憶をたどりながら語った氏の体験の迫真性は、印刷された活字よりも生々しい音声に込められている。(二時間に亙る会話はすべてテープに録音してある)しかも氏の言葉は単なる驚異の表現ではなくて、事の重大さを今頃になって自覚した人の真摯な心情の発露がみられるのである。

一体にスペース・ビープルとコンタクトしたという人は希なことではない。GAP会員のI君などは都内でき



を者を分う自救

き見かけるといふし、ときには相手が微笑してうなづくという。これは同君がそれらしい人を見かけた場合、テレパシーで「あなたは別な惑星からいらっしやった方ですか」と質問すると、相手がうなづくか、またはそれらしい仕草をして応答する事実にもとづくものである。

純粹きわまりないI君のことだから、その高次元な精神波動に相手も同調しやすいのだろう。スペース・ビープルに気付こうと思えば、自己の心を極力コントロールして、宇宙の意識に同調

することにありという意味のことをアダムスキーも述べている。この現象の背後には「宇宙の意識」の世界が存在するとア氏は説いている。これは霊界ではなく、大宇宙の創造主の意識波動で形成されている世界で、現象の万物とダブって存在する絶対的な世界である。プラトンの言うイデアを思わせるが、プラトンの場合はイデアの放射源を遠い天空の彼方に設定したのが惜しかった。

つまり、地球上の万人と万物の各個体を生成発展させて完成させようとする大宇宙の意識が、地球はおろか、他の惑星の万物までも及んでおり、万物はそれによって支えられ生かされているので、私たちは必ずしも或る特定の「神」を設定する必要はない。この創造源の意識をアダムスキーは「宇宙の意識」と呼んでいる。これは生命エネルギーの根源なるものと英知とを総称した言葉で、いわば「因」というのと同意である。

宗教的な神は地上を遠く離れた空間に存在すると考えられているけれども、ア氏の言う「宇宙の意識」は現象世界の万物と重なって存在するものらしい。しかもその「意識」は人間その他の万象が完全に完成され尽くした青写真を描いており、万物の個々はその青写真どおりに完成の方向に向かって生成発展するのである。だから人間は善なるもの、美なるものに憧れを抱くのだ。

つまり青写真で示されている完成された姿の方向へ歩もうとするのである。したがって人間は現象の背後にひそむこの意識の世界に気付いて、その世界への没入または移住を図るならば、宇宙の意識とともに生きていくスペース・ビープルとの同調が容易になって、彼らは自分の正体を明かしやすいことになるのだとア氏は説明している。

具体的に言えば、人間は肉体または物質を生かしている宇宙の生命エネルギーと英知を認めて、それによって生きていくという感覚を高めるのである。そのためには人間のマインドを形成している四つの感覚器官を極力コントロールする。肉眼で外界を見るのではなく心眼で見えるようにする。肉耳で聴くのではなくて心耳で聴く。

この習練を積むうちにテレパシーや遠隔透視その他のいわゆる超能力が開発されてくる。こうなれば道を歩いているスペース・ビープルと出会っても、すぐに相手の正体に気付くようになるし、日常生活で無数の困難事を適切に処理できるようになる。

このようなタイプの人間が宇宙的であるというわけで、ア氏は「生命の科学」「超能力開発法」等方法を詳説しているのだから、日本GAPではむかしからこれらの宇宙的な哲学の研究と実践に専念してきた結果、少なからぬ人がテレパシクになり、各種の超能力を発揮しているのだ。

こうした日本GAPの活動を宗教的非科学的と批判するのは見当違いも甚だしいものである。我々は一世紀先の科学を先取りしているのだ。物質に意識が内在するという問題は来世紀の重要な課題になるであろうし、サイボーグ(人造人間)の発達にも欠かせぬ研究テーマとなるだろう。

話を元にもどすと、太陽系内の地球以外の諸惑星に人間が存在して偉大な文明を築いている事実が次第に明らかになる方向にあり、その兆候は地球に在住しているスペース・ビープルの行動によってすでに判明しつつあるのだ。この件に関する世論も高まってくるだろう。そして来世紀の早い時期に大國が真相を発表するだろう。

別な惑星の大文明の存在が判明し、世界中に澎湃たる宇宙思想が流れるとき、地球に真の意味の救いがある。比較的の法則によって地球人が心底から覚醒するからだ。それまで多少の混乱は続くだろうが、たいした動乱ではない。ましてや地球全体が破滅するようなカタストロフィー(大破局)はあり得ない。したがって恐怖は禁物であり、恐怖をそそるような予言類は避ける必要がある。大変動発生時に異星人が大挙して飛来し、地球人を母船に乗せて救出するという説が昔から流れているが、このような事もあり得ない。自分を救う者は自分自身である。他人に頼れば相手が迷惑するだけだ。(久)

How To Have Cosmic Faith And Courage
by Hachiro Kubota

宇宙的な信念と勇気を起こす方法

★久保田八郎 (日本GAP会長)

一九九二年一月二〇日、UFOと宇宙哲学の研究団体「日本GAP」は恒例の年次総会を東京都港区芝公園の機会振興会館ホールで盛大に開催。大夕食会とも盛況裡に終了した。以下は当日二二〇名の出席者に深い感銘を与えた久保田GAP会長の講演内容 (一部加筆)

皆様こんにちは。本日は遠路を多数ご来場下さいまして、まことに有難うございました。今年の総会は例年と異なりまして、セミナー形式で行ないますので、こんなに大勢の方が見えるとは予想しなかったのですね、心から感謝しております。

波動の良い デザートセンター

早いものでして、日本GAPを創立しましてから、今年でちょうど満三一年になります。それよりも前の一九五二年一月二〇日にアダムスキーがア

メリカ・カリフォルニア州のデザートセンターでコンタクトを致しましてから今年でちょうど四〇年になります。それで、今年はその四〇周年記念と銘打って、この総会を開催致しました。たぶん世界のアダムスキー研究団体として、このような記念の集会を開催する所はないだろうと思います。もっとも、アメリカのあるアダムスキー研究家が、今年の一月二〇日にデザートセンターへ集まって記念の集会を開催したので、私にも来ないかという誘いがありました。多忙なために断りました。その方は私

ったことのない人です。そういうわけでして、アメリカにも近來アダムスキーを認める人が続出しているようですね、これは喜ばしいことです。

私は昔からデザートセンターへ何度も出かけて現地の調査を行なっています。あそこは岩山に砂漠地帯というだけの広漠たる土地で、他には何も無い所です。砂漠といいますが、アフリカのサハラ砂漠のような美しい微細な砂の海ではなくて、固い地面の不毛地帯です。あちこちに低い灌木がある程度で、樹木らしいものはなく、何の変哲もない所です。

しかし、一度あそこへ行かれました方はご存じと思いますが、すごく波動の良い場所です。なんと申しましょうか、大地からわき起こる非常に清々しい雰囲気によって、心身ともに洗われるような感じがします。一種の透明感を覚えて、自分自信が大地かまたは青空に溶け込むような感じのする所です。したがって、金星の円盤があそこに着陸したのも、そうした波動と関係が

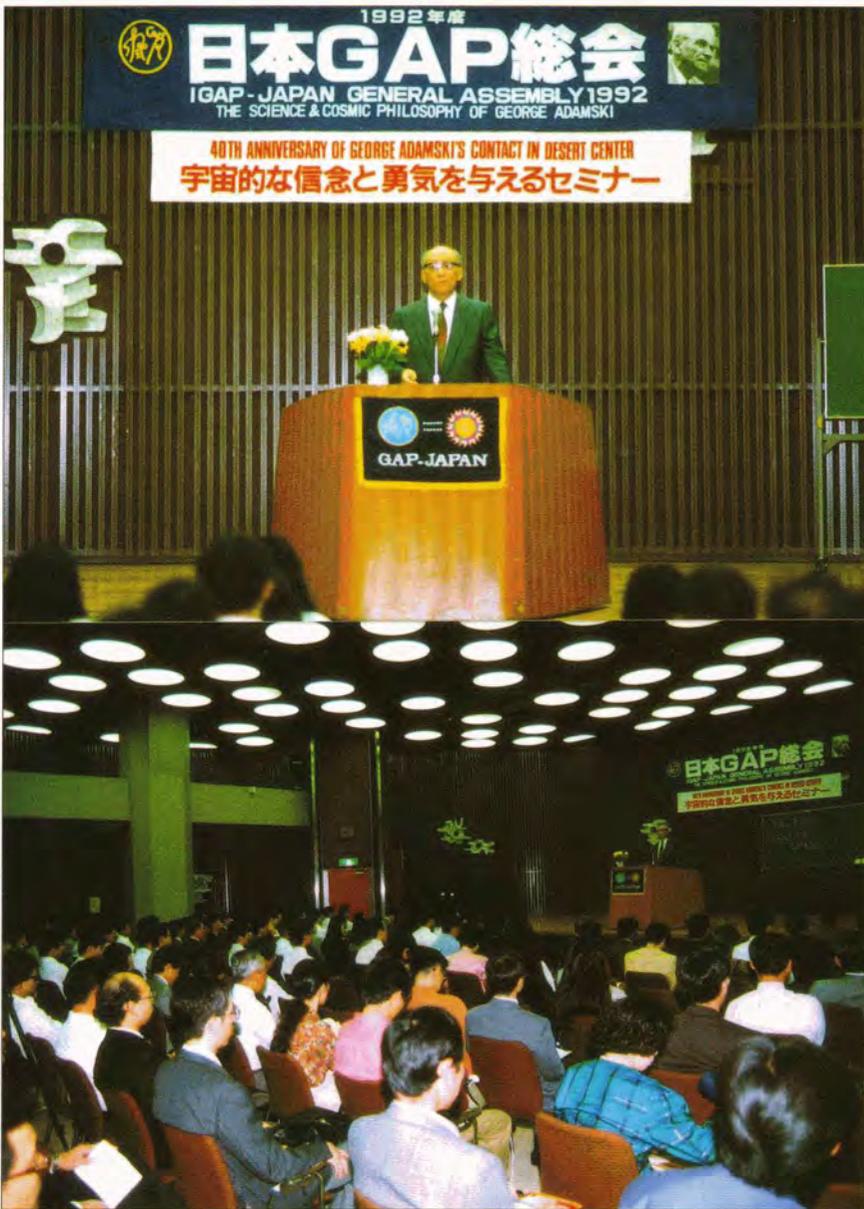
あるのかもしれない。GAP会員の方は、一度はデザートセンターへいらつしやるとよいですね。

アダムスキー支持の声が広がる

さて、そのアダムスキーですが、全世界にダイナマイトを投げかけたようなショッキングな体験を発表してから、すでに四〇年が経過したのですが、いまだに世界中の人から全く不信の目で見られているかといえます。実はその逆な傾向が起こっています。つまり彼は実は正しかったのだという声があちこちから起こりつつあるのです。

アダムスキーをインチキだにせモノだといつて騒ぐ人もいますけれども、いまは学者の方々がアダムスキーを認めてきた方が増えていきます。お名前を出しても差し支えはないだろうと思えますが、工学博士の深野一幸先生は今度「超真相・宇宙人！」と題するUFO関係の書物を一月にお出しになります(徳間書店刊)、その内容はアダムスキー中心になっていると聞いてお





◀講演中の久保田会長 撮影/松村芳之

異星人基地 確認された月面の

ります。その他有名人の方々にアダムスキーを支持される方が意外に多いのですけれども、私はふだん名前を出さないことしております。

アダムスキーが主張しましたことを、ごく簡単に要約しますと、この太陽系

の地球以外の惑星にはすべて人類が存在して、しかも偉大な文明を築いているという事に尽きますが、さらに彼は、地球の衛星である月にも、すでに別な惑星から来た人達によって基地が設けられていると言っています。しかも彼はこのことを第二番目の著書である『宇宙船の内部』の中で述べているのです(この書は中央アート出版社

刊・新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』に収録)。彼がこの書物を発表したのは一九五五年のこととして、当時としては全くの作り事とは思えないような突拍子もない話だったわけですが、しかし、これは後にアポロ宇宙飛行士たちが月へ到着してアダムスキーの正しかったことを立証しました。彼らは月面に巨

●デザートセンター。山側から見た風景。矢印①はパーカー街道。②はコンタクト地点。③は円盤着陸場所。 撮影/篠 芳史



大なる母船や円盤がいる光景を写真に撮影して地球へ持ち帰ったのです。ただしこれらの写真はNASA（米航空宇宙局）が隠蔽して極秘にしていたために、一般人はそんな事実を知らなかったのですけれども、昨年、日本の科学関係のコンサルタントをしておられるMさんという方がNASAを訪れて、月面に「FOがいる写真（複数）」を見て大いに驚いて、それまではUFOというものを信じていなかったのに、それからはUFOなるものの存在を確信するようになったばかりか、精神的にも大きな変革を上げられたということでした。この話は秋山真人博士から聞いたことです。実はそのM氏は秋山氏の知人だそうにして、これは間違いのない事だということです。

重要なのは科学

これからみますと、人間は知識を持たなければ進歩しないということが言えますね。一七世紀のドイツの詩人でアングルス・ジレジュスという人は、「英知は泉である。その水を飲めば飲む程ますます力強く、ふたたび噴き出してくる」と言っています。

またイギリスの詩人のジョージ・ハーバートという同時代の人は「何も知らない者は何も疑わない」と言っています。これは知識のない者は進歩しないという意味です。私たちはアダムス

キーによって別な惑星に関する物凄い知識を持ったわけですから、現代の科学を疑っているわけですか。「これでよいのだろうか」と。ところがアダムスキーに関する知識を持たない人は現代の科学を疑いません。太陽系に人間が住む惑星は地球だけだという説を絶対に正しいと思込んでいるわけですか。これでは飛躍的な進歩はありません。

私は科学を軽視するのではなくて、むしろ科学を非常に重視しているのです。それはなぜかといいますと、これは私の特論なのですが、地球人の精神的科学的な面を向上させるのに、最も手取り早い方法は、地球製の宇宙船を建造して別な惑星を訪れるとよいのです。そうすれば物凄く発達した文明を見て腰を抜かし、「ああ、我々地球人はなんとという哀れな動物であったのか」と涙を流して大反省し、「もつと精神的にも科学的にも大発展を遂げるように挙国体制ならぬ挙地球体制で努力してゆこうではないか」と一大覚醒をとげるようになるのです。

これは幕末にアメリカから渡航してきたペリー艦隊の黒船を見て日本中がひっくり返るほどにショックを受けて、「日本はなんとという後進国であったのか」と悟って怒濤のごとき改革の機運が生じたのに似ています。

しかもこの宇宙的覚醒は遠くない未来に実現すると私はみています。私の推測では、西暦二〇二〇年から三〇年

頃に、太陽系の別な惑星に大文明が存在することを地球の大国政府が発表すると思っていました。これはもつと早く、二〇一〇年頃に発表されるというのを秋山氏から聞いています。あと一八年ぐらいいですね。

マイクル・コリンズの言葉

実は大國政府はすでに別な惑星群に大文明があることを以前から知っていたのですが、それを隠していたというのが真相です。それで、来世紀に入ってから地球外文明の問題が一般で騒がれるようになるために、大國政府もこれ以上隠蔽しておくわけにはゆかないということで発表するようになるのだらうとみています。

最近もアメリカは火星に向かって無人探査機マーズ・オブザーヴァーを打ち上げました。これは来年八月に火星に到着して、それから一年間、火星の周囲を回りながら地表を観測するのですが、この探査機が何か非常に重大な結果を出すだらうと思われまます。

ところが、アメリカは一九七六年に火星探査機ヴァイキングを送って、火星の地表に到着させ、火星の二カ所の土を採取したのですが、その結果、生物は存在しないというふうを発表しました。そこで世界中の人が火星は無人の惑星だと思込んでいます。

一般の人は「科学」という言葉にす



▶マイクル・コリンズ

ごく弱いんです。「これは科学的に調査された結果だ」と聞いたが最後、それを神様の宣託のように信じ込んでしまっています。まさに「科学」という言葉は神でもあるし悪魔でもあると言えますね。なぜなら、この言葉を使って人心をどのようににも操作することができるからです。もちろん操作しているのは政府であって科学者ではありません。そうすると本当の悪魔は政府だと言えるかもしれません。どこの政府か知りませんがね。

しかし、それでも科学そのものは非常に重要です。科学が停滞したが最後、人類は破滅するでしょう。

火星探査機ヴァイキングの話にもどりますと、火星の土を採取した結果、生物は存在しないという結果が出たことについてこういふ話があるんです。人類が最初に月面に降り立ったのは、

一九六九年七月一六日にケネディー宇宙センターからアポロ十一号宇宙船で月へ行つた宇宙飛行士のニール・アームストロングとエドウィン・オールドリン、それにマイクル・コリンズの三人です。コリンズは司令船で月の上空を回っていましたが、直接着陸はしなかつたのですが、そのかわりに月面をくまなく観察していますから、何かの異様な光景を見たかもしれません。

そのせいか彼は次のように言っています。
「もし異星人が（地球の）ゴビ砂漠の砂と南極の水だけで（地球に関して）結論を出したら、おかしなことになる（地球には人間がないということになる）」

これは、火星探査機が採取した土は生物の全くない土地の土にすぎなかつたので、もしほかの場所だつたら生物がいたかもしれないというニュアンスを含んでいます。言いかえれば宇宙飛行士コリンズ氏は、火星に生物がいることを仄めかしているような口ぶりなのです。

さらに氏はもっと重要なことを発言しています。

「しかし科学よりも大切なものは精神だ。月や火星を探索するとき、実は自分自身を探索しているのである」

これはまさに「UFO研究とは人間研究なのだ」という私の特論と全く同じではありませんか！

ここにおいて、私たちは科学という言葉で盲目になるのではなく、むしろそれを生かすための精神世界の探求に入る必要が生じるわけなのです。

だからこそ私たちはジョージ・アダムスキーの宇宙的な素晴らしい哲学や生命科学の研究を積んでいるのです。

佐々木八郎氏の素晴らしい体験

それではこれからアダムスキーの哲学の探求に必要な事を申し上げます。

まず、アダムスキーの「超能力開発法」と「生命の科学」は、絶対に宇宙の真理を述べたものであると断言しましょう。

それは人間を真実宇宙的に仕立てるための法則を説いた書物でして、単なる観念論ではありません。その証拠にアダムスキーの超能力開発の方法を実践して、素晴らしい能力を身につけた人がGAP内部に何人かいるのです。

たとえば、これは今月刊行予定のユークン誌一一九号に掲載される記事なのですが、東京にお住まいの佐々木八郎氏の記事で「私の超能力開発体験と異星人女性との出会い」という非常に興味深い記事が出ています。このことは先月の東京月例セミナーで簡単に話したのでありますが、GAP会員にとつては非常に重要な有益な内容です。くわしいことは今度出るユークン誌一

一九号をお読みになるとよいのですが、ここで少しお話ししましょう。

結論から言いますと、佐々木氏は長年のあいだ、アダムスキー哲学を実践し、さらに超能力開発のための練習を倦まずたゆまず続けた結果、オーラ透視力とテレパシーの力を身につけたのです。しかも街を歩いていても、オーラによってスペース・ビープル（異星人）を見分けることができるようになったというわけなのです。したがって、すでに何度か異星人を見かけているようですが、こちらからは呼びかけないようになっているそうです。それは相手にとつて迷惑ですからね。

ところが今から七年ほど前に、都内のある書店に立ち寄つたところ、そのレジの所にいた一人の従業員の若い女性のオーラが身長三倍もあるような物凄くオーラで、しかも色は黄金色が主体になって燦然と輝く素晴らしい現象だつたために、一目見てこれは異星人だと気づいたというわけです。

それからは何度もその書店に立ち寄つてみるのに、その女性を見ると、やはり同じ凄くオーラが見えるため、本を買わなくてもそこへ立ち寄るのが楽しみになつたというわけです。

その女性というのは、一見して全くの日本人タイプで、見たところ年齢は二五〜六歳、すごい美人ですが、さらに身に着けている服装のセンスが素晴らしく、靴の色までが服に合わせてあ

り、その服の上から従業員用のエプロンをかけているのです。

あるとき佐々木氏がその店に入つてある本を探そうとしたのです。そこで、同氏はテレパシーでその女性に「一緒に探して下さいませんか」という想念を送つたところ、その女性から「探して下さいませ」という返事がテレパシーで送られてきて、佐々木氏のそばへ来てから探してくれただけなのですが、結局見つからなかつたということです。

その女性は日本語はもちろん日本人と全く変わらないように話す人で、特に佐々木氏が店に入つたときは、「いらっしゃいませ」「毎度有難うございませ」などと非常に丁寧に挨拶をしてい

「佐々木氏が出会つた異星人女性が勤務していた書店。現在その女性は、いない。」



たそうでした、非常に親切な明るい人だったということです。佐々木氏以外のお客さんにはさほど丁寧ではなかったようです。

あるとき、佐々木氏がその店に入ってから出たあと、付近の喫茶店に入って、テーブルについてから、その女性にテレパシーで「今忙しくなければ、ここまでいらっしやいませんか」と送信したら、まもなくその女性は来たそうです。そして同氏の座っているテーブルの前には来ないで、すぐ近くの別なテーブルについたので、よく見るとなんとなく悲しそうな顔をしているので、これはまもなく別な惑星に帰るのだなと思っていたら、その女性から「私は帰ります」というテレパシーが来たそうです。

どこの惑星かは聞かなかったそうですが、金星の湿潤な光景が浮かんでいたので、これは金星人だなということがわかったということでした。

以上は佐々木氏の体験の一例です。

まだほかにもいろいろと異星人を見かけた例があるようですが、佐々木氏は非常に謙虚な方です、自分から得意になって体験談をするような人ではありませんで、以上の話を原稿に書いてもらうのに、私も何度となく催促をしてやっと思ってもらったような次第でした。つまり異星人に関することはなるべく他人に喋らないほうがよい、喋ると異星人の方々が迷惑するからと

いう考えに徹しているわけなのです。こうした秘密を保つという強固な精神が非常に重要なようです。

練習を続けることが最大の秘訣

さて、以上の佐々木氏の例からみてきわめて重要な教訓が与えられていることがわかります。それは、超能力の開発には徹底的に毎日のように練習を続けなければだめだという教訓です。

佐々木氏の話によりますと、絶えず練習が出来るようにESPカードまたはトランプその他の材料や器具を常時手元において、暇さえあればそれを取り上げて練習をするということが大切だということです。ESPカードはGAPで頒布していますから、それをポケットに入れておいて、電車の中とか仕事の昼休みなどの余暇があるときには、すぐに取り出して練習を行なうのです。

練習法はあのカードに説明書がついていますから、それを読めばわかります。一人で練習するときには、カードをよく切っておいて、裏を手前にして、表側の図形を透視する練習をします。佐々木氏もこれをよく練習したようですね。

ESPカードぐらいで超能力が出るのかなと疑問をもつ人があるかもしれませんが、それはやらないよりも実行するほうが、はるかによいのです。そ

のようにして少しずつでも絶えず自分の感知力を磨いてゆくといいことが重要なのです。これは自動車の運転練習と同じです。運転能力は誰にも内在しているのですが、実際にハンドルを握って練習をやらないと、その能力は出てきません。毎日少しずつでも運転の練習を続けていきますと、必ず上達してきます。

それは人間の体には馴化作用という機能が内在しているからです。つまり物事に慣れる作用です。超能力の開発もその「慣れ」によって行なわれると考えられるのです。

自動車の運転の習熟には知能の高低が関係ないのと同様に、超能力の開発にも知能は関係ありません。とにかく毎日バカみたいに続けることです。そうすると、今まで眠っていた特殊な機能が目を覚まして、少しずつ超能力的な力が出てきます。これは続けることによって出てくるのであって、続けなければ永久に出てきません。

本日はあとでテレパシーの練習を皆さん全員で実習して頂きますが、これはあくまでも練習の意欲を起させるために行なうのですから、ここで一回練習しただけで、全員に俄然テレパシー能力が出てくるようになるというわけではありませんので、その点をご了解下さい。

あとで行なうテレパシー練習で高得点を出された三名の方には賞品を差し

上げますので頑張ってください。

願望を実現させる方法

次にGAPでは昔から願望を実現させるための魔術的方法として「ミラクルワード」と「ミラクルイメージ」という方法を応用します。

これはすでにご存じと思いますが、ミラクルワード (Miracle Word) というのは「奇跡を起こす言葉」という意味で、ミラクルイメージ (Miracle Image) というのは「奇跡を起こすイメージ」という意味です。

しかし普通はこの英語の代わりに、「反復思念」「イメージ法」とも言っていますが、どちらでもよいでしょう。

自分が何かの望ましい物事を実現させたいと思えば、その物事がすでに実現してしまった状態をイメージとしてハッキリと心の中に描きながら、「この事は必ず実現する!」という言葉は何度もくり返すのです。そうすると、いつか思いがけぬときに、その望ましい物事がポカッと実現して驚喜することになるのです。

〇ノ町夫妻の奇跡

これに関する実例は今までずいぶん紹介してきましたが、実は未発表のある素晴らしい話があります。この記事も次のユーコン誌(一一九号)に掲載

しますので、それをお読みになりますと、詳細がよくわかるのですが、ここにかいつまんで申しますと、大阪支部会員で口ノ町一男氏という方がいらっしやいます。

この方の奥さんの敏子さんがエヴァンズ症候群という難病にかかって、もう助かりそうもないという重体におちいったのです。それで、私に相談してこられたものだから、私もなんとかして助かるように援助してあげようと思ひまして、ミラクルワード、つまり反復思念とミラクルイメージ、つまりイメージ法を応用するようにと、いろいろアドヴァイズしましたし、スペース・ピープルの方々にも送信して援助を求めたり、さらに秋山氏にも頼んで遠隔思念してもらったり、なにやらかやらで応援したわけです。

そして根本的には、口ノ町氏と奥さんによる「必ず治る！」という反復思念と治ってしまったイメージを描き続けることを強烈に実践したのが功を奏したとみえて、治りかけてはまたブリ返すという状態をくり返したのですが、結局治ったのです。これは奇跡的とか言いようのない素晴らしい実例です。しかも奥さんが入院中には、UFOが出現したり、あるいは横文字の「E」という字が空に逆向きに出たりして、不思議な現象が次々と起こったのです。

Eという文字の逆向きは何を意味するのかという問い合わせがあったもの

ですから、それはたぶんEの症候群の頭文字が逆向きになったのだから、病気が良くなるという意味だろうと言ったのですが、もつと不思議な現象はあるとき口ノ町氏が奥さんが入院しておられる病院の病室の前に入ったら、向こうから誰か人の声が出て、二人で話しながらこちらへ来るのだそうですが、それは声だけで姿が見えない状態だったようです。しかし口ノ町氏はその声に聞き覚えがあって、「これは秋山さんだ」と思ったそうすね。

すると、その二人の話し声はずっと移動して、奥さんの病室の中へ入って行ったというのです。

ところが、それからまもなくして、東京の私が病院へ電話をかけて口の町氏を呼び出してもらって、「先程また秋山氏に会って、奥さんの病氣のことに ついて話しあったところです。必ず良くなりませうから、心配する必要はありません」と激励したのです。

そこで口ノ町氏は大いに驚いて、先程の二人の男の声は、秋山氏と久保田の二人が話し合う声だったのだと気づいて大感動したということでした。

これはたぶん私と秋山氏の想念波動が一種の声となって口ノ町氏に聴こえたのだらうと思います。科学的には解決のつかないことですがね。二人の霊が大坂まで行ったはずはありません。

私も秋山氏もその日はずっと東京にいたのですからね。

とにかく口ノ町氏はすぐに病室へ入って行って、昏睡状態の奥さんの耳元に口を寄せて、「今こんな不思議な素晴らしい事があったんだ」と話して聞かせたそうです。奥さんは眠り込んでいますから、旦那さんの話は聞こえないはずですが、そこはすぐれたGAP会員の口ノ町氏のことですから、奥さんの内部の意識に話して聞かせたというわけです。たぶん奥さんは確実に聴いていたでしょう。

そういうわけでして、この闘病物語は数年間にわたってアダムスキー哲学を猛烈に應用して、その結果、奇跡的に全快したという素晴らしい実話です。ですが、何よりも口ノ町氏ご夫妻の美しい夫婦愛というものに私は打たれましたね。夫婦というものはこれだけなくてはならないと心底から感動した次第です。ケンカばかりやっている夫婦とは全然違ふんです。

今年五月に大阪支部大会がありました。私は翌日の観光のときに奥さんの敏子さんに会いましたが、二年前に病氣中に会ったときは別人のように健康になり美しくなっておられましたので、私はびびりして、人間はこうまで変わるものかと驚いたのです。

バックスターの植物実験

そういうわけでして、先程の佐々木氏のテレパシーといい、口ノ町氏のア

ダムスキー哲学の應用で難病を克服された実例といい、とにかく人間の想念が波動となって空間を伝播するという現象は間違いないことだと断言できます。

それは人間ばかりでなく、植物も人間の想念感情を感じて反応を示すという実験が昔から行なわれていました。たとえば、これは有名な事ですが、一九六〇年代に、ニューヨークにクリュー・バックスターという科学者がいました。この人はウソ発見器を使用する検査官養成所で指導をやっていた人です。

ウソ発見器というのは正式にはポリグラフといいますが、この電極を人間の皮膚にとりつけて、犯罪人にドロを吐かせるように工夫されたものです。

つまり人間の神経活動は電氣的なもので、心が動揺すると発汗活動が増大して皮膚表面の電気抵抗を弱めるために、生体電流が増大しますから、その原理を應用して、人間の体に電極を取り付けることにより、電流の強弱につれてガルバノメーターと呼ばれる計器の針が揺れるようになっていきます。したがって犯罪人が取り調べられるときに、隠していた秘密を突かれると心が動揺しますから、針が大きく揺れて、ウソがばれるというわけです。

あるときバックスターは、フト思いつたって、植物がこの機械にどのような反応を示すか試してみようと、室内に

あつた鉢植えの熱帯植物のドラセナという樹木の葉に電極を取り付けてテストしたのです。

どういふふうにしたかといいますと、バックスターは電極を取り付けている葉をマツチで焼こうとしたんです。すると針が大きく振れたのです。そこで今度は葉を焼くつもりはないのに、わざと焼くようなふりをしてみせたら、針は全然振れなかつたというわけなんです。その他、バックスターは植物を対象にして、ずいぶんいろいろな実験を行なつた結果、植物は人間の想念感情を確実にキャッチする能力を持つという事実を確証しました。

これは世界的に有名になりまして、各国でも追試が行なわれており、バックスター効果という名称で知られています。

バックスターは植物ばかりではなく、いろいろな試料で研究して、その結果次のように言っています。

「知覚力は細胞レヴェルで停止するとは思えない。それは分子、原子、さらに原子の構成要素にまでさがっていくかもしれない。これまで因襲的に生命なきものとみなされてきたあらゆる種類のものは、評価し直される必要があるだろう」

これはまさにアダムスキーの『生命の科学』と全く同じことを言っていますね！ つまり原子核の中にスパーク（活気）が存在するというアダムスキ

ーの説を見事に裏書きしていると言えます。また、私は、あらゆる無生物にも意識があるとよく言いますが、これも裏書きされていることになりました。

とにかく、バックスターはESPまでも深く研究して、テレパシーの分野まで探求していたことを私は最近読んだ書で知って、ド違い人物がいたものだと思銘を深めたしだいで。

以上お話ししましたクリュー・バックスターという人の研究に関する詳細は、工作舎という出版社から出ている「植物の神秘性」という本に出ています。アメリカで出た書物の翻訳書ですが、科学の先端をゆく偉大な先駆者たちの研究について述べられた素晴らしい書物です。一度お読みになるとよいでしょう。特に植物の栽培をしておられる方の必読書と言えるでしょう。六〇〇頁もある大部な書物で、定価三八〇〇円ですが、それほど価値はある非常に宇宙的な内容です。

必ず成功させる 魔術的な言葉

とにかく、人間ばかりか植物までが意識をもち、波動を感じるといふことは、科学的にみても間違いないことです。日本GAPを非科学的だとか宗教的だという人は、私たちが時代をはるかに先取りした研究を行ない、また自分たちで実践しているのだという事実をご存じないからですが、それはま

あ、いいでしょう。

私たちは他人の批判などに左右されることなく、とにかくアダムスキー哲学の実践とその業績をあげればよいのです。そうすれば何事にも失敗することはないでしょう。そして実際にそのような成果をあげている人たちがいるのですから、それを見習えばよいのです。

それには例の有名な言葉を引用しましょう。『第二惑星からの地球訪問者』に出てくるGAP内で有名な言葉です。「私たちは遠い昔、信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力を学びました。昨日失われたゴールは明日取り返すことができます」

どう考えても、確かに、これほど勇気づけられる言葉はありませんですね。この言葉は私が翻訳したのですけれども、素晴らしい言葉だと思つて、自分でいつもこれを思い出して自分自身を勇気づけています。もとの英文ももちろん知っていますが、やはり日本語で唱えるほうがピンときます。そして、この言葉を唱えるときには、その波動がスペース・ピープルの方々にも届いていると思ひます。

それを唱えるときには、どういふふうによいのかといふことは、どういふふうによいのかといふことは、絶対にあきらめない力に満ちている！」と心の中で反復思念すればよいのですが、そのときは大宇宙思念法の姿勢

で行なうとなおよいでしょう。

大宇宙思念法の実習法

これから大宇宙思念法を実習しますが、これは絶対に宗教とは関係のないもので、自分の内部の宇宙的なパワーを強化させるための思念法にすぎません。

非常に簡単な方法ですが、しかし実は簡単な方法に最高の意味と効果が含まれているのです。したがって、皆さんが、絶えずこの方法を続けてゆかれますならば、素晴らしい効果が出てくることを保証します。

病気の方はこの思念法を行ないながら、自分の全身に宇宙の生命エネルギーが満ちていると念じますと、次第に病気は消えてゆくはずですよ。それを絶えずくり返すのです。

何かの願望を実現させたい方は、この瞑想を行ないながら「何々は必ず実現する！」と思念をし、同時に実現してしまつたイメージを心の中に強く描きます。そうすると、求めているものが引き寄せられてきます。強力な想念を発するのですから、それに感応して目的物がやって来るか、または自分の方へ行くのです。

今のところべつにとりたてて願望はないという人は、大宇宙思念法を行ないながら心に念じる反復思念としては、先程申しましたように、

「私は信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力に満ちている！」と唱えるようにしよう。

そうすると凄く自信に満ちた人間になりますし、恐怖心や不安感から解放されて、スカッとした心身ともにさわやかな状態になります。それは結局、自分を良い方向に向かわせることになります。悪い事は決して起こりません。良いカルマが形成されるのです。

それではこれから大宇宙思想を実習してみましょう。以前は大宇宙思想と称していましたが、瞑想という宗教的だと思われるために、今後は大宇宙思想と呼ぶことにします。

まず立ち上がり、背筋をまっすぐ

◀大宇宙思想の実習



に伸ばします。ただし固くならないように。両手を前の臍(へそ)下丹田(たんでん)のあたりで組みます。そして息を鼻から少しずつ吸いながら、その息を腹の下へ落とし、腹を少しふくらませます。ふくらませきつたときには呼吸を止めて、そのときに「いま全身に大宇宙の生命エネルギー」と英知が満ちている。私は絶対に完全！、絶対に健康！、無限の能力が出てくるのだ！」というような言葉を心中で唱えるか、またはそのようなフイーリングを起こします。

息を止めている時間は五〜一〇秒、そして唱え終わったならば、静かに息を口から吐いてゆきます。吐くときには「有難うございます」と唱えます。

これを繰り返しながら約一〇分ないし、三〇分間続けるのです。正座したり特殊な座り方をする必要はありません。体の弱っている人は椅子に腰かけてもかまいませんが、体力のある人は立ち上がってまっすぐに立っているほうがよいでしょう。なぜならば、この直立によって、自分の体が、大宇宙の超巨大な柱になっているという雄大なフイーリングを起こすことが容易になるからです。

難病の方は、下腹へ息を落とすときに、大宇宙の生命エネルギーが患部に集中して、患部を吹き飛ばしてしまおうようなフイーリングを強く起こします。そしてそれを何度も続けるのです。健康な方が超能力を開発しようと思

えば、練習ももちろんですが、この大宇宙思想法を行ないながら、自分がテレバシー、遠隔透視、オーラ透視等の超能力を発揮しているイメージを強烈に描きます。

なんだ、これは気功と同じではないか、と言う人があるかもしれませんが、違います。私は気功をやったことはありません。これはあくまでも私自身で編み出した方法です。そしてこの偉大な価値を誰よりもよく知っています。

この大宇宙思想法をやっています、その間、人体から素晴らしいオーラが出ていることが確認されています。

あまりに簡単なので意外に思う人があるかもしれませんが、実は簡単な方法の中に本当の真理が含まれているというのを秋山博士が言っておられましたね。秋山氏はコンタクティとしても著名ですが(詳細な体験は拙著『UFO・遭遇と真実』に掲載)、超能力者としてもわが国有数の方で、米國から博士号を取得しています。

その秋山氏が中国で大超能力者の超光という先生に会ったとき、やはり臍(へそ)下丹田に生命エネルギーとしての光の玉のイメージを描きながら、それを全体に移動させる方法を用いていると聞かされて、簡単な方法に偉大な真理が含まれていることを実感したと話しておられました。したがって、やたらと複雑な体操や運動を行なう必要はないのです。もっとも、人間にはレヴェ



▶テレバシー練習。壇上の二人がESPカードの図形を一種類ずつテレバシーで送信し、全員がそれをテレバシーで受信する。

ルの差がありますから、ある程度の運動や行法を行なうほうが実感が湧くという人はそれでもよいでしょう。

アダムスキーはマインド(心)と宇宙の意識(生命のエネルギーと英知)との一体化を図るのに、特殊な行法は必要ないと言っていますが、これは戦後カリフォルニア州で乱立した怪しい新興宗教群の特殊な行法のことを意味しているのではないかと思います。

以上の大宇宙思想法を実習して素晴

らしい成果を挙げている人が少なからずいます。胃腸が悪かったのが良くなってきたとか、気分爽快になって良い物事ばかりが起こるとか、テレパシー能力が出てきたとか、さまざまです。皆さん方はぜひともこれを日常の習慣として続けられるとよいでしょう。何か良い事になるはずですよ。

ただしテレパシー、遠隔透視、オーラ透視等のいわゆる超能力の開発は、それなりの練習を続けないとだめですが、それらの練習と並行して、この大宇宙思念法を日常で行なうとよいのです。朝の起床時、電車やバスを待つあいだ、または仕事の合間、夜の就寝前等、ひまをみては行ないます。慣れてくると道を歩きながら行なえます。

要するに、この大宇宙思念法は、自分が大宇宙の中に溶け込んで一体化するためのフリーリングを起こすのですから、最高に宇宙的な思念法です。

「宇宙の創造主」の認識

世の中には多数の精神修養団体や求道団体があります。いずれもそれなりの価値があり、成果はあがっていると思いますが、惜しむらくは大宇宙と人間との関係を意識しているものは少なく、やたらと人間の頭の中の能力だけに言及している状態です。ましてや宇宙の創造主という概念を説いている指導者はほとんど見当たらないどころか、

そのようなものを否定している指導者もいます。これには問題があると思えますね。

私たち人間を育^つてくれているのは惑星であり太陽であり銀河系であり、その銀河系は無数に創造されており、そしてそれらは広大な宇宙の外側ではなくて内側に存在しているのですから、結局人間は宇宙に包まれており、宇宙と不可分の関係にあります。しかも宇宙は偶然に出来たものか、あるいはニージェが言うように「盲目的な意志によって創られた」ものとするれば、なぜ人間は理想的な物に向かおうとする意志を持つのか、という疑問が生じます。

しかし実は科学者で、宇宙の創造主の存在を認めている人が少なからずいるのです。創造主とは生命エネルギー（の根源なるもの）と英知以外の何物でもありません。こうした超絶的なものがなければ、こうまで整然とした大宇宙が創造されるはずはありません。

何もかもが偶然の結果で「盲目的な意志」で片付けられるような宇宙に我々が住んでいるとすれば、人間には理想も希望も何もなくなり、不安と恐怖にさいなまれて生きることになります。

そこでアダムスキーが言います。宇宙は一つの意識体であると。この「宇宙の意識」なるものは、創造主の生命エネルギーであり英知であって、大宇宙の万物を生かしているものであると。

ここにおいて私たちには無限の喜びと希望がわき起こってくるのです。人間は盲目的な意志で生きているのではなくて、実はマインドだけで生きているために、盲目になっているにすぎない。宇宙の意識に気づいて、マインドをそれと一体化させるならば、無限の知識、力が湧き起こってくるのです。地球人はまだその「宇宙の意識」なるものに気づいていないだけだというのがアダムスキーの説くところですよ。

この「宇宙の意識」は創造主の別名です。したがって、創造主という概念を持たぬ限り、人間はいつまでも盲目状態から脱し切れないということになります。

この創造主なるものについて、以前秋山氏に会ったとき、氏がコンタクトしているスペース・ピープルは創造主についてどのような考え方をしているのか尋ねてみましたら、次のような話が展開しました。

「スペース・ピープルは次のように話しておられましたね。

「いまの地球人側からみた場合、たぶん創造主について創造するのには狭い限界があるだろう。それは非常に人間的な、いわゆる「神」のような存在だろうが、それでもいいだろう」と言うのです。

しかし彼らは創造主なるものを「超絶した意志」ととらえているようですよ。だからテレパシーの可能性から言えば、

人間は地球上のどこにいても、地球全体の意識を感じとれるわけです。そこで人間は宇宙に偏在するあらゆる生命体の意識を共有できるから、宇宙のどこに行っても創造主の慈悲が存在しているのだとスペース・ピープルはみているわけです。宇宙の果てまで行っても、どんな危険な惑星に行っても、どんな世界にも宇宙の意志があるということですよ」

この宇宙の意志というのは「宇宙の意識」と同じ意味ですから、アダムスキーと同じ理論になるわけです。

よく「宇宙意識」という言葉が聞かれますが、これはアダムスキーの言う「宇宙の意識」とは全然違います。

「宇宙意識」といえば、これは宇宙に対して人間の側で起こす意識ですが、「宇宙の意識」というのは、宇宙全体を意識体とみた宇宙側の意識であって、いわば創造主または神というのと同じです。したがって「の」の字があるのとないのとでは完全に意味が違いますから、その点をご注意下さい。

要約しますと、地球人は視覚や聴覚などに振り回されてマインド（心）だけで生きていくけれども、スペース・ピープルは自己の内部に宿る「宇宙の意識」と一体化しているために、テレパシー、遠隔透視その他の超自然的な能力が身につけており、物凄く高度な精神的科学的な文明を築いているというわけです。



▲左上より篠芳史司会者、テレビシー最高得点者・林国宣名古屋支部代表（左端）、大夕食会における高梨和明（ZU支部代表の乾杯音頭、伊東芳和氏のビデオ撮影（右端）。右上より久保田会長（左より2人目）、大阪支部の集い、名古屋支部のメンバー、東北方面の有志。 撮影／松村芳之

Two Space People's Advice
by Toshiaki Tsuji

二人の異星人からの忠告

辻 俊昭

驚異的な予言と忠告を残して去つた二人の不思議な行動！

かつて私を訪れてくれた二人のスペース・ピープルについてお知らせします。この報告はもつと早く出すべきだったかもしれませんが、遅すぎるといふことはないように思っています。最初から二人は許してくれているのですから――。以下、一読頂ければ幸いです。

土星婦人と金星の男性の「インタヴュー」

一人は一九七四年九月一二月の間に五〜六回合うことのできた女性で、土星から来ていた方です。日本名は山本佳与さんといひます。

もう一人は一九七六年頃、短い期間でしたけれども、話をする機会があった方で、金星から来ていた男性。仮にAnson(オーソン)さんと呼ばせてもらひます。

二人をスペース・ピープルと明確に認められるまで一〇年以上かかってしまったのですけれども、訪れてくれた

様子を書いてみます。

都内のある画材店がやっていた絵画教室に私は七四年の九月に入ったのですけれども、私の入会と前後して入ってきたのが山本佳与さんです。

いつでも落ち着いた話し方のできる大人っぽい感じのする女性で、ある機会に自分の年齢を八〇歳台だと言っていました(土星における年齢という意味でしょうか。皆さんの前で何か説明があったように記憶していますが、ジョークとして受け取られたようです)。その当時の年齢好は二〇歳台後半ぐらいという感じでした。皆の前で土星という言葉を使ったかどうか私にはわかりません。とにかく日本人のなかにも、やや髪と瞳が茶系統だったような印象が残っています。

彼女はブラウス、セーター、長いスカート、ブーツ(?)というような、当時の流行のごく普通の格好をしてお

り、まあ、おしゃれだったのではないかと思います。

また、七六年の五〜六月頃と記憶している時期に、都内の美術教室主催のクロッキー会に土、日曜日を利用して行ったのですが、そのある日にアトリエ内で見かけて、帰り道の途中の喫茶店で二〜三分間ご一緒した方がいます。その人は金星から来た方です。三〇歳台前半といった年齢好に私には見えませんでした。

一見してアメリカ人だと思ひ込んでしまいましたけれども、陽気なタイプというより、どちらかというと、繊細な、真面目な、という印象がありました。背は一七〇〜一七五センチぐらいで、骨組みががっしりしていました。そのときの服装はチェック柄のワークシャツにベストを着ていたと思います。

高度な予知能力を持つ二人

さて、二人とも私に対して何かを伝えようとしていることは当時から自分なりに了解していました。しかし二人がスペース・ピープル(異星人)であること、また何を意図しているのか、ということまで含めて、理解するには長い年月がかかりました(長い間、考え続けていたという意味ではありません)。

では、なぜスペース・ピープルであることが判つたのかということでは

れども、これは①二人とも強い予知能力を持つこと。②本人たちがスペース・ピープルであることを認めていること。③アダムスキー氏の指摘に合致すること、この三点が主体となります。

まず予知についてですが、これは後に(二〇年以後)、あるいはそれまでの間においても、私の身辺に起こるであろうことを中心に、さまざまな事を情報として与えられたのですが、実際それらの事がそのとおりになつたということ。結婚、仕事、あるいは知人が目撃するUFOのこと等といった具合です。

二人はこうして正体を明かした

次に本人たちが異星人であることをみずから認めているというのは、次のような事情によります。

佳与さんは七三年一月に引越すという名目で絵画教室をすぐにやめたのです。これは実家に帰るといふ話でした。

出身地を聞くつもりで、どちらの方がなのかという意味の質問をしたことがあるのですか、このときに「サターン(土星)」と数回答えてくれました。

これは私にとつてその時点で理解できる会話ではありません(この当時、筆者はまだアダムスキー問題を知らなかった)。それ以前に予知的な話を聞かされていたため、留意し、記憶に残つ

たということですが。

もう一人のAnsonさんは見かけがい
わゆる西洋人でしたので、お国はどこ
からですかと聞きましたら、「ヴィーナ
ス(金星)」と答えていました。

しかし、こんなことを聞いても当時
の私に意の通じるわけもなく、これを
聞いて困ったことを覚えています。

彼との会話の中で、宇宙人がこの地
球にきているのか、いないのか、あな
たはどう思うかという意味の質問をし
たのに対して、「自分がその宇宙人だ」
と答えていました。証明する手立てに
ついては何も言うでもなく、「いざれ判
るから」という意味のことを言ってい
ました。

佳与さんもAnsonさんも、ともに自
分がスペース・ピープルであることを
認めてくれたのです。ついでなが
ら二人とも日本語は上手です。

アダムスキー氏が指摘している点に
ついてですが、二人に共通している点
は、静かな落ち着いた感じにつつまれ
ていたことです。また、共通して話を
交わしてみると、こちらの心を乱すこ
とのないようにながらも、しっかりと
と内面に入り込んでくるという独特な
気力を持っていました。

この、こちらの心の中に入ってくる
という感覚は、どなたでも体験すれば、
すぐ合点がゆくものです。

このような、私が感じたところのも
のは、アダムスキー氏がスペース・ピ

ーブルに共通の特徴として指摘してい
る箇所に一致するものです。

そのアダムスキー氏の残された文章
に接したとき、そのニュアンスがよく
判り、大変嬉しく思ったわけです。

これらのことから、私が出会った二
人が、少なくともアダムスキーのコン
タクトしたスペース・ピーブルの仲間
の方であることが私にはよく判ったの
です。

二人の驚異的な予知情報

私が聞かされた予知情報には、次の
ような特徴的な傾向があります。それ
は極めて限定的な話にとどめて私に伝
えてくるということですが。念入りな配
慮がうかがわれます。

たとえば八六年一月の大島三原山
噴火について、その映像を私がテレビ
ニュースで見たのですが、その際、島
の人々の避難が行なわれ、〇〇〇人が
無事に船で逃れたことについて、その
数字を彼は事前に言い当てています。
つまり新聞の記事の見出しに〇〇〇人
と載っているのを私が見たのですが、
その数字を予知として言っているわけ
です。

このように、私自身が見たり聞いた
り感じたりすることを事前に言い当て
るという方法をとっているのです。そ
の都度、私の実生活における、まさに
その瞬間の、この事について言ってい

たのかと思いがた、という具合です。
したがって驚異的ではありませんけれ
ども、驚いたのは私であって、予知の
事例をいくら挙げても、そこに意味は
生まれてこないのです。

そうすると、二人のスペース・ピー
ブルが意図したところは何かという
「真意を問え」いうことではないかと
思っています。

漠然とした言い方になるかもしれま
せんが、予知情報とともに私の人生が
終わるかのごとくに暗示を受けていた
のです。実際、八六年に私は体調を崩
す時期があつたのですけれども、その
時期に予知情報は集中しています。い
わば架空の苦境に立たされたわけです。
不思議な体験であると思っていまし
たけれども、同時に、より広範囲なり
アリエーがそこにはあるのです。私
は内省の時間が与えられ、その事はは
つきりと意図的なものであつたこと
今は感じています。

土星婦人からのメッセージ

佳与さんが引越してしまつたその
次の年(一九七五年)一二月頃に、
前年中に私から出した手紙に対する返
事の手紙を一通、彼女から受け取りま
した。その手紙には、私が注意を向け
ていかなければならない物事などに
ついて書いてありましたが、最後は次
のようにしめくくつてありました。

「あなた(皆様)の上に福音のおとず
れがありますように」

この「(皆様)」が文字どおり読者の
皆様のことなのですから、これは一〇
数年後に皆様へ届くはずの土星のある
女性からのメッセージなのです。

幸い訪れがありますように、私の
文章も皆様の目にふれて、どのような
意味においても、真実が共に獲得され
ることを願っています。スペース・ピ
ーブルの来訪という事実そのものが福
音なのです。

この私たちのいる宇宙の本当の姿を
認めること、真実に至ろうとする歴史
があること、自分というものの本当の
姿を知ること、これらのことがすべて
スペース・ピーブルの来訪という事実
に込められているのです。学ぶための
席はまだたくさん空いているのですか
ら、少なくとも静かに座ってみること
から始められるはずです。

〈辻氏から話を聞く〉

以上の手記が編者(久保田)のもと
に届いたのは昨年一月三日であつた。
過去数十年、UFO研究活動を続けて、
内外の無数のコンタクト体験記または
体験談に接してきた編者には、真実、
作り事、心霊的体験等を見抜く眼力の
ようなものが身につけてきているので、
一読すれば右のどれに相当するかは大
体に判る。

ただしニセ物語であつても本人に対する憎悪心は起こさない。客観的に心の片隅に蓄えておく。

右の辻氏のレポートを読んだときには、真実のコンタクトであるというフイーリングがわき起こつてきた。それで、もつと詳細を聴取しようと連絡して氏に会うことができた。

一月中旬、東京駅地下街のある喫茶店の片隅で氏と体面する。

背は高く、少し瘦せ型で眼鏡をかけた色白の氏から受ける印象は、編者の想像どおりの誠実な人柄を示していた。年齢は四〇歳、職業は模型製作の会社経営。氏は言葉を選びながら非常に慎重に語る。得意になつて軽率に喋りまくるというタイプとはほど遠い。

二人の先生に会うことになる

私がこうして久保田先生とお会いしますと、以前にAustin氏と会つたときのことを思い出します。なぜかといひますと、私が彼と会つたのは喫茶店で短時間話しただけなのですが、そのとき彼は、「将来、あなたは二人の先生に会うことになるでしょう」と予言したのです。それが今思い当たることになつたわけですね。

その二人というのは、一人は牧師の方で、もう一人は久保田先生のことだつたのです。そのときの相手の話し方は、私が何かを言うと相手も何かを言

うという感じで、一方的に話しまくるという感じではないんです。ぼつりぼつりと話す人で、その言葉を私がつなぎ合わせるという状態でした。そして「感謝する」とか「感謝される」とかそんなことを言っていました。それは今から一六年前のことです。そのときにAustin氏は先生から今回のお電話を頂けるといふことをすでに予知していたわけですね。

確かな記憶だけをたどる主義

一方、山本佳与さんに会つたのは、私だけが単独で会つたのではなくて、何人かの友達がいるのですが、皆さん方はみな結婚してたりして、現在は連絡がとれない状態です。これからは彼女を知っている皆さん方と連絡をとつてゆこうかと考えていますが、まず私がベースになるものを自分で作りたいて思っています。そのベースになるものがないと、言葉というものは一人歩きをして、私の体験を話すうちにどんどん実際とは違う内容になつてゆくかもしれないので、それが怖いんです。そういうことを考えてみたのです。

先日は私が覚えていた事柄を手紙にしてお送りしたのですが、一六〇七年もたつあいだに自分の内部で作つてゆく部分がないのかどうかといひますと、必ずしもないとは言ひ切れななと思うんです。そのことは私にわかりますの

で、記憶がはつきりしていないこととか、言つても意味がないなと思うことは私にわかりますので、私の方から「これは、はつきりしません」とか、「それはよく覚えていますが」と言うようにします。

不思議な住所の予告

山本佳与と名乗る女性に初めて会つたのは一九七四年のことです。その頃はまだGAPの会員ではありませんでした。その方は東洋人タイプの女性で、髪が少し茶系統であつたような印象があります。

年齢は二〇歳後半半というところでしようか、とても柔らかいもの静かな方で、大人っぽい感じでした。

当時の彼女の話では仕事についているといふことでした。それは、薬剤師とははつきり言いませんでしたが、薬品関係の仕事だと言っていましたね。背は高いほうです。一六五センチ以上はあつたでしょう。

当時、都内の自由が丘にあつた画材店で作つていた絵画教室に私は通つていたので、彼女もほんの短期間そこに来ていました。

そこは七時から九時まででしたが、夜の教室だったので。あるとき、教室が終わつて一同で外へ出たとき、坂になつていく小道があるんですが、そこで皆から離れて私と彼女と二人にな

る機会があつたんです。

そのときに彼女は名古屋の実家に帰るのだと言つていました。それで、皆で手紙を出すから住所を覚えて下さいと言つたんです。そうしたら「名古屋曲がる」と彼女が書いたんです。これでは住所になつていません。

これはあとでわかつたのですが、私が現在住んでいる所へ車で帰つて行くときに（七四年当時の辻氏の住所は現在とは違つている）、あるフランス料理屋の角を曲がつて帰つて行くんです。その料理屋の名前が「名古屋」というんです。そして、そのあとに現在の私の住所をそっくり書きましたね！ しかも現在、横浜に住んでいる地名はその当時にはなかつた地名です。まさに不思議な予知能力です！

百合の花の絵からオーラ

絵画教室は水曜日の夜のクラスに行つていたので、彼女は油絵を静かに描いていました。あるとき、私はデッサンをやつていましたので、うしろの方でイーゼルを立てて、描いていまして、彼女は百合の花が五本ほど花瓶に活けてあるのを描いていました。それが後ろにいる私によく見えるんです。私に見せるようにしていたフシがあります。

それで、よく見ると、彼女は百合の花のまわりに紫色でもつて、まるでオ



●マルドナドのUFO

1977年7月26日朝10時30分頃、ウルグアイ・マルドナド近郊を車でドライブしていたセルギオホ・オッタメンディ氏が、連続5枚撮影したUFO写真の1枚。船体は両凸の円板型。これが出現してから、疾走中のオッタメンディ氏の車を不可解なパワーでストップさせたという。

オーラのようなのを描いているんです。私には描いたように見えませんでしたね。

普通の人はそんな花のまわりに光の帯のようなものを描きませんし、その当時私はオーラというものについては知っていましたから、「それはオーラですか」と聞いたんです。

すると佳与さんは振り向いて、「あなたには、それが見えるのですか」と言いましたね。そういうことがありました。

とにかく彼女は無駄なおしゃべりをして、忍耐強く描いていました。二枚か三枚ぐらい仕上げていました。それで一二月後にそのアトリエ主催で展覧会が開催されたのですが、それに彼女は出品していました。

きびしい態度で叱る

その年の暮れに教室の先生の主催でクリスマス・パーティーをやりましたし、展覧会が終わってから打ち上げのパーティーと、二回ばかりやったのですが、どちらにも彼女は出席していません。

最初のほうは彼女の引越前からです。最初から参加して、みんなと一緒に楽しくすごしていましたね。クリスマスのはらは、あらかじめ参加すると彼女は言っていたのですが、そのときはすでに引越していたんです。でもパーティーには遅くなつてか

らひよっこりやってきたものですから、一同はびつくりしていました。

そのときにも面白い事がありました。ワインが私の前においてあるんです。そして彼女がすぐそばにいて、たまたま二人で話し合うことになったんです。彼女はお酒を飲まないし最初に言いましたから、そのときに私の前にあつた赤ワインを見て、それは何かと聞くんです。

これはブドウ酒だと言うと、彼女はイエスの話をしましたね。どのような話であつたかはよく憶えていません。それで彼女はちよつと興味をおぼえたようで、少しくれないかと言うので

そこで私がほんのちよびつと赤ワインを注いであげたら、それを飲みましたね。

そのあと彼女はすぐ席を立ちましたから、なんだ、彼女は飲めるのかと思つて、それなら少し注いであげておこうと思ひ、入れておいたんです。

彼女は席に帰ってきてから、それを見て、きびしい調子で私に注意しました。私としては親切のつもりで注いでおいたのですが、彼女は、さつき席を立つときに、もういらないと云つたのに、その約束を守らないで私が注いだというのがよくなかったようで、非常に真剣な調子で叱つたのですが、なかなか不思議な感じでしたね。それは、ワインがもつたいたない、と

いうようなことではなくて、二人の約束を守らなかったというのが大きな原因なのでしょう。とにかく、とても真剣な態度でした。私は奇異な印象を受けて啞然としたので、よく憶えています。

彼女の年齢の謎

彼女の年齢はよくわかりませんが、見かけ上は二〇歳台の後半といったところ。あるとき、みんなでレストランに入って食事をしていたときに、お互いの年齢や住所などを言つていたことがあります。そのとき、女性に年齢を聞くのは失礼だという考えが誰にもあつたのですけれども、誰かがなんとなく聞いたときに、彼女は八〇歳台だと言っていました。色が白くて、かなりの美人で、特に額の丸い端整な顔立ちです。そんな若い人が、もちろん、そんな年齢に見えるわけはありませんから、冗談を言つているんだと一同は思つたようです。

しかし、土星も地球も太陽のまわりを一周すれば同じ一年ということになるのですから、八〇歳というのは土星の本当の年齢なのでしょう。それとも地球の公転軌道に換算しているのでしょうか。

(アダムスキーの「第二惑星からの地球訪問者」によれば、進化した惑星の人々は病気にならず、体力が衰えない

ので、地球式に計算して数百歳まで生きるのが普通だという)

Auson氏の驚異的な予言

一方、Ausonさんの年齢は見たところ三〇歳台前半に見えましたね。瘦せた人で、背はかなり高いほうです。

その人は、例の絵画教室から佳与さんが去つて二年後ぐらいたつたときに、その教室へ現れたんです。一見して白人タイプの人ですから、いわゆる西洋人という感じなので、目立つわけです。それで私は珍しい人が来たなと思つて、その人を目で追つていたんです。その人は途中から入ってきて、途中から帰つてしまいました。

変な人だなと思つたんですが、私はそのときはちよつと絵を描くの気乗りがしないといいますが、引きずられるような調子で私も途中から出たんです。私一人だけ出たんです。

その日は帰ろうと思つて、駅の方へ歩いて行きました。ところが彼はしぶん前に教室を出たはずなのに、三〇四メートル先を歩いているんです。あれ、と思ひながら、ちよつと角があつて、私がかかと曲がつて行きました。彼は今度はなんと五メートル先を歩いています。だんだん手前に近づいて来るわけです。

不思議な人だなという感じがしましたが、ちよつと信号の所で彼が止まっ

て待っていますから、私は当然追いついて、目と目が合ったのです。

そこで挨拶をして、あなたはさっき教室にいましたねとかなんとか話しかけて、駅までは一緒の道ですから、歩いていきますと、「近くの喫茶店でちょっとお茶でも飲みながら話しませんか」と、向こうから誘いかけてきました。

そこは狭いパーラーで、テーブルは一つしか空いてなくて、周りがとてもうるさいガチャガチャした場所です。

私はホットコーヒーを注文したのですが、彼は何も頼まないんです。水だけでよいという態度でした。

日本語はとても上手ですが、ペラペラ喋るような人ではありません。非常に静かな、言葉を選んで話すような人です。

そのとき私は相手をアメリカ人だと思っていたのですが、「お国はどちらですか」と聞いたら、「ヴィーナス」と一言だけ言いましたね。そのとき私が思ったのは、「ミロのヴィーナス」という大理石像を連想して、そのような古代の彫像が出土する土地の生まれだと思っただけです。実際は英語で出身の惑星（金星）のことを言っていたわけですね。

そこで、「あなたは山本佳与さんという人を知っていますか」と聞いたのですが、相手は何も答えません。

駅まで行って、相手の名前を聞いたから、「あなたは私をAusonと呼ぶように

なるでしょう」と言うのです。そして結局そう呼ぶようになりました。

喫茶店では二〇三〇分間、いたのですが、けっこういろいろな問題について語りあいました。

幽霊というのは実際に存在するのかわかりましたら、存在しないと答えました。

宇宙人というのは地球にきているのか来ていないのかと質問しましたら、「自分がそうだ」と言うのです。

そのとき彼はいろいろと予言をしましたが、当時はそれを確認する方法がないものだから、何か確認するものがありますかと尋ねたら、彼は黙っていて、いざれわかるからと言うだけです。

非常に興味深いのは、そのとき彼は昨年の湾岸戦争のことを予言したのです。彼ははっきりと「ワングンセンソウ」と名前を言ったのです。それは私がかつて質問したからです。

つまり、近未来で大きな戦争が起こりますかと聞いたのです。すると彼は「湾岸戦争」と答えましたね。

場所は日本ですかと聞いたら、「日本ではないけれども、日本はお金だけは出しますよ」と言っていました。

今から一六年ぐらいい前のことです。そのときは何のこともやらわからず、全くふにおちない状態でした。しかし彼の予言どおりに戦争が起こったので、すから驚くべき人物です。

急に消えた彼

私は佳与さんに会った時点と、次にAusonさんに会ったときのあいだぐらいいのときに、アダムスキーの本を読んでいます。それは文庫本で出た本でした。しかしGAP会員になったのもっと後です。GAPの存在は知っていません。会員になったのは五、六年前です。

Auson氏の予言としては、私が将来において二人の「先生」に出会うと言った件は前にも申しましたが、一人は私が行っている教会の牧師さんで、一人は久保田先生です。ただし私はクリスチャンではありません。

その他の予言としては、今私の所で部下として働いている人間がいますが、これが横浜の緑区でUFOを目撃しているんです。たぶん七八年頃のことですが、その事もAuson氏が予言していました。

彼は私の「部下」という言葉も出していましたし、とにかく私が知っている人間が、「自分の(Auson氏の)知り合いを見るんだ」と行っていましたね。UFOを見るんだとは言わないんです。

彼と一緒に電車で帰るときに、乗り継ぎ駅で私が降りたんです。彼が何も言わないで座っているのですから、一緒に降りてくるのかと思っただけ降りたんです。そしてホームに立

って、ついて来ているのかと思っただけ戻したら、いないんです。

そこで、彼はそのまま電車に乗って行くのかと思っただけ、挨拶をしようとして電車の中をのぞいて見たんですが、車内にはいなかったですね。空いている電車ですから、見落とすということはないんです。これはいまだに不思議です。

世にも不思議な手紙

先程の佳与さんの話にもどりますと、彼女が引越すというので、皆で住所を聞いたのですが、これはあとで手紙を出そうという気があったからです。それで一応名古屋の住所を教えてもらって、彼女がいなくなつてから、教室の先生やら同期生の女性たちが何人かで名古屋宛に手紙を出したんです。

ところが二人の人が出した手紙は住所不明という理由で返送されてきたものですから、二人とも怒っていましたね。

ところが大変不思議なことがあったのです。というのは、私が出した手紙は返送されなくて、年が明けてから、春先の頃に返事が来ました。

それは普通の封筒に便箋で二枚か三枚ぐらい書いてありましたが、非常におかしな状態で来たのです。普通ならば手紙というものはきちんと宛名と住所を書いて、切手を貼って出すもので

すが、私に来た彼女の手紙には、こちらの住所が書いてないんです。封筒に名前だけ書いてあって、しかも切手が貼ってなくて、郵便局のスタンプだけが押してあるんです！ こんな不思議なことがあるでしょうか。

手紙の文章は普通の漢字と平仮名できちんと書いてありました。それは前に私が出した手紙に対する返事として、内容は私に対するアドヴァイスが二つほど述べてありました。それは次のとおりです。

①あなたは大きい所へ目が行きすぎます。大きな高い所だけ見ないで、もつと自分の日常生活の身近な、どんな些細な所でもよいかから目をそいで、あなたのすぐ近くにいる人からでも、学んでゆける事が沢山あるのですから、そこから学んでゆきなさい。

②あなた（皆様）の上に福音のおとずれがありますように。お仕事で頑張ってください。

結局これは、将来私が書くであろう文章を、そのとき彼女が書いたという構図ですね。

要するに二人の異星人は私に関して未来をすべて見透して、なんらかの示唆とレッスンを与えてくれたと思っ
ています。彼らの予言は、後になってすべて実現しています。全く驚異的な予言でした。

編注

以上の記事中で辻氏がAdamson（オーソン）と名づけた異星人は、アダムスキーの書物に出てくるオーソンとは全くの別人である。したがってアダムスキーが会ったオーソンと呼ばれる人物に再度辻氏が会ったというわけではないので、この点を混同しないようにする必要がある。

辻氏の体験からもわかるように、現実には意外に多数の異星人が地球へ来ており、地球人になりすましてこの世界でなんらかの仕事にいたり研究に従事したりしているといわれている。その目的は地球の現状を研究調査して、結局は地球世界の進歩向上に対して密かに貢献することにあるという。

しかし一般地球人はこのような実情に全く気づかず、夢想だにしない。それはある意味では彼ら異星人にとつて都合が良いのかもしれない。

アダムスキーの説明にもあるように、我らの太陽系の諸惑星から来る異星人は、体型や外観が地球人と全く変わることはなく、同じような肉体を持ち、同じような生活行動をなすので、日本名を名乗って達者に日本語を話せば、周囲の人には全く判らない。

しかし彼らは驚くべき予知能力、テレパシー、遠隔透視その他の能力を駆使するので、辻氏のごとく彼らから目をつけられた特殊な人は、やがて相手の正体に気づくようになる。

日本GAPへはいりませんか

★UFOと宇宙哲学研究世界トップクラス大集団★

●日本GAPは1961年にUFO研究者・久保田八郎がジョージ・アダムスキーの要請によって設立した世界屈指の研究集団。会員数は現在約1600名。中学生以上なら入会可能。

●専門誌『UFO contactee』を年4回発行（1、4、7、10各月）会員に直送。UFO出現事件、異星人コンタクト事件、超能力開発法、宇宙科学、宇宙哲学等多岐に渡る記事と珍しいカラー写真を満載。興味本意を避けて読者に大いなる希望と勇氣とビジョンを抱かせる有益な啓蒙的内容。

●東京本部と17箇所の地方支部が毎月月例セミナーを開催。これは会員による研究発表、会長の『生命の科学』解説講義、テレパシー開発練習、質疑、その他のプログラムにより真剣でしかも非常に和やかな雰囲気のもとに過す充実の日。

●本部と各支部は独自の計画によりUFO観測会を開催し多大の成果をあげており、これらは本誌に逐一掲載される。

●毎年秋に東京で総会を開催、海外より有力なUFO研究者を招待して講演、スライド映写等によりUFO問題の研究報告を行ない、夜はホテルで大夕食会を開催、旧交を温める。

●各地方支部も数年に一度、大会を開催し、会長の講演によるセミナーを実施。その他支部独自で各種の行事を行なう。

●毎年8月に古代の謎の遺跡を探る海外研修旅行を実施。

●会費は年4回発行の機関誌代として年会費¥4300（総料共）。6回分¥6200、8回分¥8000、10回分¥9900。入会金不要。

●入会案内書入用の方はハガキで下記へお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP

辻氏がなぜ彼らの注目接触的にたのか。たぶん氏の有する過去世からのカルマを彼ら自身が知っていて、氏の針路に対して示唆を与えたものだろうと推測する以外にはない。このような実例は他にもいろいろある。

態度を必要とするという点である。そのようなレヴェルが異星人に接近するための重要条件なのだろう。

異星人問題に関する詳細はジョージ・アダムスキーの体験の集大成である『新アダムスキー全集』全一〇巻に詳述してある。これを読めば異星人の実態はすべて理解できるし、我々の生き方に関する示唆もある。

●秦野市のUFO

1982年8月29日夜、神奈川県秦野市の橋窪台地で日本GAP東京本部が主催したUFO観測会の開会式を夕方6時30分より実施中、この光景を松村芳之氏が撮影した写真中の右上に光体が写っていた。当時の天文学的な状況からみて月や恒星、惑星等でないことは確か。秋山眞人氏の超能力鑑定によるとUFOであるという（矢印）



テレパシーで 植物を動かす方法

人間の想念に応答する植物の驚くべき実態

★ 遠藤 昭 則



菊花展の花が動いた！

同僚数人と菊花展を見に行ったときのことである。

大きな五重の塔の形に菊が作られているのがあった。それはもちろん根がある、高さ二・五メートルはあろうかというものだ。

たぐさんの黄色い花があるのだが、私が見つめている一つだけが、揺れていた。山に登ると、一枚の葉だけが風に揺れているのがあるが、あのような動きとは明らかに異なっている。「これが感受性というのかもしれない



▶動いた菊の花

ね」と言っ、他の一輪を見ると、それは始めに少し動いて止まってしまった。焦れば焦るほど動かない。心を静めて始めの一輪を見ると、始めのははつきりとうれしそうに動いた。花によって動きやすいもの、動きにくいものがあるのだろうか。

とにかく、これを見ていた同僚は、花って動くものなのかと感動していた。

花への愛

アダムスキー氏の書物の中でも『生命の科学』は、晩年の一年前の書物として、スペース・ビープル（異星人）からの知識が多く網羅されているといわれている（中央アート出版社刊・新アダムスキー全集第三巻）。その中でも

第七課には次のようなことが出てくる。「だれでも美しい花を愛するので、ここで花を例にあげました。花にたいするあなたの愛が、自分にたいして持っているのとひとしいものであって、また他人の英知を認めるのと同じようにリングを持つてしっかりと花の英知を認めるならば、花は応答するでしょう。花に向かつて、

「顔を左右に動かしなさい」

と命じるならば、この応答を見ることでできます。その花が太陽に従うのと同様にあなたの指示に従うからです。しかしその場合、あなたは英知ある物体に意識でもって話しかけているというのを常に記憶していなければなりません。

ひとたびあなたがこれを達成したならば、あなたは心を意識に混和させたのみならず、記憶をも培養していることとなります。そしてここからあなた自身は拡大し始めて、万物の中にある宇宙の意識を認めることによって、生命ある万物を自己の中に包容することになります。そしていままで知らなかった生活の他の半分を体験するでしょう」

花が首を振る？ 人間とは違って意識のない植物が？

と思っっている方は考え方を一八〇度転換した方が良さそうである。「植物の神秘生活」（ビーター・トムプキンズ・クリストファー・バード著、新井昭廣

訳。

工作舎)には、植物は生きており、人間のようには想念を感受し、またフィリングを発し、そして人間の筋肉のような運動をすることなどが無数の実例とともに詳細に述べられている。

葉や枝も応答する

楓の葉、行田公園。私の家から自転車で五分くらい先の所にある、学校のグラウンドの三倍以上はあるような、林と広場からなる、すがすがしさを感ずる所。休日の朝は雨が降っていないければ出かけて行って体操をしている。

木々の心地よい波動を感じ、その形の美しさに見とれ、木々と語り合う。そんな朝は心がリラックステして、一週間の疲れを洗い流してくれるようだ。しかし今朝は何か違っていた。気持ちが良いので公園の周囲を自転車で一回り、二回りして中央の広場が見える所に出た。遠くには赤や黄色の色をした葉がたくさん見える。

楓の葉。風にゆつくりと横に揺れていた。私が近づいて葉を見ると、それらがたぐさんの子供たちのように見える。どの子も、わいわいと顔を近づけてくるようであらしい。

ふと我にかえって葉を見ると、葉は風にそよいでいるのではなくて、私の顔に向かつて、それらを支えている枝ごと、ぐわん、ぐわんと私の顔に近づこうとしているではないか。



▲上は船橋市の行田公園。下は楓の葉。

こんにちは！とか、首を横に振って下さいとかという言葉は思わなかった。ただ、ただ、何か私の視線に感じて動いてくれたような気がする（ちなみに私は、他の惑星の人々の宇宙船に呼びかけるときには、言葉ではなくて、自分の視線のようなもので呼びかけてきた。私の場合は、その方が充実感があるのだ）。

たくさんの楓の葉。まるで幼稚園児の顔、顔、顔のようで、大きなフィリングが全身にわき起こる。

そう、植物は私たちが呼びかけねば動かないものと思っていた。でもそれは違っていた。植物は人間が好きで、目の前に来てくれた人に対しては、小さな子供が親を見て喜ぶように喜び、声なき声、印象で語りかけてくるのだ。

そしてそこに自身の気持ちを増幅してくれるような人が来ると、うれしくて大きく枝や葉や花を動かすことができようになるのだろうか。

自身の気持ちとは、宇宙の意識、生命力の輝きである。

だからこのときも、私が葉を動かしたとは思っていない。彼らが動いてくれたのだ。

そこで私たちは植物に^応えてあげればいい。だまって素通りしているから、私たちは植物のそんな偉大さに気がつかない。

立ち止まって木々を見つめることは決しておかしなことではない。それこそ宇宙的だ。そうすれば、小さな草花や、葉を持つ樹木は喜んで成長し、金星その他の惑星の樹木のように、密度

の濃い生命のフィリングを放つものとなるだろう。

視線は細胞群に喜びを与える

私たちが生命を見つめるとき、見つめられているその生命を形勢する細胞群は喜ぶ。

そんなことに気づく人は少ない。よく体験する身近なことなのに、どうしてなのだろう。

夜、寝るときに、胃でも何でもいいから、その辺りを思い、

「ありがとう」

という優しい気持ちでそつと見て（思つて）あげると、その辺りからなんともいえない心地よいフィリングがわき起こる。胃などはリラククスして、ぐるぐるという音が聞こえてくることがある。

胃という組織を形勢している、たくさんの細胞群が喜んで、本来の力を取り戻しているようだ。

これはどのような内蔵にも応用できる。便通の良すぎるとき、また、良くないとき、大腸の辺りを思い、

「ありがとう」

と見つめて（思つて）あげるようにしている、段々と正常な規則正しい動きになってくる。

植物は人間の愛情に応える

目は心の窓という言葉があるが、それ以上にアダムスキー氏は、私たちは

目という窓を通して本人の内部の宇宙の意識が外界を見ていと述べている。目は自分の中にある魂の光とつながっているとも言いかえられる。だから細胞群が喜ぶのは、細胞群を統一して形成している魂の喜びなのかもしれない。

大切に育てている花を見つめるとき、見つめている人に向かって、その花から暖色系の美しいオーラが放たれることがある。そこから受けるフィリングは、人間の体をやわらかくするようなもので、心地よい。

このことに気づくようになると、植物園や大きな園芸店に行っても、柔らかな感覚を得てリラククスしてしまうことがある。

なぜなら、さまざまな^{いろ}彩を持つ花の群れは、そればかりではないだろうが、来る人に話しかけたたくて波動を放っているともいえるからだ。

しかし可哀そうな樹木もある。樹木はそれぞれが独特の波動を放っているのだが、波動の質が合わないもの同士を並べていると、片方の成長が遅れてきたりすることがある。

例えば南国の木と北国の木とを比較するために植えてあるときなどである。似たような種類のものではあればよいが、そうでないときは、それが歴然と出てくることがある。両者の間のオーラにそれが暗い線のように出てくるのだ。それでも両方の樹木は、目の前に来

る人たちに話しかけようとしているのだ。

樹木同士も会話をしている

七、八年前の読売新聞の六月一〇日号に、次のような記事が出ていた。

題名は「害虫に注意」木は仲間にもOS流す。六月六日付けの当時のワシントン・ポスト紙からのもののようにだが、森を形成している木々が語り合っていることを如実に記している。

森の木がコミュニケーションする。枝に害虫がつくと、化学物質を出して仲間にも危険を知らせ合う、とアメリカの生態学者が報告している。

『米国立化学財団と同財団が研究資金を援助している二人の科学者のいうことを信じれば、木は互いに話をする。少なくともシアトル郊外の森ではそうだ。ワシントン大学のオリアンズ、ローズ両博士がここでヤナギやハンノキが葉を食い荒らす虫に襲われているとき、互いに警告し合う事実を発見した。もう四年前になる。二人の博士は大量のケムシがとりついたとき、木がどうやって生き延びるのか観察した。約七千匹の害虫を何本ものヤナギやハンノキの枝にはわせ、この攻撃に木がどんな防衛機能を働かせるのかを調べたのだ。その結果、害虫が葉を食い始めると、木々はアルカロイドやテルペンといった科学物質を生成し、これを葉から分泌、害虫の食欲を減退させるこ

とを発見した。

さらに、普通なら害虫の成長源となるタンパク質を葉は生成するのに、そのタンパク質が消化しにくいものに変わり、虫を栄養失調にし、タンパク質欠乏から死に到らしめさせた。

もつとびつくりすることも起きた。害虫にはまだ取りつかれないうちに、近くに生息していた同種の木が突然、同じような防御反応をみせ始めた。最初、二人は根を通して、虫に侵された木から無傷の木へと科学的な防御反応が伝えられるものと考えた。しかし、事実はそうではなかった。一あえて説明をつけようとすれば、むしろ木からある種の科学物質が発散され、これが空気で運ばれて近くの木々に害虫の攻撃を警告する、としか言いようがない』

驚異の植物改良家

一九世紀、カリフォルニアに一人の植物品種改良家がいた。彼の名はルーサー・パーバンク。とげのない果肉が西瓜スイカ以上に密度のある甘い果肉を持つサボテンや、殻のないクルミ（これは後に、鳥によってすべて食べられてしまふということがわかり、薄い殻のあるクルミに改良された）、その他一千種をこえる植物の新品種を作りだした人である。

彼の研究は実際に農地を歩き、植物の様子を見守り、そして綿密な一本一



▶二五歳のルーサー・パーバンク。

本の研究や、時には大胆な混合雑種などによってさまざまに行なわれた。一つの種類の植物でも、個々を見ると異なる特性があることを認め、そのどれを生かしていけばよいのかということにも、人並み異常に秀でた才能を持っていた。

ゼラニウムでは、野性の耐寒性のある



◀ゼラニウムの赤い花。

るものと、アメリカで栽培されているものとを交配して品種改良を行なったりして、大きな緋色の花をつけるものや魅力的な芳香を放つ、それも種子をたくさんつけるものを作りだしたりした（普通は、種子のあるものは少ないのにもかかわらず）。

彼は次のように述べている。

「植物実験者たちによって二〇〇〇年も仕事をされてきた一つの植物は、異常な値打ちをもった新しい種族たちを作りだそうと努力する何人に対しても、一つの困難な問題を差し出すのである。このような植物の諸特性を一つの新しい方向に変更しようと試みることは、いく時代にもわたる諸系統に逆らって仕事をしようなものなのである。だが新しい種たちを古い諸結合に加えることによって、その問題は解決されるであろう」(『植物の育成』(七) ルーサー・パーバンク著、中村為治訳。岩波書店)

彼は植物学者というよりも、植物の中にある、植物を作りだしている原因に気づく人であったようだ。

彼が『植物の育成』(五)の中で次のようなことを述べていることから、それは考えられる。

「植物を作り出すのに成功している者は、その下に横たわっている諸調和を発見し利用するために、彼の植物たちの表面下のものを見ることができなければならないのである」

また彼は、どのような研究を行なうにも、まず植物に協力してくれるようにと愛情をもって頼む必要があると述べてもいる。

これは植物が応えてくれるという確信を彼が持っていたということに他ならないだろう。

彼が植物とテレパシーをやりとりしていたと言われるのは、このようなところにあるのかも知れない。いや、確かに彼はテレパシーの交信をしていたのだろう。彼にはそれだけの感受性があつたのだ。

しかし彼はそれだけではなかった。人並み以上に忍耐強い努力家であり、改良するべき植物が植えられている畑を歩き回っては、一つ一つの植物について愛情を込めて、その成長を詳しく調べていたということである。彼の中には、発芽したばかりの芽の長さがこれだけの長さならこのように育つていくだろうというような知識も多量にあつた。伝説的に言われているように、直感一辺倒な人ではなく、とても現実的な人であつたのだ。それが良いのだ。

大宇宙の図書館

植物がその中に建築や光学、さらに種子においては航空力学などさまざまな設計図を持っていることが、『驚異のデザイナー』（フェリックス・パトゥリ著、土田光義訳、白揚社）に出ている。また、ポプラの木などが、昼と夜の水

分の吸収の度合いによつて幹の太さが異なるということが、『ぼくは植物と話ができる』（岩尾憲三著、ポプラ社）に出てくる。一般にまさかと思われていたことも、そのまさかを乗り越えて調べてみると、意外と単純な原理が隠されていることがよくある。

心が作り出している、まさかという限界を越えるには、私たちの内部で植物のより深い原理について知らせてくれる、宇宙の意識の声が必要となる。

それに従うかどうか、まさかの壁を乗り越えるかどうかということになるのである。

ルーサー・バーバンクは、その壁を常に越え続けていた、意識の声に忠実な人であつたと考えられる。だから晩年近くになつて多くの人に非難、中傷を浴びせられたのかもしれない。あまりにも意識の声に忠実になろうとする彼に対する嫉妬心を持つ人々によつて、前掲したアダムスキー氏の『生命の科学』には、花に呼びかけることができるようになる、

「あらゆる行為は創造主が持つのと同じものである宇宙の図書館の中に記録されますので、必要とあらばいつでもそれに接近することが出来ます。あなたの一部分を目覚めさせたこの図書館はいままでも存在してきたし、今後も存在します。そして生命の神秘は生命の知識によつて置きかえられるでしょう」

と述べている。

これは、自分が体験してきたものがけが記録されている図書館という意味ではなく、自分が体験していなくても、意識という大宇宙の図書館に直結しているために、いつでもそこに出かけて行つて調べることができるといふことを意味している。

そうすると、先程のまさかの壁を越えた莫大な知識が与えられることになる。バーバンクはその大図書館を利用することのうまい人であつたのかもしれない。

根のある方が動く

私の経験からわかつたことだが、根のある、それも大地にしっかりと立っている植物の方がこちらの呼びかけによく応えるようである。

切り花ではどういふわけかほんのわずかしが動いてくれない。また鉢植えのものは、大地にあるものほどに大きくは動きにくい。

大地と根、そして天と葉や枝との間には何かあるのだろうか。

ネムの木が地震の起こる二日前の前兆をキャッチすることができるといふことが『ネムの木は地震を予知する』（鳥山英雄、ごま書房、ゴマブックス）という本に出ている。

その場合、ネムの木は大地にしっかりと根をはつていなければならないところから、ネムの木に似せて作つた

模型では地震の予知はできないというのだ！ ネムの木自身に予知のメカニズムがあり、その体内には超精密な受信機と増幅装置があるに違いない。

それは地震前兆ばかりではなく、音の波動（植物の成長と音楽との関係については、最近その研究が日本でもされるようになってきた）によつても植物の成長に変化を生ずるといふ報告があり、また電磁波に対しても変化があるという報告もある。

音波や電波は大気や電磁気の波動であるが、人間の放つ「想念」という、基本的な創造波動に対しても、植物は感受する機能を持つていないのではないだろうか。そうでなければ植物が応えるということとは考えにくい。

それを感受するための源は、植物自身を生かしている宇宙の意識そのものである。

ということとは、私たちは植物という目に見えている結果の物に話しかけているのではなくて、それを通して植物の内部にある宇宙の意識に話しかけていることになる。

万物は宇宙の意識の海の中にとアダムスキー氏は述べている。すると、植物の意識に呼びかけるということは、私たち自身の意識にも呼びかけていることになる。

植物を通して私たちは、自分自身の意識の使い方を僅かながらも知ることができるようになるのであろう。

平成四年一〇月二五日の読売新聞には、地震の前に地中の電波が一定のパターンで変動するということが、科学技術庁防災科学研究所と郵政省通信総合研究所の共同研究でわかったということがでている。

植物の波動感受能力と何らかの関わりが出てくるかも知れない。

植物が応えるというもののきつかけ

植物が人間の視線によって動くということを知ったのは、小学校六年生の初夏のある日の帰り道だったろうか。

小学校の帰り道というのは、仲の良い友達数人で、思いつきり言いたいことを言ったり、遊び回ったり、空想をしたりと、何か心ときめくときだった。

初めて他の惑星から飛んで来る宇宙船を大きく見たのも、小学校三年生のある日の学校の帰り道だった。

小学校六年生のときに戻そう。いつものように同じ道を歩いていたのだが、その日はやけに道端に生えているさまざまな雑草（といっても三〇センチメートルから五〇センチメートルくらい大きなもの）が気になっていた。

ある植物の一つの葉を見ると、それが動いていることに気がついた。確かに風はそよそよと吹いていた。それによつて草も微妙に揺れていたが、その動きとは違って、何か、本当に、何か違う動き方をしていたのだ。

他の植物の葉を見つめていてもそれが生じた。それをさらに他の植物に対して行なっても、どうも葉が動くのだ。

たぶん風だろうと思ひ込むようにしたのだが、たとえ風で動いたのだとしても、どうして「葉は動くものだ」という気持ちがあき起こってきたのかわからない。家に帰っても、その気持ちは続いていた。

今でもその帰り道の光景は覚えていて。それだけ印象的であつた。しかしいて考えたことはなかった。

何か超能力のように受け取れるかもしれないが、そんな難しいものではない。簡単なことなのだ。ただ、自然が大好きで、動くものだという感覚がありさえすればいいのだ。

植物を動かす人は、気功師の中にもおられる。観葉植物に手を向けて、その葉たちをさわさわと動かしたりするものだ。

しかし、どうも違う。私はあるとき、テレビで気功師の方が実演されているのを見て、そう思った。植物が喜んで、喜んでいないに聞わらず、気功師の方の力によって動かされているようにしかたないのだ。

私はそのときにアダムスキー氏の顔を思い浮かべた。あの深いしわの中で輝いている愛情深い目。何か暖かさを感ぜずにはいられない口元。

アダムスキー氏は、植物に呼びかけ

ることによつて、植物も喜んで、うれしくなつて動いてくれたのではなかったらどうか。

私は気功師というのはこのような武術的なものでしかないかと思つてしまった。しかし後に、植物自身に呼びかけて植物が動くという、宇宙哲学的な気功師もあることを知つたのだが。

夏の練習

今から数年前の夏、約二カ月に渡つて、早朝で一人で公園で、植物の葉や枝を動かす練習をしたことがあつた。

自分の敏感さというものが無くなるのが怖くて、私はときどきこのような練習を行なうことがある。植物や空、大地の印象を感じる能力が下がらないようにと行なつていたのであるが。

しかしどうしても植物の葉や枝自身は動くことはなく、私の思いによつて生じて来る風によつてそれらがやつと動くときがあるくらいのものであつた。

当時は中国の気功師と、それに関連のある日本の方法が流行つていたが、やはり武術的な捉え方しかしていなかつた。それで無理にでも動かそうとしたのだろうか。

お陰でときどき時計の動きを止めた、止まっていたのを動かす力が一時期出てきたが、やはり強制的な力ではなかつた。感受力も高まつたが、胃の不調が始つてもきた。一度やるとなると徹底してやるたちなので、それ

がよくなかつたのかも知れない。

大学生のときに禅をかじつていたことがあり、丹田だけを意識してそこに気が出たり入つたりしていく呼吸法を自分でよく行なつていた。それを応用したが、それにこだわっている限りは目の前にある物に自分の思いを影響させることは微々たるものであつた。ましてや丹田ばかり意識していると、目が伏せ目がちになり、思いが暗くなることであつた。

そこであれこれと悩んで、呼吸法を変えてみることにした。丹田ばかりを意識するのではなくて、全身の細胞群が活き活きと美しくなつていくことを思い、呼吸は自然に全身に行き渡るように。

また肩、胸を開き、万物に働きかけていく方法も知つた。もちろんそれを支える足腰が重要であることは否めない。

呼吸法などを変えてよかつたのだが、しかし何か違つていた。自分の我が強くなつていくのを感じるのだ。やはり武術的なものを意識していたからだろう。想念を送るときにも、言葉（唱）を唱えるようになってしまった。それまで持っていた自分の中にある純粋なものが隠されてしまったようでもあつた。

自分の中にわき起こるフィーリングは新しい呼吸法などによつて明るいものになつたのだが（そこで知り合いもさらに増えてきた）、何か修験者の感じが

新しい場所での練習

しないでもなかった。

ところが今年の四月に引越して、大きな行田公園で練習をするようになってからは変わってきた。練習方法もがらりと変えた。呼吸法や身体を動かす方法は人それぞれに合った方法があるのでここでは述べないが、それらに共通して言えることは、万物に、そして私の中にある生命力、宇宙の意識を思い、自分の身体の中にわき起こるそのフイーリングが高まるように効果的なものでなければならぬだろう。

それが身体を本来の自然な状態に戻してくれるものであるならば、小さな子供のようにリラックスした状態（いわゆる脳波の安定している状態）になり、植物を見つめるときも、静かに見ることができようであろう（しかしこの静かということは、病的な気の抜けた状態ではない。身体の中には活き活きとした感覚があるのだ）。

私は植物に、顔を横に動かして下さうとか、その他の言葉は唱えない。また、はつきりと植物の一部が動いているイメージも浮かばなくても気にしないことにしている。

それよりも、植物との間の何らかのものを感ずようとしている（しかし、植物に動いてほしいというはつきりとした「動機」を持って望んでいることだけは確かだ）。

植物と印象をやりとりするうちに、自分と植物との間にあるオーラの境界が取り払われていくのがわかる。

そして長く伸びた枝が楽しそうに、首を小さく振りだすのだ。

ただ、自分の気持ちが暗く沈んでいるときは動いてくれない。「よし、身体の細胞も良い印象になった。自分からリラックスしてばりばり仕事をしていこう」というように、気分と感受力を幾分高めてから行なうようにするとうまくいく。

そしてもう一つは背中の後ろ側を開く、呼吸法など。詳しく紹介できないが、音楽家の方に教えていただいたのだが、これがすこぶる良い。始めは難しかったが（といっても今でもうまくできないのだが）、前向きな気持ちになつてくるのである。

要は前向きな気持ちと植物を慈しむ心であるのかも知れない。そして植物は動くことができるのだという気持ち。それらがあれば、だんだんと自分の内部にある宇宙の意識との経路ができてきて、植物も動いてくれるようになるだろう。



▶ 仁別上空のUFO

昨年9月13日に実施された秋田支部大会の翌日、大勢で仁別国民の森へ観光に行き、キリタンポ・パーティーを開催中、突然上空にUFOが出現したのを加藤純一氏（右端）が発見、松岡圭一氏が撮影した。秋山氏は本物のUFOと鑑定している。



★九二年度総会、大盛況

昨年一〇月一〇日、日本GAPは都内港区芝公園の機会振興会館で年次総会を開催、二一〇名の参加者があり、大成功裡に終了した。今回はセミナー形式で実施したため、きわめて真摯な雰囲気のみならず、有益な大会となった。夜は銀座六丁目の銀座会館で大夕食会を開催、一二〇名が出席して盛況であった。関連記事と写真は本号冒頭に掲載されている。

★第五回長野支部大会

長野支部は一月二日に塩尻市のヘルスパ塩尻で第五回目の支部大会を開催、快晴に恵まれて三三名が出席、久保田会長による講演で辻俊昭氏のコンパクト実話が披露されて大いに盛り上がった。夜はホテル中村屋で夕食会を開催、サイコロを振って宇宙の天体巡りを競い合い、和気あいあいたる雰囲気の中に旧交をあたためた。翌日も快晴下を大型貸切りバスで妻籠、馬籠の江戸時代の宿場町を周遊し、信州の晩秋を存分に楽しんだ。詳細は左頁。

★九三年度大阪支部大会

恒例の大阪支部大会は本年五月の四連休を利用して盛大に開催される。大会は連休二日目の三日に、今度は趣向を変えて奈良市の奈良県新公会堂を会場とする。ここは若草山のふもとの奈良公園に位置し、大仏殿の近くでもあり環境は抜群。素晴らしい大会が予想される。翌日の観光は飛鳥（高市郡明

日香村）の謎の石舞台その他古代の遺跡を見学。これには自転車とタクシード周遊という変わったツアーが仕組まれている。詳細は本号四九頁。

★九三年度海外研修旅行

九三年度は先号でエジプト・イギリスの旅を予告したが、近来エジプトはイスラム教原理主義過激派が外国人観光団を襲撃する事件が頻発して危険な様相を帯びてきたし、イギリスではアイルランド共和軍（IRA）がロンドンで爆弾騒ぎを起こすために、急遽行先を変更して、メキシコ・グアテマラ・ホンデュラスの古代マヤ遺跡を訪れる旅に決定した。詳細は本号四五頁。

★英文版ユニコン誌第八号

発行が遅れていた第八号が昨年一二月に刊行された。今回は本誌一一八号に掲載された「イエスの実像と転生の法則」が英訳されて出た。したがってこの英文と一一八号の日本語とを対照しながら読めば容易に理解できるので、英語の学習に最適。この英文版はきわめてユニークな専門誌として海外で高く評価されており、イギリスの英文版会員・エリック・オグデン氏などは発行を待ち侘びて、たびたび照会してくるほど。アメリカではグニエル・ロス氏がこれを多くの知人に配布している。年一回の発行なので情報伝達にもどかしい思いをするが現状ではやむを得ない。国内版会員諸氏の購読が期待される。

★伊藤睦史氏、バナマへ

茨城支部会員・伊藤睦史氏（宮城県出身）は昨年末会社を辞職し、今年一月に海外青年協力隊員として中米バナマへ勇躍赴任することになった。このためさる一二月二日につくば市で茨城支部主催による歓送会が盛大に開催された。同氏の大活躍が期待される。

★九三年度日本GAP総会

本年度も昨年と同じ一〇月一〇日に機械振興会館（東京タワー前）で盛大な総会が開催される。今度はまた趣向を変えてきわめて興味深い有益な内容にするべく、もつた諸案を検討中。二連休なので今回は翌日に都内観光を実施する予定。ただし都内は自動車の渋滞がひどいのでバスを利用せず電車での周遊する。この方が早い。地方からの多数参加者が見込まれる。詳細は七月発行予定の本誌に掲載される。

★テレフォンカード第六弾頒布

日本GAPが頒布するテレフォンカードの第六弾が出た。これは一九五二年一月二〇日、米カリフォルニア州デザートセンターでアダムスキーが会見た金星人が砂地に残した靴の跡の図形をデザインしたものだ。頒布は以前と同じ。この図形は今も謎となっている。独特なGAPのテレフォンカードを求められたい。

★九二年度本部 UFO 観測会

これも恒例の行事として計画。今年には会場を変えて広い場所で開催する

が、本誌に詳細な予告を出さず、開催月日、場所に関しては七月の東京月例セミナーで伝える。

★GAP会費を少し改定

昨年一月より郵便料金の値上げに伴い、会費を次のように改訂した。これは一冊分送料が従来二一〇円であったのが二四〇円になったため。一冊あたりの定価は従来どおりの据置き。

四回分 四三〇〇円（一〇〇円増）
六回分 六二〇〇円（一〇〇円増）
八回分 八〇〇〇円（変更なし）
十回分 九九〇〇円（変更なし）

★特別維持会員制度

「本誌はきわめて高度でユニークな専門誌として高く評価されています。各国 UFO 研究団体の機関誌のほとんどがオバケ宇宙人、誘拐事件、ミステリーサークル、心霊的体験といった次元を一步も出ない状態なのに、本誌のみは高次元の宇宙哲学と別な惑星の偉大な文明とに想いを馳せて雄大な深遠なウイジョンを展開する啓蒙誌であるから、これの編集発行には久保田会長が単独で超人的な活動を続けています。有志の方々の温かいご援助によって日本GAPが末長く続くように特別維持会員に加入されることを本部役員一同心からお願い致します。詳細案内は日本GAP宛ハガキでお申込み下さい。維持会員には会長のエッセイ「意識の声」が毎月贈られます。

本部役員代表 藤 芳史

第五回 長野支部大会

●一月二日(日)

●ヘルスバ塩尻 三三名

一年半ぶりに開催された日本GAP長野支部大会は、一月下旬というところもあって少々寒さを感じさせる気候だったが、快晴に恵まれて絶好の大会日和となった。大会は三〇名を越える参加者を得て予定どおりに開催された。

久保田先生のご講演は非常に興味深いもので、UFO問題がアダムスキーの主張した方向に向かいつつあり、近い将来には近隣惑星の実態が世間一般に知られるようになり、大國政府が公式にこれを認めることになるであろうということや、一八年前、本人はスペース・ピープルと気付かずに話をしてきた一GAP会員が、最近になってスペース・ピープルであったことが判明した事件について詳細な話があり、興味つきない内容であった。

続く夕食会では円卓を囲んでの中華料理に舌鼓を打ちながら、和やかな夜を過ごすとともに、中村支部副代表手作りになる太陽惑星間大旅行双六に、しばし童心に返って歓声をあげた。続く二次会では久保田先生を囲んで遅くまで興味深い話を聞いた。

翌日は木曾路観光に二六名が参加。好天下を大型貸切観光バスで一路目的地の妻籠宿、馬籠宿目ざしてバスは出発。女性ガイドさんの声が途切れることもない。

妻籠宿では年に一度の時代風俗行列があるためか、すごい人混みでまともに歩けないような状態だった。宿場の端から端までゆつくりと見学。名物の五兵モチをほおぼりながら往時の生活に想いを馳せる。このあと馬籠に向かい、ここで山菜料理の昼食をとり、名古屋方面から来た方々と別れる。

途中、道路の側溝に車輪を落として動けなくなった車を見て、全員が降りて車体を抱えながら押し上げる光景を見たガイドさんが涙を浮かべて感動し、こんな親切な団体は見たことがないと絶賛する。さすがはGAP会員。

今回の支部大会で久保田先生をはじめ支部の皆さんに大変お世話になり、心から感謝申し上げます。遠路ご参加頂いた方々に心から御礼を申し上げます。 長野支部代表 博田文喜



素晴らしい大会だった。私(久保田)は太平洋戦争末期に松本の陸軍航空隊にいたので、長野県は何度来ても懐かし、たまらない懐郷感を覚える土地である。戦争の是非はともかく、「現在は過去のすべての生きた集大成である」というカーライルの言葉ではないが、青春を犠牲にした五〇年近い昔の苦闘の日々は現在の自己形成の礎石になったとみている。

参会者の皆さんは真剣そのもので、第一級の雰囲気であった。この日私は或るGAP会員の方の非常に興味深い

異星人とのコンタクト実話を語ったが、これは絶賛を博したと後に聞かされた。この実話は本号に掲載されている。翌日の観光も歓喜に満ちた一日だった。名高い妻籠、馬籠の江戸時代そのままの宿場町は、むしろ島根県のド田舎で育った私にとって昔の郷里に帰ったような気がして愉快だった。意外だったのは封建時代の旧「中山道」であ

る。山中の幅一メートルしかないハイキング道路が、あの名高い要路であるとは！ たぶん敵の大軍団の襲撃を防ぐためにわざと狭くしたのでろうと昼食時に博田君らに話したのだが、どうだろうか。

文句なしに素晴らしい大会だった。関係者各位に深甚の謝意を表したい。

日本GAP会長 久保田八郎



▼第5回 長野支部大会





左右対称に見える天体(左上と右下)

重力レンズを撮影

ハッブル宇宙望遠鏡が、巨大銀河団の重力の作用で遠方の天体が鏡に映したように左右対称に見える珍しい現象を撮影した。「重力レンズ」とはアインシュタインの一般相対性理論により、強大な重力が光の進路を曲げることで遠方の天体の像が歪む現象である。

写真の銀河は「みなみのうお座」にあるAC114と呼ばれる四〇億光年かなたの銀河団。(10・9読)

常温核融合、水でも大量発熱

北大触媒化学研究センター界面エネルギー変換部門の能登谷玲子助手は水(軽水)の電気分解による方法で核融合反応が起きていることの根拠となる大量の熱発生を確認した。軽水での報告例は国内で初めて。

能登谷助手の実験では陰極にニッケル、陽極に白金をセットした容器を使用し、温度〇・五モルの炭酸カリウムの水溶液二〇ミリリットルを電気分解した。この結果、加えた熱量に応じて、その三十四

倍の熱(過剰熱)が測定された。温度は当初の二〇度から三〇度も上昇して五〇度になった。電気分解を行わずにヒーターで熱を加えただけの場合は八度しか上がらないことから、効率的に大量の熱が出たことになる。

また電気分解によってカリウムと水素が核融合反応したことを示すカルシウムも過剰熱の量に比例して増えた。

世界的にみて、軽水による実験の報告例ではその温度上昇は数度にとどまっており、今回のような大量の発熱は例がない。更に、重水の場合と比べて電極や溶液などの素材や装置、そして発熱の方法が簡単に非常に扱い易い。

能登谷助手によると「原料となるカリウムは無限にある。電気分解に比例して熱エネルギーが安定して発生するので、いつでも欲しいときに確実に熱が得られる」という。(9・17北海道新聞)

EITを探そう!

NASAは一〇月一二日の「コロンブス・デー」から宇宙の新文明発見を目指して地球外知的生物(EIT)が発する電波の探査を世界各地の観測所で開始した。この計画は「高解像度マイクロ波観測」と呼ばれる。米国では一九六〇年のオスマ計画を始めとして何度か同種の観測が試みられているが、今回の観測は従来とは比較にならない精密さであり、収集するデータ量も桁違いに多い。観測は二〇〇一年まで続けられる。

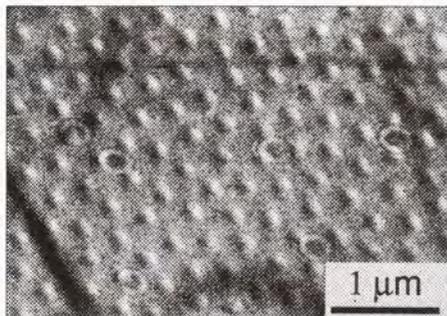
NASAの研究者は「他の惑星の文明によるシグナルが見つかれば地球人の文明観は変わるだろう」と期待をかけている。(10・13読)

動く磁束量子を撮影

超電導体内部で磁束量子(非常に小さい磁力線の束)が動く様子を、新開発の電子顕微鏡を使って連続的にリアルタイムで捕えることに日立製作所基礎研究所が世界で初めて成功した。超電導のメカニズム解明や超電導材料の開発につながる成果として注目される。

同研究所の外村研究長らのグループは独自に開発した「ホログラフィ電子顕微鏡」で超ミクロ領域の磁力線を観察し、超電導金属のニオブ内部の磁束量子の動きをビデオカメラで撮影した。

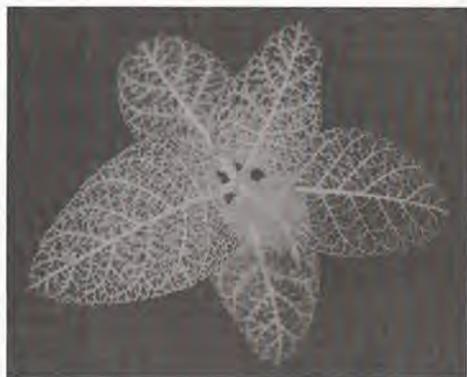
ニオブを超電導状態になる氷点下二六八・七度まで冷却し、加えていた磁力をどんどん強くしていったところ、直径〇・一ミクロン(一ミクロンは千分の一ミリ)ほどの磁束量子が最初は不規則に並んでいたのが、安定した位置を求めて動き、規則正しく並んでいく様子が観察できた。(11・5毎)



撮影された磁束量子。1つの磁束量子に対応する白黒ペアの粒状の点が並んでいる

ホタルの遺伝子を組み込む

宮城県農業センターはホタルの発光現象



象を利用して、タバコの葉を明るく光らせる実験に成功した。

このタバコの葉にはホタルの発光酵素であるルシフェラーゼの遺伝子を組み込み、更に人工合成したホタルの発光素ルシフェリンの水溶液を根あるいは茎から吸収させてある。

元は遺伝子工学で目的の遺伝子がちゃんと組み込まれたかどうかを確認する手段として、米国カリフォルニア大学が六年前に成功した方法である。

暗い部屋なら、数メートル離れても光るのが見え、時計の針も葉に近づければ読める。葉を切り取っても二、三日は光り続ける。(11・19朝)

省エネの天井冷房

天井を冷やして室内の熱を吸収するユニークな天井放射冷房システムを日本国土開発と東京理科大学建築環境工学科の武田仁教授が共同開発した。天井冷房では通常の冷房に比べて消費電力が二五パ

ーセント節約され、更に冷風が直接吹き付ける不快感も軽減される。

このシステムはファンコイルユニットを使用した通常の冷房装置と天井パネルを組み合わせたもので、人体の熱が天井に放射する輻射現象をうまく利用している。この作用によって実際の室温より涼しく感じる為、ファンコイルユニットだけの冷房よりも室温を高く設定できる。

(9・25説)

世界初の「毒鳥」発見

ニュージーニアの密林に生息する色鮮やかな野鳥が天然の強い毒を持っていることがわかった。この鳥はニュージーニア・ビトフイーと呼ばれ、オレンジ色と黒の体でカラス程の大きさがある。

米国シカゴ大学の研究者が偶然にこの鳥の皮膚や羽に強い毒が含まれているのを発見した。

解析の結果、毒ガエルと同じホモトトロトキシンと呼ばれる自然界最強の天然毒素とわかった。神経を麻痺させる働きがあり、その抽出物をマウスに与えると数分で死んだ。ニュージーニアの住民は昔からこの鳥を避けていたという。

(10・30朝)

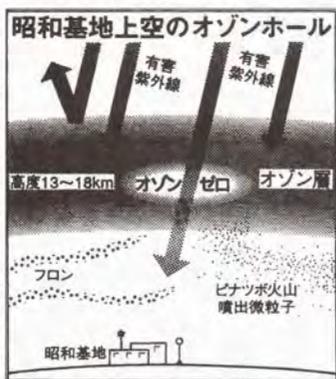


南極のオゾンが異常破壊

気象庁は昭和基地上空の成層圏で、オゾン濃度が最も高いはずの場所のオゾン

がゼロになったと発表した。今シーズン初のオゾン層破壊は激しく、気象庁は「異例の事態」としている。

昭和基地の観測によると九月後半からオゾンがほとんど消滅した層が現れ、十月初めには成層圏中の高度一三―一八キロにわたってオゾンがほとんど消えた層が観測されたことはあったが、これだけ厚いオゾンゼロの領域が長期間にわたって続いたのは例がない。原因については「昭和基地が大きなオゾンホール内の破壊の場所に含まれていたため」、あるいは「ピナツボ火山の噴出した硫酸微粒子がフロンの塩素反応を強め、破壊を促進したのが原因」との見方もある。



歯の合金除去により皮膚炎の症状改善
治りにくいアトピー性皮膚炎患者から、歯の治療に使われる合金を外したところ、七割以上の患者の症状が劇的に改善した。金属が原因のアトピー性皮膚炎の根治療法の一つとして注目を集めている。

大阪府高槻市の富田町病院小児科の幸寺恒敏医師のグループが、大阪大学歯学部との協力で治療に成功した。幸寺医師は、アレルギー源になるダニなどを排

除する環境療法や食事療法、更にステロイド剤などを使う薬物療法でも治らなかつた患者約一六〇人に対して、金属へのアレルギーの割合を調べた。

その結果、患者のリンパ球では歯の合金材料の水銀やニッケル、金、パラジウムが高い確率でアレルギー源になっていることがわかった。特に水銀とニッケルはそれぞれ九六パーセント、九一パーセントの割合で陽性であった。

陽性患者のうち五〇人の歯の合金をはずして影響の少ないセラミックや樹脂性のもと取り換えた。その後、二週間から三カ月で三五人の患者から皮膚炎の症状が消えた。(10・27説)

声に出さない言葉を測定

言葉を心の中で言うときの脳波変化の測定に北海道大学電子科学研究所と富士通研究所が成功した。人間が考えたことを読み取って操作する思考入力コンピュータの第一歩になるという。

被験者の頭に脳波測定用の電極を取り付け、赤ランプがついた時には心の中で「あ」と言い、緑ランプがついた時には何も言わないという実験をした。

その結果、ランプがついた〇・数秒後から一秒後に脳の前部に変化が出た。特に〇・四二秒後には変化が最大となり、脳の前部が負の電位、後部が正の電位になり、はっきりとした違いが現れた。

富士通の担当部長は「今後は更に高感度の測定器を使い、思考の中でYES、NOの違いや、言葉の違いの研究を進める。それによって人間が頭の中で考えたことが外部にも分かるようになるだろう」といっている。(11・12毎)

鮮明なブラックホール?

地球周回軌道上のハッブル望遠鏡が、遠くにある銀河系内のガス雲がブラックホールと思われる部分に吸い込まれる様子を写真で鮮明に捕えることに成功した。

ハッブル望遠鏡が観測したのは地球から約四五〇〇万光年離れたNGC4261と呼ばれる銀河の中央付近にあるブラックホールで、周囲から猛烈な勢いでガス雲が送り込まれている様子がはっきり捕らえられている。観測と解析に当たったNASAのウォルター・ジャフエ博士は「研究者が予言したブラックホールにかつてなく近づいたことは間違いなく、観測結果も理論と極めて良く一致している」と話している。(11・20朝)



UFOと宇宙哲学の研究集団・日本GAPの年次総会が、九二年一〇月一日に都内港区芝公園の機械振興会館で開催されたが、そのなかで総会では初めてのテレパシー練習が行なわれた。この結果、貴重なデータが得られたので、このデータを解析することによって、テレパシー現象のより進んだ理解が得られるのではないかと思ひ、調査したところ、大変興味ある結果が出てきたので、報告したい。

結論から言うと、人間は常にテレパ

Man's ESP is Undeniable by Kenichi Horie
日本GAP総会におけるテレパシー練習結果の解析

人間は生来テレパシー能力を持つ

●堀江健一

シー能力を使って生活しているか、またはテレパシー的な思考だけを応用しているのではないかと思われるような結果が出たので、自分でも大変驚いている。

この練習は総会当日、久保田先生の講演に続いて行なわれ、本部役員の篠氏と遠藤氏が壇上において、五種類のゼナーカードから一枚ずつランダムに選び出し、その凶形を数十秒間テレパシーで受信して、これを会場の来場者全員で受信し、あらかじめ配布された解

答用紙に自分の印象に従って凶形を記入するという方式で行なわれた。

凶形の二〇問を選んで送信し、一問五点、一〇〇点満点として、最後に送信者が正解を壇上で公開してから、受信者全員が隣の人と解答用紙を交換して厳正に採点し合った。

解答者は一七八名。テレパシー現象の存在を確信している多数の方の大量データが得られたという点で、大変貴重な実験になり、更期的な集会として高度な価値を有するものとなった。

人間とコンピューターとの相違

さて、解析の方法だが、テレパシー現象に関しては過去に米ソをはじめ、世界の科学界で多くの実験が行なわれて実在を証明する結果が多数出ているが、まだ大衆の十分な興味の対象になっていない。これは大衆に実感のわからない数学の結果だけの確率論からのアプローチであったことが一つの問題であったと思われるので、今回はより具

体的なコンピューターシミュレーションとの比較で実験結果の分析を試みた。

コンピューターシミュレーションは実際の場合と出来るだけ同じ条件になるようにした。先ず〇から四までの五種類の答えをランダムに二〇個作り出し、これに対する解答を同様に二〇個作り出して答えを合わせるということを、一つの答について一七八回（一七八人分）くり返した後、その集計を出した。そして、これをさらに二〇回から一万回（日本GAP年次総会の二〇〜一万年分）くり返してみた。もし人間が正解が分からないで、でたらめな解答をしているとすれば、この結果と同様な傾向を示すはずである。ところが結果は大きく異なっていた！

高得点が出てこないコンピューター

表1は得点数ごとの人数の比較を示す。シミュレーションは紙面の関係で八回（八年分）まで載せてある。仮に四〇点以上を高得点とすると、一一名もいて異常に多い人数となる。

シミュレーションでは四回目に九人と、近い値ではないかと思われるかもしれないが、問題は人間の五〇点以上を取っている四名で、コンピューター側は八回中、ゼロか一名しかいない。

実はこの五〇点を取ることは大変なことなのである。東京月例セミナーでは問題を一〇問と決めてあり、毎月約

八〇名の出席者のなかから何人も出るが、一〇問で五〇点取るのと二〇問で五〇点取るのとは、同じ五〇点でも、その難易度が全然違う。コンピューターシミュレーションでも、一〇〇〇回（一〇〇〇年分）中、一度も高得点者が人間を越えたことはない。また五〇点以下を低得点者とするのも非常に多い人数となる。

表2は実験回数ごとの的中度を比較したものである。各回目ごとの正解者数、コンピューター側では正解数の平均と比較したときの増減を的中度とし、各回ごとに比較してみると、人間はこの的中度の変化が明らかにいちじるしいことがわかる。コンピューター側は一、二、三回目とも確率どおりの安定した数値を示し、この後回数を重ねても大差はない。

図1は表2の的中度に注目して実験回数ごとにプロットしたものである。コンピューター側は一回目のみのをプロットしてある。一見して的中度の増減が異常に多いことがわかり、特に第一回目的的中度が極端に高く、もしコンピューターシミュレーションを何万年分行なつたとしても、この数字を出すことはできないだろう。

テレパシー現象は存在する

私自身は以前にゼナーカードを使用して同様な実験を一カ月間毎日行なつたことがあるが、その結果、その日の

第一回目的中率が極端に高いということがわかった。他の超能力関係の研究者からも同様な報告があるのをご存じの方も多いだろう。

この結果は明らかにテレパシー現象の存在を示していると言してもよいだろう。面白いのは、わざとはずそうとしている(マイナス)のテレパシー現象と+(プラス)のテレパシー現象が存在し、シミュレーション結果から+-(プラスマイナス)四を越えるものを十または一のテレパシーとする

と二〇回中一〇回もあつたことになる。図2(a)は表1の結果から、人間とコンピューターとの的中パターンを模式的に比較したものである。人間は通常あり得ないパターンを示している。このパターンは技術系の人が見れば、高得点部の小さな山を除けば、二つの正規分布(釣鐘状の分布)を持った成分の合成と解釈してよいだろう。これは図1からも証明できる。

それは、今回のようにパラツキを相殺するのに十分なデータの量がある場合、同条件のランダムなコンピューターによる結果に対し、明らかに原点に対しプラス、マイナスの傾向を与える何かが存在していない限り、的中度を上げたり下げたりすることができないからである。いいかえれば、答がわかっている限り、ランダムな問題に対して傾向を与えることはできないというところである。

例えば、誰にもわからないような難解な問題が五者択一で二〇問あるテストを一七八人が受けても、各問での正解は三六(一七八/五)人前後であり、ある問で正解者を増やすか減らそうと受験者(またはコンピューター)が思つて、その問でだけ初めに書いた解答を消して、別な答に変えたとしても、もともとわからないのだから何も変わらないのである。

全員がテレパシー能力者?

また図1では実に二〇回中一〇回にこの傾向が現れているのを見ると、参加者がテレパシー能力を持つていて、何らかの関与をしていると考えるのが自然だ。

一方、東京月例セミナーでは特定の人がいとも高得点を取るのではなく、いつもその人物が変わつていて、今回の場合も高得点者だけが特定の人ではないと思われる。

以上のすべての条件をふまえて人間の中のパターンの検討を行つた結果、図2(b)に示すように、少なくとも特定の条件下では偶然の要素があるとしてもわずかなレベルにとどまり、人間の思考のほとんどがテレパシクな間隔を基盤にしているのだという結論に達する。

そしてこのテレパシーは図に示すように、+の傾向をもつたもの、-の傾向をもつたもの、さらに強い+または-

◀総会におけるテレパシー実験



の指向性をもつものの四種に大別されるようである。この中の、-の強い指向性成分の存在に関しては予測したもので、的中率を変えた別の条件で実験を行なわないと、図のように-の傾向をもつ成分に隠れてよく確認できない。

超能力は人間に潜在する

この解析結果は一般的な見識とは完全に異なっているが、できるだけ客観的に実験結果の分析からの事実に基づいて導き出したもので、私自身が大変驚いている。しかしこうしないことには実験結果の説明がつかない。

このようなランダムな解答を行なうコンピューターシミュレーションでは、到底実現し得ない傾向が今回得られた背景には、GAP会員の方々が被験者であり、テレパシー現象の存在を知つていて、真剣にまじめに実験に取り組んでいただけなこと大きな要素であつたと思う。同じ条件でも、他の集まりではこのような結果は得られないかもしれない。

人が強い信念または指向性を帯びた想念を持ち、+-(プラス、マイナス)の暴れの原因と思われる感情や心のコントロールができれば、この信念に対し、+の方向にすべてを集中させることができると言えるだろう。しかも、これが一般に超能力といわれているものならば、すべての人に超能力があるということにもなる。

表1 コンピューターシミュレーションとの比較

実験結果	人数	コンピューター シミュレーション							
		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
0点	3人	0	3	3	2	1	2	2	1
5点	15人	9	12	7	8	11	11	9	8
10点	24人	19	22	24	25	34	20	23	30
15点	33人	42	37	40	42	31	42	36	31
20点	39人	41	34	38	38	33	34	37	37
25点	25人	37	30	31	31	31	36	36	38
30点	18人	21	25	20	14	18	17	23	21
35点	10人	7	13	10	10	12	10	10	6
40点	5人	1	0	4	5	4	6	2	4
45点	2人	1	1	1	2	3	0	0	2
50点	4人	0	1	0	1	0	0	0	0
55点	0人	0	0	0	0	0	0	0	0
60点	0人	0	0	0	0	0	0	0	0

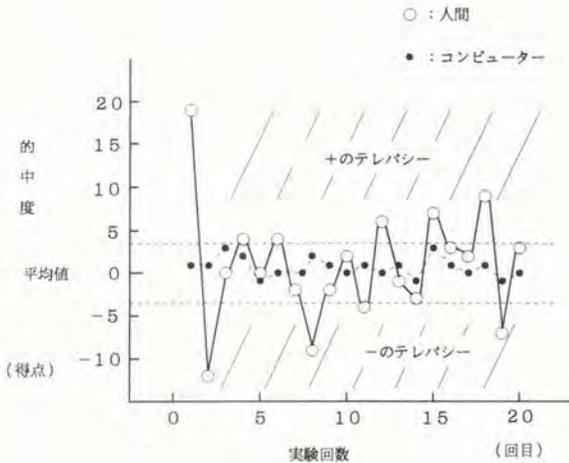
・高得点者(40点以上)が非常に多い、また低得点者(5点以下)も多い
 ・高得点者はシミュレーションを1000回繰り返しても、人間以上の結果はでなかった

表2 実験回数ごとの的中度の比較

実験回数	実験結果		コンピューター シミュレーション					
			1回目		2回目		3回目	
	正解者	的中度	正解数	的中度	正解数	的中度	正解数	的中度
1回目	54人	19	36	1	35	0	36	1
2回目	23人	-12	36	1	36	1	37	2
3回目	35人	0	38	3	38	3	34	-1
4回目	39人	4	37	2	37	2	35	0
5回目	35人	0	34	-1	36	1	36	1
6回目	39人	4	35	0	33	-2	38	3
7回目	33人	-2	35	0	36	1	35	0
8回目	26人	-9	37	2	36	1	37	2
9回目	33人	-2	36	1	36	1	32	-3
10回目	37人	2	35	0	35	0	35	0
11回目	31人	-4	36	1	35	0	34	-1
12回目	41人	6	35	0	34	-1	35	0
13回目	34人	-1	36	1	36	1	36	1
14回目	32人	-3	34	-1	36	1	35	0
15回目	42人	7	38	3	35	0	37	2
16回目	38人	3	36	1	35	0	37	2
17回目	37人	2	35	0	35	0	35	0
18回目	44人	9	36	1	37	2	37	2
19回目	28人	-7	34	-1	36	1	38	3
20回目	38人	3	35	0	36	1	34	-1

・20回目までの平均正解数または正解数を、各回目ごとに比較したものを的中度とした
 ・人間は回数ごとの的中度の変化が著しい

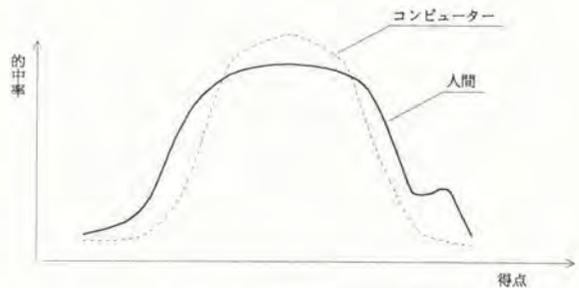
図1 実験回数ごとの的中度



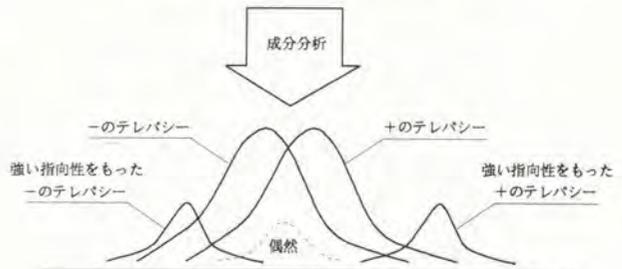
● : 人間
 ● : コンピューター

● 人間の+, -のテレパシーと思われるポイント数は10回
 ● 第1回目的的中度が極端に高い

図2 テレパシー実験結果の分析



(a) テレパシー実験における人間の的中パターン



(b) 成分分析の検討結果

夜空の不思議な「映像」——田邊優子

ちょうど一年半ぐらい前に私は、ふとした事がきっかけで宇宙エネルギーに大変興味をもつようになりました。

また以前にはUFOなどというものは私にとりまして別世界の事だと思っておりましたが、目が覚めて瞑想をやったり、四次元関係の本を手当たり次第に目を通すようになり、日本GAP会員にもならせて頂きました。

今年の夏、遠藤先生の「UFO呼かけ法」のご本を読みまして、七月二三日からほぼ毎日、一五分からたまに長い時間で二時間ぐらい、アゴを持ち上げていました。「忍ぶ」の一字でござい

ます。私はUFOについては全くの初心者です。でも、これもこれも星と視神経の錯覚に思われました。流れる星、ジグザグに飛ぶ星、UFOだったら回って回って」と心で思うと、きれいに円を描いて何回も同じ軌道を回ってくれる星——どれもこれも皆、天空に輝く星々に見えてしまします。

でもとても嬉しいのです。「有難う」と空一杯に感謝し、明日の呼びかけを約束しました。

とはいうものの、なかなか簡単にはゆかないだろうと自信も少しなくしたのでしよう。

テレパシーでUFOが出現

一週間ぐらい休んでから（九二年）一〇月一〇日、空気の無数に輝く気泡のようなプラナがひとときわ美しいよく晴れた日でした。

午後三時半頃JR阿佐ヶ谷（都内杉並区）の駅前広場のベンチで呼びかけました。この日は初めて個人的なお願いをしてしまったことを覚えております。

しばらくして、ほぼ目の前の上空にバレーボールより小さく、テニスボールより大きな、銀色の金属質の光沢を放つ丸い物体が、雲の切れ目の青空にジツとして居るのに気づきました。

いつ現れたのでしょうか。UFOなら回って回って」と心で思いましたが、ジーツとしたきりでした。その間、数十秒だったでしょうか、生まれて初めて空に浮かぶボールを見て、私はあわてふためきました。

場所を変えて見ようと、とっさに思

い、数十メートル離れている時計台まで走っていきましたが、見えません。あわてて元のベンチへ行き、空を見上げました。いくら探しても銀色のボールはいませんでした。しかしなんと

も言えぬ嬉しい気持ちがいっぱい溢れました。なかば満足していましたが、空に浮いている物もいろいろあるはず。やはりなんとなく半信半疑の気持ちでぬぐうことはできませんでした。この次何かを見たら、その場を動かないで観察しようと思いました。

ケヤキの茂みから出た！

翌一〇月一日、夜七時に駅前へ行きました。このとき、私の生涯で忘れられない素敵な光景に遭遇したのです。まるで夢を見ているようでした。

昨日個人的なお願いをして調子が良かったので、今日も同じ内容のお願いをしてテレパシーを送りました。

私は今までに心霊の世界で何かを見てしまったという経験は皆無でございませぬ。呼びかけ中の私の仕事はアゴを持ち上げていることだと今までは思っておりませぬ。

ところが、突然、あまりに低い三和銀行のケヤキ並木の茂みの中から、なんと楕円形をした物体が出てきて、その左半分が輝きだしたのです。もうびつくりしました。それは玉子の濃いめ

の黄身色をして、とにかく鮮明この上ないものです。

それはすぐに茂みから滑り出すようにして、長めの美しい正楕円形の姿を現しました。たぶん楕円の直径が五〇センチ以上一メートル以内といったところでしょう。

平面ではなく、ころなしカレリーフされている雲状の柔らかな固まりという感じでした。

空中のスクリーンに映像が

あれよあれよと思うまもなく、今度は左上方から全く同じ色の雲みたいな物が、右上、左下からも体を小刻みに揺らしながら出現してきたのです。

このときすでにケヤキ並木や背後の建物やパチンコ店の華やかなネオンはすっかり消滅し、一変していくぶん白濁した明るめの夜空がスクリーンになっていました。

まわりの空との境界線はなく、自然に溶け込んでいました。これらの雲状物体の映像はすべて二次元的に同一平面上を動きまわるのです！

離れていた「雲」は、ある瞬間にスクリーンの中程に集まっていて、すでに小さな楕円と化していました。このときの楕円の集合体の形が思いだせないのです。

四つが九〇度ずつ交わっていたのならば、時間的に短くてもインパクトがある画像なので覚えていられたでしょ

う。おそらく縦横二列ずつで四角形のようになり、体を寄せ合うようにして、お互いが個々に体を小刻みに揺すつていたのでしょう。

次の瞬間、右上に個々を保ちながらアミーバの形をした不定の集合体として激しく揺れていました。この位置は三和銀行の建物の先端からちょっと斜め上の空の部分ですから三和銀行はスクリーンになっていません。

テレパシーに依って変化

物体群は今度はいきなり、また最初の大きな楕円の四つにもどりまして。

全く同じ映像の中楕円、アミーバと再生がくり返されました。三回はくり返されたでしょうか。もしかしたら四〜五回だったかもしれません。

一度大きな楕円が出たときに、「UFO だったら広がって下さい」と心で思いました。

そうしたら、ちゃんと力強く外側に向かってグイと四枚の花弁が開きました。肉眼ではつきりと認識できました。最後にアミーバの映像が出てから、スイッチが切れたように静かに夢の世界は終わりを告げました。短くもなく長くもなく、三〇秒以上一分以下といったところかもしれません。

画像が消えたあとには、何事もなかったように車が往来し、人々が行き交うふだんの光景があるだけでした。人々のパニックは起こっていません。

パニックは私だけです。

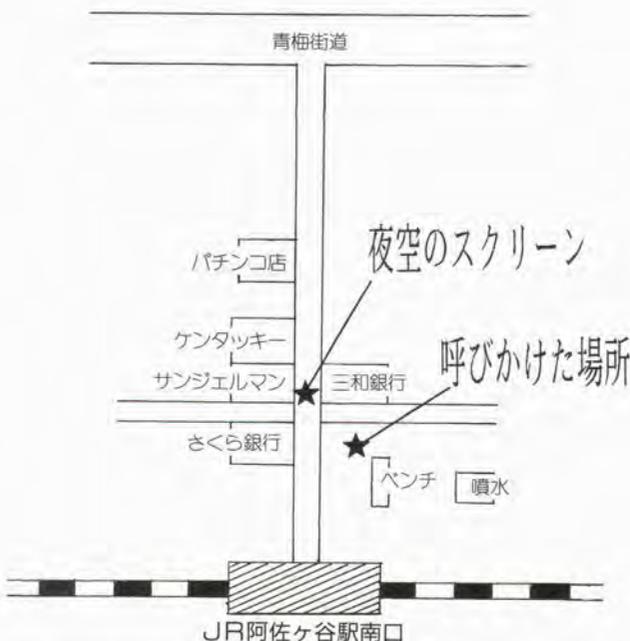
「やったー！」と心の中で叫びました。何日間もボートとした心地良さを楽しみました。

今にして思えば、あんな混雑の中でUFOに呼びかけるなんて、なんと向うみずだったことでしょう。私はスペース・ピープルに対してエレガントではなかったと反省しました。私はピュアな愛に満ちたスペース・ピープルを心から愛しております。これから先はひとえに私の心の成長にかかっています。

へ編注川駅前の人が多い場所で他に目撃した人はいなかったのかという編者の質問に対して、筆者は次のように回答した。

あたかもスペース・ピープルが空中にスクリーンをはりめぐらせて映像らしきものを見せてくれたとしか思えない、この素晴らしい光景の「映写」が終わった後も、町は平常どおりであり、黒山の人だかりができたり、何だ何だと人々が騒がなくても、特に駅から青梅街道方面に向かう車の人々は、道路幅一杯、いえ、ケヤキ並木まで張り出していたかもしれない。大型スクリーンと鮮明な「画像」を真っ正面に見る位置にありましたし、私もその位置に立っていました。

それに高架線になっていく駅のホームや商店街もありますし、夕方七時と

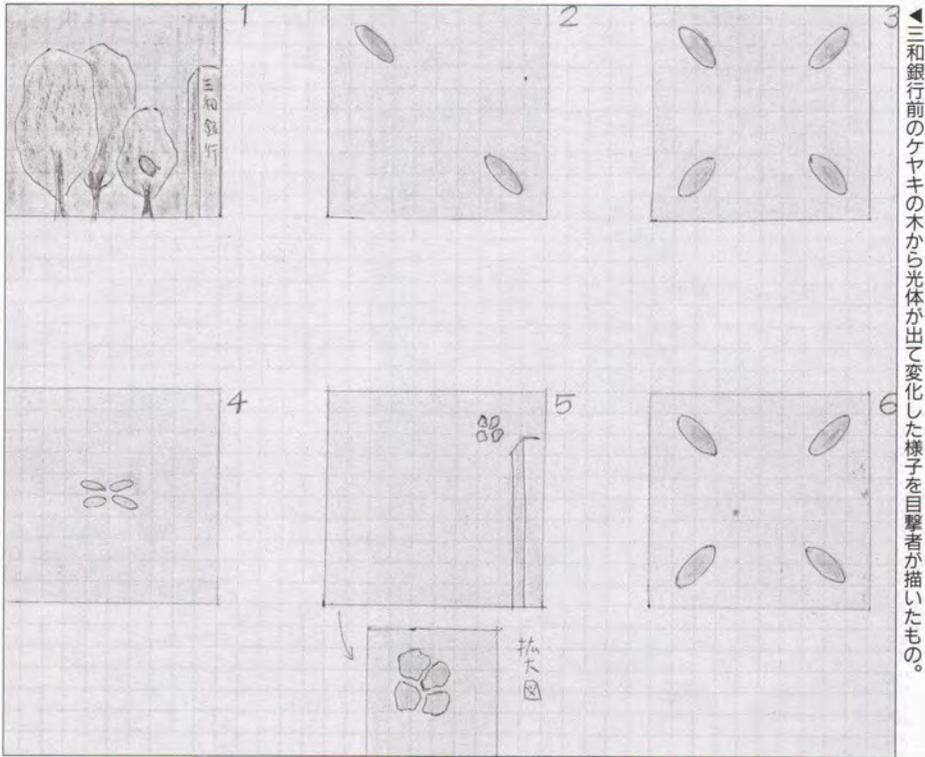


いう時間帯ですから、さまざまな場所で目撃されているかもしれません。

しかし私は「あなたも見ましたか」と人には聞きませんでした。そのような気持ちの余裕はなかったのです。目撃者は他にもいるかもしれませんが。

ただ私の個人的見解として、私が立っていた所は空中の「放映中」、三和銀行の屋根の先端を確認していますので、駅前広場の大きなヒマラヤ杉が邪魔にならないようなバス停の人々から少し

離れていた位置でし、噴水の周りのベンチからは木々が邪魔になつたりして、角度的に案外ケヤキ並木は見えにくいのです。したがって、孤立していた私にだけ「映像」を見せてくれたのでしょうか。あるいは受信者である私の精神波動に発進の波動を同調させて「画像」を送ったために、他の人には全然見えなかったのでしょうか。私にはよくわかりませんが、何かのすごい技術が応用されたのでしょうか。



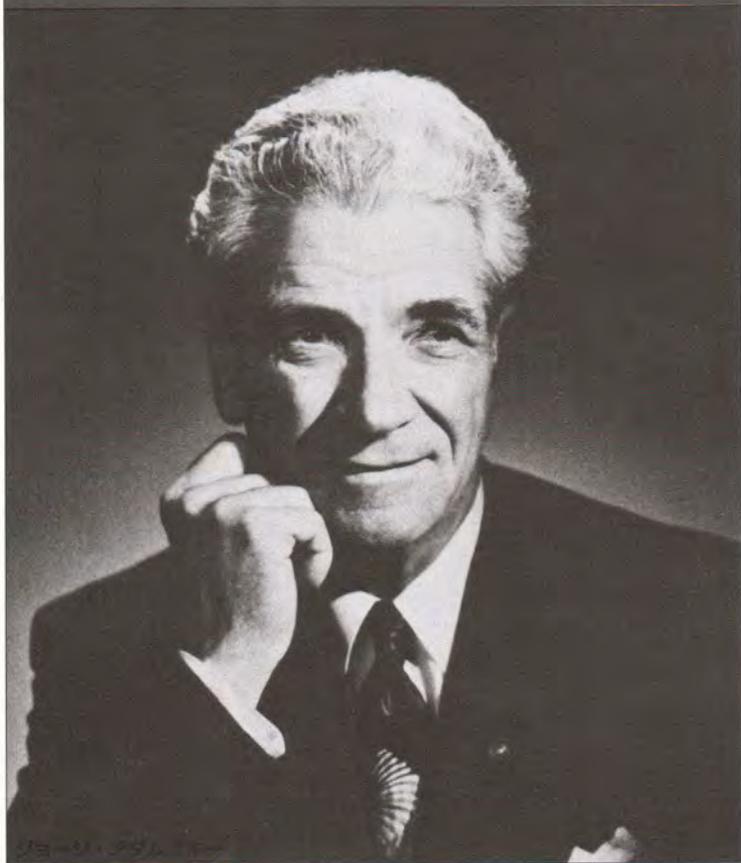
▼阿佐ヶ谷駅前で筆者が目撃した位置から撮った写真。右側のケヤキの茂みから最初に光体が出た。



重力と宇宙の自然のパワー

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳（アダムスキー講演集 連載1）

超絶的な宇宙的哲人でコンタクティーであるアダムスキーが生前に全米各地で行なった講演の膨大な記録を入手して本誌は本号より多年にわたって連載を開始することにした。いずれも未発表のものばかりで、宇宙哲学と宇宙科学の最先端を行く驚異的な内容は、地球世界の未来の動向に関して重要な指針となるものである。今後の展開を期待されたい。



地球に住むすべての人類が、
己自身を知るに到らんことを。

はじめに

アリス・ポマロイ

ジョージ・アダムスキーが世界してからすでに多くの年月が流れ、今や新世代の人々が充分な成長を遂げるに到った。しかし彼らはこれまでアダムスキーに会うこともなく、彼を知ることもなく、彼の話を聞くこともなく、ひいては人類のための大いなる知恵に満ちた彼のメッセージに接する機会を全く持つことなく成長してきた。よって私はここに、特にそのような彼らのために、アダムスキーが私たちに残したこの上なく価値ある言葉の数々を紹介したいと思う。

彼の業績の哲学的側面が、彼にとつてどれほど多くの意味を持っていたかを知る人々は、極めて少ない。他の惑星群から訪れた高貴な兄弟たちは、彼らの惑星群との比較を交えながら、地球の状況に関する多くの重要な情報を彼に伝えた。彼らはアダムスキーを彼らの宇宙船に連れて行き、そのメカニズムを、さらに彼らの惑星群での人々の生き方を話して聞かせた。

アダムスキーは言った。

「彼らの宇宙船を見ることも悪くはない。でもそれは、そのときだけだ。し

かし、人類の進歩のための彼らのメツセージは、もし私たちがそれに注意を払い続けたならば永遠に価値あるものとして残ることになる」

多年に渡つて、ジョージ・アダムスキーが実際に口にした文章を、完璧な単語群やフレーズ群からなる素晴らしい英語に「翻訳」すべく、真剣な努力がなされてきた。しかしここで紹介する彼の一般講演、私的講義、および質疑応答群は、極力、彼が実際に私たちに語つたままの姿にとどめてある。それによつて各個人がアダムスキーの語つた本物の言葉に接し、それを自分自身の方法で、自分自身の手によつて解釈できるようにと配慮をしたからである。

点線によつて強調されている部分は、彼が実際に強調して語っている部分である。途中、ほんのわずかではあるが、私の注釈を括弧でくくつて挿入してある。そして、読者がより良い理解を得るためにどうしても必要だと思われた極めて少数の訂正箇所を除いて、彼の言葉には一切手を加えていない。

彼の話の多くの部分が、聖書の記述と同じように読めば読むほどより深い理解を読者にもたらすことだろう。真実は永遠である。私たちはそれを、さまざまな異なった形で実践しなくてはならないかもしれない。しかし、真実は永遠に不滅である。

このコレクションから読者は、ジョ

ージ・アダムスキーの真の精神、彼の溢れんばかりの熱意、そして誠意を、余すことなく感じ取ることが出来るだろう。彼はその話の中で日常的で単純な事例群に、ときおり驚くべき事実を加え、さらには彼自身の体験を織りまぜるなどして、自分の教えを見事に浮かび上がらせている。そしてどれも、とにかく面白い。

アダムスキーは、いかなる人々にも話すことができた。高い教養を持つ人々にも、そうでない人々にも、彼は常に彼自身の「言語」で語つた。相手が一般大衆であろうと権力者であろうと彼はいつも同じように語つた。彼はあらゆる種類の人々を愛していた。宇宙的な感覚を身につけていた彼にとつて誰もが彼自身の兄弟だった。そして彼はすべての人々に同じ誠意と敬意をもつて接した。

彼は、自身がまだ二歳に満たない頃に、ポーランド人の両親に連れられてこのアメリカに移住してきた。そして、かなりの貧困の中で成長し、正式な教育をほとんど受けていない。そのため宇宙哲学の啓蒙活動を開始したばかりの頃の彼はとても恥ずかしがり屋で、人前で話すことがひどく苦手であったという。はじめて演壇に上がったときなどは足の震えが止まらなくて、立っていられなかったほどだったという。そのことを彼は、ことあるごとに話していた。

しかし彼はどんなときにも、ベストを尽くそうとすることだけは忘れなかった。そして彼が話を始めると、いつでも人々は真剣に耳を傾けたという。その未熟な英語と、ときおり大きく話題が変わる話し方にもかかわらずである。彼が真実を語っているということが誰の耳にも明白だったからだ。

彼は常々、教育に関して、「この世界全体が私の教室だ」と語っていた。そしてさまざまな例をあげながら、「私たちが何も学び得ないときなど一瞬たりとも存在しない」と強調していた。彼は言つていた。

「私たちは、私たちの創造主に似せて創られたのだ。そして創造主は、私たちが生きる姿勢と理解力の面において、創造主のようになることを望んでいる。だから私たちはそのための努力をしなくてはならない。さらに創造主自身も今なお進化の過程にある。だから本当に真剣な努力を続けなければ、私たちはいつになつても創造主の期待に応えられないだろう」

それは、すべての人類に対するジョージ・アダムスキーの期待でもあった。人前で話すことに慣れてからは、彼の活動は極めて順調に推移した。徐々に彼は、より落ち着いて、より自由に話す技術を身につけていった。そしてある頃からは、原稿を全く用いずに話すようになった。

私の知る彼は、いつも前もつて二、

三のポイントを頭に刻み込んだら、あとはそれにそつてまさに即興で自由に言葉を組み立てていた。

また彼は人々の心を読み取るのがとても得意だった。彼らの無言の質問を察知し、それに答えるべく話題を急激に変えることも少なくなかつた。

彼はときおり、私たちが追いつけないほどの早口で語ることもあった。アイデアがあとからあととどめどなく湧き出てくるためである。

その一方で、話の重要な部分にさしかかつたときなどは、じっくりと間をあげながら、とてもゆつくりと、ことさらはつきりとした口調で語つたものだ。そしてそのあと、ポイントをさまざまなアングルから説明すべく、意図的に話題を変えるのが常だった。

また、彼の話の中には、その優れたユーモアのセンスがよく顔を出し、真剣な問題を論じている最中に登場しては聴衆にくすくす笑いを提供し、会場を大いにリラックスさせている。

それと、彼は譬え話の大きなリストを持つていた。それぞれの話が時間と場所を変えて何度もくり返し登場した。しかし、それらが全く同じように語られたことは一度もない。

彼は自分の論点をときおり宗教を例にとつて説明したりした。多くの場合、ユーモアをたつぷりと交えつつである。ただしそれによつて彼は宗教を非難したのではない。多くの矛盾を抱えて

いる宗教を、彼が植えようとしていた真実の種子のための絶好の畑として利用したにすぎない。

彼の質疑応答は常に大きな盛り上がりを見せ、その行く末は誰にも予想不可能だった。ただし、ときには極めて短い答えもあった。ほとんど一言で済ませたりすることもあったほどである。あまり重要な質問でない、あるいは説明しない方が良くと判断したときなどがそうだった。しかしその他の場合は、いくつもの例をあげながら延々と語り続けるのが常だった。

質疑応答は、特定の分野に関しては講演や講義などよりもずっと生産的であると言えた。よりリラックスした状況で、時間を気にすることなくじっくりと語ることができたためである。彼がよく話の合間に見せたいくつかの単純な表現は、彼の大きな誠意を如実に垣間見せていた。たとえば一つの説明を終える際に、彼は一呼吸おいて優しく「分かりますか？」と尋ねるのが常だった。「さあ、これでわかったでしょう？」などと決して言わずにである。

続いて、質問者が理解したことを確認すると、「オール・ライト (all right)」ならぬ「オーライ (awright)」という言葉とともに、素早く別のアイデアに頭を切り換えていた。

また説明を始める際、彼は *for an example* という言葉をよく用いてい

た。

〔訳注〕「たとえば」の意味で言っているのだが、正しくは *for example* という(したがって、*for instance* とか、*to explain* (訳注) いずれも「たとえば」の意味)といった表現や、さらに *for example* という言葉さえも、彼の口からはほとんど出ることにはなかった。

よって、私は、彼の講演、講義、質疑応答の記録を、ジョージ・アダムスキー自身を説明するための「*For an Example*」と題して読者に提供することにした。このコレクションから読者は彼の哲学的信念、真実への理解、そしてすべての人類への深い愛を敏感に感じ取れることだろう。その中で彼は、彼自身が最も重要だと感じたことを私たちに余すことなく分け与えてくれている。

じっくりと読み、大いに楽しんで頂きたい。そして、あなた自身、およびあなたが住んでいる世界に関して、あなたがより深い知識を得られることを、切に願ってやまない。

敵対者は私を阻止できない

ジョージ・アダムスキーが他界した翌年、人々が彼の生の言葉にいつまでも聞けるようにとの意図のもとに、彼が長年に渡って行なった講演、講義、会話等の録音テープの編集作業が行なわれた。その結果、四本のテープが作

られ、それぞれに、*1-A*、*2-B*、*3-C*、*4-D* とラベル付けがなされた。

すべての一般講演において、彼はその時期に世界で発生していたことに關する話にかなりの時間をさいていた。ここで紹介する彼の講演の中でも、その傾向ははっきりとあらわれている。彼はいつも、そのときに起こっていることを、スペース・ブラザーズ(友好的な異星人)が実践している科学あるいは哲学と関連付けて説明しようと努めていた。

カンザス市での質疑応答の中では、イエスと救世主に関する質問が発せられているが、それに対するアダムスキーの答には、ある生命の法則の重要な鍵が含まれている。宗教的な言葉が用いられてはいるが、その下には、極めて重要な「本質」が横たわっており、それは、科学、社会問題、自然その他のあらゆる分野のいかなる言葉にも変換され得るもので、私たちが、どんな環境にあっても実践し得る法則である。

ビンガムトンでの私的講義および質疑応答は、彼が他界するほぼ一年前の一九六四年三月に行なわれたものである。その日、私たちグループはある個人の家に集まり、彼と昼食をともにした。そして、そのあとで彼は話を始めたのだが、私たちはもうただただその話に魅了されるばかりだった。内容の素晴らしさに加えて、いつになっても

話すのをやめようとしなれないのだ。途中、私たちのリーダーが、彼の来訪に対する感謝の言葉と、もう疲れたのではないかという趣旨の言葉を、彼に三度も投げかけたほどである。しかし彼は延々と話し続けた。それが彼の習慣だった。時間が許すかぎり彼はいつも延々と話し続けたものだ。時間と知識を人々と共有することに常に意欲的で、ときおり休憩時間をとらねばならなくなったりしたときには、とてもつまらなさそうにしていたのを覚えている。

ビンガムトンでのデイナーパーティーでも彼のその習慣はくり返された。それはまさに昼間の再現だった。ただしそのときは男性の参加者が増えたため、必然的に昼間よりも科学的あるいは機械工学的な話題が多くなった。

サンフランシスコでの講演は、おそらく一九六〇年に行なわれたものである。それ以前にも彼は当地での講演を予定していたが、そのときは健康状態が思わしくなく、中止を余儀なくされている。

このサンフランシスコ講演は、例の世界講演旅行——その途中、彼はほとんど殺されそうになった——から帰国して間もない時期に行なわれたため、その旅行中の体験がまだ生々しく心に残っていたようだ。講演の中で彼は、「敵対者たちは絶対に私を阻止することはできません」という言葉を何度も口にかけている。さらに、自分が受けた

敵対的扱いに対する反応として、**両替商たち**とこの世界の経済状況に関して、**ふだん**の彼の講演では考えられないほどの、かなりの踏み込んだ講義を展開している。また、当時多くの人が自宅の裏庭に設置しつづつあった防空壕についても触れ、**「もぐら穴」**という言葉でそれを表現して聴衆を喜ばせている。

さらに、当時彼は、自分の活動の UFO に関する部分にある協力者に任せ、自分自身は、人々に宇宙の法則を教え、その実践を促すための学校の建設とその運営に専念したいと考えていた。その計画はもちろん日の目を見なかった。計画半ばにしてこの地球を去らざるを得なかったためである。

彼はサンフランシスコでの科学講演を次の言葉とともに開始している。

「私がおおよげの場で講演をするのは、これが最後だと思えます。あなたがたはこれから私の最後の一般講演を聞くことになるわけです」

アダムスキーは、心霊、あるいは神秘グループに、ときおりひどく悩まされることがあった。彼の心には彼らへの敵対意識は全くなかったのだが、彼は、彼らを自分の真実のメッセージの最も届けにくい人々であると感じていた。

ボストンでの講義中に、こんなことがあった。その場にいた形而上学のパックグラウンドを持つ数人が、ある時

点で彼に対してさまざまな質問を矢継ぎ早に浴びせ始めたのだ。彼に自分のアイデアと彼らのアイデアとの違いを説明する時間を全く与えないほどの速さである。しかしアダムスキーは、たじろぐことも混乱することもなかった。彼は大きな忍耐を保ち続けていた。ただ、それは人々を援助することがときにはとても困難なことがあるということを実に示す出来事だった。事実、アダムスキーはそんなグループからの講義の要請を何度か断っている。彼らを援助することが極めて困難であることをよく知っていたためである。

ジョージ・アダムスキーが訪れるあらゆるところで、人々は彼の話をテープに録音し、あとでそのコピーを彼に送った。そして私たちも例にもれず、あるとき彼にテープを送る旨を申し入れたのだが、そのとき彼は、すでにテープが山のようになっているのも、もういらないと私たちに告げた。ただアルゴンキンでの講義のときは別だった。その講義のあと、彼は私に録音したことを尋ねてきた。そこで私が録音したことを告げ、コピーが欲しいのかと聞くと、彼はぜひ欲しいと言ったあとで、「今日私は、ブラザーズがとても近くにいるのを感じていた。彼らは私に大きな援助を与えてくれていたんだ」と語って、物思いにふけていた。その思い出を彼はテープとともに保存しておきたかったのだ。

そして、彼のその日の講義は私たちにとつても特に忘れたいものとなった。とても重要なものだったのだ。彼が行なったほとんど最後の講義となったためである。

私たちと別れて次に彼はデトロイトへ行った。そして、そこでも講義を行なったあとで、また私たちのところに戻り、二、三日を過ごしてから、政府の要人たちに会う予定だと言いつつワシントンに向かった。

彼が私たちを残してこの地球を離れたのは、それからわずか一週間後のことだった。(一九九一年一〇月)



(一九六〇年代初頭、カリフォルニア州
ヴィスタの自宅における私的講義)
まず重力を克服すること

最近、月に宇宙船を送る、あるいは、宇宙ステーションを建設する、といった計画がひんぱんに話題になっていきます。しかし私たちに、その前にまず克服しなくてはならないことが一つあります。私たちがそれらの計画を達成するためには、まず重力を絶対に克服しなくてはならないのです！ しかもそれは決して容易なことではないでしょう。

私たちを母なる地球に引き付けているその重力という力に関して、私たちはまだあまり多くを知りません。しかし私たちは、鳥たちが自分で身につけ

たある動作を行なうことによつて、それを見事に克服している事実を知っています。それは、私たちに、ある作用——ある逆の作用こそが答えであるというヒントを与えています。

これと同じ法則は、その昔、いわゆる心霊術師たちによつて知られ、用いられました。そしてそれは物体浮揚の法則と名付けられ、今に到っています。あのピラミッド群を造る際にも、おそらくこの法則が用いられたのではないでしょう。

今この地球にやつて来ている例の宇宙船群(UFO)を、私たちは大きな驚きとともに眺めています。そして知性的な人々のほとんどは、それらを地球外の宇宙船であると考えています。私もそう信じる人間の一人です。したがって今日の私の話はその前提に立つたものです。

一九三八年に私は物体浮揚の法則に関する論文を書きました。そして、それ以降、それに関する講演も行なってきました。それから一九四九年に私は重力は反対方向にも働いているという見解を述べました。

ちょうどその頃、アインシュタインが相対性理論とともに登場しました。そしてその中で彼は重力は一方通行であると述べました。しかしその一年後、五〇年代に入るや、彼は統一場理論の中に、重力は反対方向にも働いているというアイデアを持ち込んでいます。

もちろん彼はそれを私のように誰にでもわかる簡単な言葉によつてではなく、とても科学的な言葉で表現したので、いづれにせよ、それに力を得てその後も私はそれに関してあれこれと思いを巡らしました。

そしてやがて異星人たちの宇宙船の一つに乗せられて彼らとともに宇宙旅行をする機会を得たとき、私は論文や講演の中で示した物体浮場の法則に関する自分の理論がさほど真実から離れていなかったことを確信するに至りました。

重力の法則に従った宇宙船

そのとき私が学んだことは次のようなことです。

彼らは、まず彼ら自身の惑星を徹底して研究しました。私たちもそうしなくてはなりません。その研究の結果、彼らは惑星は二通りの動きを持つこと。さらにそれは人工的な推進力、あるいは支える力などに頼ることなく、まるで風船のように宇宙空間に浮かんでいるということを知りました。

それは彼らの惑星に限ったことではありません。この地球に関しても全く同じことが言えるのです。そして、私たちはその中ではなく、その上にいます。しかもそれは、常にとつともない速度で宇宙空間を移動し続けています。もし人間がそんな速度で移動した

ならば、とても生きることなど不可能だと誰もが考える速度です。でも私たちは生きています。

ある自然の法則がそれを可能としているのです。重力の法則です。彼らはその法則を学びました。彼らの宇宙船はその法則に従つて建造されました。

その法則の支配を受けるように造られました。要するに彼らの宇宙船は「人工惑星」なのです。ただし彼らはそれを軌道の法則に縛られることなく、自分たちの思つた所に移動させることができます。普通の惑星であれば、その法則に縛られて常に太陽の周りを回っているわけです。しかし彼らはその軌道の法則から宇宙船を解き放つ方法をマスターしたのです。そして、自分たちの意志に従つて、それを自由にどこにでも移動させることができるようになりました。

それは基本的には自然の諸法則に従つて水に浮かんでいる船とそれほど変わるものではありません。ただしその船は乗っている人間の意志に従つて、彼が行きたいと思ふいかなる所にも移動できます。

重力の法則を学び利用することで、彼ら（スペース・ピープル）は宇宙船の内外に自分たちの住む惑星を作り出しているのと同じ理想的な環境を作り出すことに成功しました。

私たちは今、時速一〇万キロメートルを超える速度で太陽の周囲を進行し

ています。そのようにして一年すなわち三六五日をかけて、約九億五千万キロメートルもの距離を旅しているのです。

それに加えて、時速一七〇〇キロメートルもの速度で、二四時間に一度自転をくり返しています。以上の二つの速度を組み合わせたとしたら、いったいどれほどの速度になることでしょう。まさにとつともない速度です。

もし今の地球の飛行機が時速三〇〇〇キロメートルで飛行したとしたら、その中で人間はおそらく生存できないでしょう。私たちの飛行機はスペース・ピープルの宇宙船にくらべると実に幼稚な乗物にすぎないのです。乗っている人間はまず生きられません。なぜなら私たちの飛行機は、異星人たちの宇宙船や地球などの惑星が持つような「保護場」を持たないからです。

私たちは今この地球にこうして座っています。その動きを全く感じません。でもこの地球は今とつともない速度で動いているのです。しかもただ一方方向に進行するのみならず、それ自体が回転しながら進行しているのです。でも私たちはそれに全く気づきません。

なぜ母船上を歩くことができたか

かつて私は書物の中で、彼らのスカウト・シップ（いわゆる空飛ぶ円盤）に乗って宇宙空間に浮かんでいた母船

と合流したあと、船外に出て母船の上を歩いてハッチに向かい、そこから母船内部に入ったと述べましたところ、それを読んだ人々は大きな疑問をいだきました（訳注）この部分は新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」の三三八〜九頁に詳述してある。

「そのときアダムスキーはなぜ吹き飛ばされなかったのだろうか？」と読者は言っていました。

考えてみて下さい。私たちは高速で進行する地球からなぜ吹き飛ばされないのでしょうか？ これと同じことなのです。

私たちは今話したようなとつともない速度で進行中の地球の上を歩いています。そんな速度で移動中の乗物の上に立ったりしたら、あつというまに吹き飛ばされてしまいます。でも私たちは吹き飛ばされないのです！

（訳注）アダムスキーの乗った大母船は人工的な重力場を帯びているために頂上を歩くことができた。この母船は船体の周囲に大気層をも帯びているので、高空の宇宙空間でも宇宙服なしに頂上で呼吸できたのである。アダムスキーの前記の書物にはそこまでの説明がなかったために、発行当時は全くのインテリ扱いされてしまった）

この重力の法則は、ある意味ではとても単純なものです。ただしその単純さのゆえに、説明がひどく困難です。

まず求心力がその一部をになつていきます。ただしその全体は電磁気です。求心力はそれ自体に向かつてあらゆる物を引き寄せます。私たちはそのことをよく知っています。それは惑星全体に及んでいます。

しかしその求心力を生み出しているのは、どちらの力、あるいはどちらの速度なのでしょうか。二四時間単位のものなのでしょうか。それとも三六五日単位のものなのでしょうか。

一方は時速一〇万キロメートルで三六五日を周期としているものであり、他方は時速一七〇〇キロメートルで二四時間を一周期としているものです。それらのうちの一つが求心力にかかわっており、もう一つはそこで発生するある種の揺れを矯正するためのジャイロスコープ的な働きをしています。

重力克服の秘密は

実は重力を克服するための秘密の一つが次の事実の中に存在しているのです。

ある振動場内で作り出される力、つまり波動または活性化されたエネルギーは、日常的に機能している力よりもほんの少し上回るものであって、それは地球の軌道からいかなる物をも解放します。

もしそうでなかったら、私たちが宇宙に飛び出して行くことは全く不可能

なことになると思います。異星人たちが地球へやって来ることも全く不可能になるはずですが。彼らの惑星もこの地球と異なる変わるものではないからです。

自然の諸法則をしっかりと学ぶことにより、彼らは宇宙船の周囲に、惑星がその表面に保持しているのと全く同じ状態を作り出すことができたのです。彼らが慣れ親しんでいる重力と大気からなる状況です。私たちはこの地球上で今、一気圧と一Gに慣れ親しんでいます。それこそ私たちが自分の宇宙船の周りに作り出すべき状況なのです。

そうすれば、私たちは、たとえその宇宙船が超高速で進行中にも、その上に座っていられることとなります。今こうして時速一〇万キロメートルもの速度で移動中の地球の上に座っていられるのと全く同じことです。

そうです。私は宇宙空間でスカウトシップから外に出て、母船の上を歩いてハッチまで行き、そこから母船内に乗り移りました。そのとき私は、いかなる風も感じませんでした。無風の地球上を歩くのと全く同じように私は歩きました。それは何ら不思議なことではないのです。

ただし私たちは古い理論や古い可能性などをいくつか忘れてはなりません。私たちはすでに不可能の段階を通過しました。今や私たちは可能な段階にいます。でも私たちは今なお、古くさい「不可能」という檻の中

に住むあまりにも多くの物事に優先性を持たせています。

求心力は地球に向かつて働いていますが。それは、そうやってあなた方を地球にしっかりとつなぎ止めています。しかし、それは、あなたがたの頭まではつなぎ止めていません。そうでしょう？ それが地球につなぎ止めているのは、あなたがたの足だけなのです。

求心力は木の根っこを地球につなぎ止めます。しかしその頭まで下に引っ張ってつなぎ止めたりは決してしません。逆にそれを根こそぎ引き抜いて宇宙空間に飛ばしてしまうことも、もちろんしません。木は地球にしっかりと根を下ろし、その一方で、その頭はたとえ地上何メートルの高さであれ、可能な限り上に延びて行くことを許されています。

なぜなのでしょう？ 人間が一般に用いる判断力をもつてすれば——それはときおり、とてもおかしなものなのですが——片方が地球方向に引っ張られているというのに、もう一方が上に伸びて行くというのはどういうことなのだろうか、という疑問が発生するはずですが。

その答はこうです。地球の持つ二通りの動きが二通りの作用を発生させているからです。地球方向への重力と、地球と反対方向への重力です。

では、その二通りの作用はどこにあるのでしょうか？ その存在をどうし

たら証明できるのでしょうか？ それはどこにあるのでしょうか？

惑星上のすべての生命、すなわち人間の生命、動物の生命、植物の生命のすべてが上方に向かつて成長しているではありませんか？

もし重力が地球方向にだけ作用し、もう一方には全く作用していないとしたら、私たちは、足同様に頭も地面につけながら移動しなくてはならないこととなります。その他のすべての生命体に関しても同様です。しかし現実はそのようではありません。あらゆる形ある物が一方のみを地面につけています。

そしてもう一方は可能な限り上に行くことを許されています。片方は引き寄せられ、そしてもう一方は外側に押しやられているのです。

異星人たちの宇宙船の中で私が見た物の多くは、一見とても不思議なものではありましたが、実は決してそうではありませんでした。それらは単純という言葉以上に単純なものでした。自然とはそれ自身がとても単純です。その法則を宇宙船内で利用することにより、彼らは引き寄せる力と押しやる力を自動的に作り出しているのです。

船体を保護する フォース・フィールド

彼らの宇宙船は、それが必要とするあらゆるエネルギーを宇宙空間から取り入れています。というよりも、それ

以上のエネルギーを取り入れていると言っているでしょう。実際、彼らの宇宙船は、それが取り入れて蓄積するエネルギーの一〇パーセントのみで通常の稼働が行なえるのです。それは宇宙のあらゆる惑星とあらゆる天体を支配し動かしているのと全く同じエネルギーです。

では、その余分な九〇パーセントのエネルギーは、捨てられてしまうのでしょうか？ いや、そんなことはありません。それは私たちの観念では不可能としか言えないような速度を出したり、急激な方向転換をしたりすることに用いられます。

要するに、宇宙船のまわりに、彼らが慣れ親しんでいる重力と大気層を作り出すために用いられるのがその九〇パーセントのエネルギーなのです。そのエネルギーの場を私たちは「フォース・フィールド」と呼んでいます。そして彼らがそのエネルギーをどれだけ多く用いるかによって、彼らの宇宙船が宇宙空間に対してどれだけの作動力を行使できるかが決まるのです。

彼らが高温帯を無傷で通過できるのも、そのエネルギー場のおかげです。彼らは高温帯の存在をよく知っていますが、その存在を全く感じることなしに、そこを通過します。さらにこのエネルギー場のおかげで、彼らの宇宙船は宇宙空間に存在するあらゆる障害物の間を難なく通過することができます。

です。

一方、もし私たちがそのような防御機能を持たずに宇宙空間に出て行ったとしたら、私たちの地球製の宇宙船は、流星などの衝突で激しい損傷を負ってしまうことになるでしょう。流星ばかりではありません。宇宙には、顕微鏡を用いなければ見えないような小さなホコリの粒子群が、うようよしているのです。時速四〇〇〇キロメートルもの速度でその中を通過したならば、その宇宙船は、傷だらけになることもとより、それによって発生する摩擦熱によって、月に行くまでに火の玉のようになってしまうかもしれません。

しかし彼らの宇宙船は大丈夫です。フォース・フィールドが、あらゆる障害物から常に船体を守ってくれるためです。またすべての惑星は電離層と呼ばれる大きな壁に取り囲まれています。もし私たちが何の防御機能も持たなかったならば、そこを通過するだけでも大変な被害を被ることになるでしょう。電離層は磁気の層です。しかもとても高密度の層です。ただし、それを通して物が見えないほどの密度ではもちろんありません。しかしいずれにせよ、その磁気の層を無難に通過するには、もう一つの磁気システムが必要となります。

私たちは現在、いわば磁気発生機と磁場との間に住んでいます。磁気発生機が地球で、磁場が電離層ということ

になります。私たちは今その両者間の空間に住んでいるのです。そしてその全体が一緒になって動いています。そのため私たちが地球の動きを感じないので。しかし私たちがそこから外に飛び出そうとすると、問題が発生します。異星人たちが作り出しているような状況を作り出さないかぎり、私たちはその天空から決してすんなりとは抜け出せないでしょう。

そこである人々は電波のことを持ち出します。電波は何の影響も受けずそこを通り抜けて月に到達しているではありませんか？ 彼らはそう言います。でも電波は宇宙船とは違います。電波は波動です。そしてそれがポイントです。彼らの宇宙船を取り巻くフォース・フィールドは一種の波動なのです。それが必要な大気と重力を自動的に作り出すとともに宇宙空間のあらゆる物質との衝突を防いでもいるのです。宇宙空間を航行中に、異星人たちは、電離層や高温帯その他のさまざまな障害物の中を通過します。でも彼らの宇宙船は、いかなる障害物にも触れることがありません。フォース・フィールドが常に両者を隔てているからです。それはまるで、目に見える船を内部に収容したもう一つの船みたいなものです。それが彼らの進む道を常にきれいに掃き清めているため、いかなる障害物も彼らには近寄れないのです。彼らはそうやって宇宙空間を旅しているの

です。もし私たちがこの地球を離れて旅したいと思うのなら、私たちがもぜひそうしなくてはなりません。

宇宙のパワーを利用する

私たちはその力に頼ることがどうしても必要なのです。それは人工的に作り出すことができます。そして私たちはその人工のエネルギー場とともに、おそらく月に行くことも可能だと思えます。今私が言っている人工のエネルギー場とは、自然エネルギー、すなわち宇宙の電磁エネルギーを用いずに作り出したものを意味します。それでもって私たちは月あたりまでは行けると思います。しかしそれが精々でしょう。あまり遠くまでは行けないはずですが、それ以上遠くまで行こうとするためには、エネルギーを常に補給し続けねばならないのです。それが何を意味しようとも私たちが絶対はその力に頼らねばなりません。

それは、こういう意味です。私たちがそのエネルギーに頼ることを始めたならば、そのときから、この世界の経済システムのすべてが変化を余儀なくされるのです。それは私たちが想像し得るいかなるエネルギーよりもはるかに強力なエネルギーです。なぜならば、それは宇宙のパワーだからです。それは宇宙全体を動かしているパワーなのです。この宇宙のあらゆるものがそれ



▲1954年4月25日の早朝、アダムスキーが母船に乗り移ってから左から2番目の丸窓より外をのぞいた光景を、近接した円盤のパイロットが、アダムスキーが持参したポロライド・カメラで撮影した写真。円盤から照射したサーチライトが強すぎたために顔が不鮮明に写った。左端の窓の人物は金星人。上端の輪郭は実際にはもっと大きい。左上の湾曲した部分は、撮影したパイロットが乗っていたスカウトシップ（円盤）の一部分。詳細は新アダムスキー全集第1巻「第2惑星からの地球訪問者」の336頁より掲載されている。

によって活性化されています。あらゆるものがです！ それによらずに活動しているものは、この宇宙に何一つありません！ したがって、それは多くの変化を引き起こすことになるでしょう。それは、もし有効利用が可能になったならば、多くの物事をより良い状態へと変化させます。それは人間の生活をかつてなかったほどに素晴らしいものへと変化させるでしょう。人間はもはや恐怖とともに生きなくなります。病気もなくなりません。なぜならば、それはまさに生命の種子だからです！ 重力、反復力あるいは何と呼ぼうと、そんなことは問題ではありません。この法則を学び、その活用を始めた時点から、この法則は人類の進歩のために、人類の福祉のために、それ自身で生き始めます。それは、人類が夢見たこともないほどの素晴らしい世界を出現させるでしょう。

私は、彼らの宇宙船の中で、驚くべきものをたくさん目撃しました。今の私たちの知識ではとうてい信じられないものばかりです。それらのすべてが、この法則に従うことで可能となったものでした。

ここで少し考えてみてください。私たちが手にしているあらゆるものを作り出しているものは何なのでしょう？ 確かに、私たちは小さな土地を耕し、そこ

に何らかの種子を植え、刈り取ることができます。それで、そこそのものを何とか手にすることができます。でも、それだけです。それ以上のものを私たちが何もしることができません。それ以上のものを手にするためには、そこにもう一つの法則を持ち込まねばならないのです。

それは自然の法則です。その中にはあらゆる物事に関するあらゆる知識が横たわっています。私たちは、それを学び、その利用者とならねばなりません。ただし、その法則には、とても謎めいた性質があります。正しい動機を持たないかぎり、決して学ばれることも利用されることもない、という性質です。そこにこそ人間がそれを学ぶこととの困難さが存在しているのです。(以下次号)

超真相*宇宙人!

工学博士 深野一幸著 / 新書版252頁 / ¥800 送料¥260

徳間書店 / 〒105-55 東京都港区 4-10-1

TEL:03(3433)6231 振替・東京4-44392

多年UFO問題を調査研究してきた気鋭の著者が、膨大な資料を駆使して徹底的に検証したUFO問題専門書の白眉。ジョージ・アダムスキーこそ真実のコンタクティーであったと主張する著者は、アダムスキーの体験を裏付ける各方面のコンタクティー、UFO研究家、宇宙飛行士その他の情報を詳説して傍証固めをしてゆく。迫りに満ちた本書はUFOと地球外文明研究者の必読の書。昨年11月下旬より全国書店で発売中。品切れの節は書店に取寄せを頼むか出版社へ直接注文されたい。(日本GAPでは扱いません)

モアイと UFOの島へ完

文と写真 伊東芳和

翌日から島内観光が始まった。全員で日本製ワンボックスカーに乗り、島を一巡する。海岸線にはモアイ像が見られるが、それらは到る所地面にうつ伏せに倒され、破壊されたままになっている。今、島内に建っているモアイはすべて戦後に修復されたもので、それまで直立していたものは一体もなかったという。

このモアイが作られたのは一〜四世紀といわれているが、その目的はいまもって不明で、現地の美人ガイドさん（ギリシア人？ポルトガル人？）の話では、部族の偉い人が亡くなったときに、それを偲んで作ったという。ただしもつと古いモアイもあり、まだ謎の多い島らしい。今まで発掘されたモアイや遺跡は全部の四分の一にも満たず、発掘されるたびに島の歴史が書き換えられるので、うかつに島の歴史を語ることはできないと、サンティアゴに帰ったとき、山岸氏と交替でガイドを務めた常川勇久氏が語っていた。この海岸では二カ所で倒れたモアイを見た。離れた場所にブオと呼ばれる石の帽子がごろがっており、哀愁がただよっている。

ラノララク山が昔のモアイの製造基地で、山のふもとから斜面にかけて首



▶斜面に点在するモアイ。何を見つめているのか。

だけ出したもの、顔だけ覗かしたものの、座っているもの、その他大小さまざまのモアイが見られ、なかには二〇メートル近いものもある。

その他、島全体が博物館というべき奇妙な遺跡や出土品が沢山あるのだけれども、ここでは述べきれない。最後に、この島には実は多くのUF

▼唯一、海に向いているアキビのモアイ。1960年に復元されたもの。



Oが飛来し、多数の島民に目撃されているという事実がある。また「数年前、このあたりに円盤が着陸した」と説明する村人もいた。どうやらイースター島はモアイばかりでなく、UFOの島とも言えそうだ。

まだ書きたいことは山ほどあるが、紙数の都合でペンをおきたい。今回の

旅行を企画された久保田先生、お世話になった田中さん、同行の皆さんに心から感謝致します。

GAP会員参加者

伊藤芳和（東京）、大滝路子（東京）、

鈴木道郎（宮城県）、島田利勝（長崎

県）、河辺宏幸（東京）、田中正（添乗・

千葉県）

中米マヤ遺跡宇宙ロードの旅

●1993年度日本GAP企画第15回海外研修旅行



アメリカ・メキシコ・グアテマラ・ホンデユラス。
謎とロマンに満ちた古代マヤ族の跡を訪ねて！

写真はメキシコ・テオティワカンの太陽のピラミッド。
右下はグアテマラ・ティカールの第1号神殿ピラミッド。撮影：久保田八郎

★本誌先号の予告では93年度の日本GAP海外研修旅行を「エジプト・イギリスの旅」と発表しましたが、近來エジプトはイスラム教原理主義過激派が外国人観光団を襲撃する事件が頻発し、イギリスではIRA（アイルランド共和軍）がロンドンで爆弾騒ぎを起こすなど、物騒な情勢が続きますので、今年度の海外研修旅行は急遽先行を変更して、表記のとおり古代マヤ遺跡探訪の旅に致しました。★ご承知のように古代マヤは謎とロマンに満ちた謎の種族であり、イギリスの大探検家ジェームズ・チャーチワードによれば、1万2千年昔に水没したムー大陸の栄光ある民族の後裔であるとされており、またジョージ・アダムスキーはかつてマヤの遺跡に宇宙的な遺物が埋蔵されているとみて探検を計画しましたが、惜しくも実現しませんでした。★今回はマヤ遺跡の源泉をなすメキシコのテオティワカンの壮大な遺跡、マヤ遺跡の白眉とされるグアテマラのティカール遺跡、ホンデユラスのコパン遺跡等、興味ある人の垂涎的である各遺跡を、アメリカのサンフランシスコ経由で訪れます。もちろんサンフランシスコの市内見学も致しますし、同地でアメリカGAPのダニエル・ロス氏が温かく迎えて下さいます。めったに行けない手作りの家族的な旅に多数ご参加下さい。ベテランの田中正と久保田八郎が親身にお世話します。日本GAP会員でなくても参加できますので、知人等お誘い合わせ下さい。3ヵ国とも治安はきわめて良好ですから、ご安心下さい。

日程

1993年8月13日より10日間
 13日（金）成田16：45発米コーナィテッド航空機で出発。同日朝米サンフランシスコ着、半日市内見学、同夜市内泊。
 14日（土）午前サンフランシスコ発、午後4：16メキシコ市（首都）着、同夜市内泊。
 15日（日）メキシコ市滞在。午前中は名高い人類学博物館その他を見学。テオティワカンの雄大な太陽のピラミッド、月のピラミッドを見学、登頂。
 16日（月）メキシコ市内自由行動。夜22：50隣国のグアテマラ市（首都）着。同夜泊。
 17日（火）午前グアテマラ空港発、フローレス着。専用バスでティカール行き。古代マヤ最大のティカール遺跡、ワシヤクトゥン遺跡等を見学。夜は美しいペテン湖畔の町フローレスで宿泊。
 18日（水）午前中フローレス空港発、グアテマラ着後、国立人類学博物館、民芸品市場、アウロウ公園等を周遊。同夜グアテマラ泊。
 19日（木）終日グアテマラ市内自由行動。希望者は専用バスでホンデユラスコパンの大遺跡を見学（別途料金）。
 20日（金）午前9時メキシコ市着。自由行動。希望者は専用バスで銀山の町タスコを見学（別途料金）。同夜メキシコ市泊。
 21日（土）早朝メキシコ市発、4時間後サンフランシスコ着、2時間後に飛行機を乗り換えて一路帰国の途に。同夜機内泊。
 22日（日）午後5：25成田着。

- 期間 1993年8月13日（金）より22日（日）まで10日間。
- 費用 59万5千円（2カ所別途料金）
- 定員 20名
- 利用 航空機 米コーナィテッド航空
費用は24カ月払いも利用できます。詳細は案内書をご覧ください。
- 案内書 下記へハガキでお申し込みください（日本GAPでは取扱いません）。〒150東京都渋谷区東3-24-9 ワールドセブントラベル株式会社 田中正 ☎03-3499-2461（夜間は☎0475-89-2039の田中宅へ）
- 説明会 第1回目 本年5月16日（日）
第2回目 " 7月25日（日）
会場、時間等については案内書申込者に後日お知らせします。
- ご注意 8月は1年を通じて航空運賃が最高値になる時期ですから、1～2月頃の最低運賃と比較しても無意味です。この費用は他社と比べて高くはありません。多数の参加者が予想されますので、早めにお申し込みください。
- 企画 日本GAP
- 主催 株式会社 日本旅行
（運輸大臣登録一般旅行業第2号）
- 取扱い旅行代理店
ワールドセブントラベル株式会社
（運輸大臣登録旅行代理店業第1957号）

Letters

ユーコン広場



大成功の昨年度総会

兵庫 宇野秀樹

先日は九二年度総会の大成功おめでとうございました。今年はセミナー形式ということで企画されましたが、これはふだん東京本部月例会に参加できない会員にとっては、とてもありがたいものでした。ゆつくりとおちついて先生の御講義を拝聴できました。

宇宙的に生きるための道標を迷うことなく見つめられるのは一重に先生の御指導の賜物と感謝に絶えません。地球上でも人間の覚醒が着実に展開することを心から望んでいます。総会は、参加する度に関心することを持ち帰り、次のステップに足を乗せていく進歩の足がかりとして、大きな意味を持ちます。たいへんありがとうございました。

夕食会や二次会もなごやかにとても楽しかったです。大阪からは平塚さんと始めとして総勢二三名で参加させて頂きました。他の方々も口々に「素晴らしい総会だった」と語っていました。来年の大阪支部大会でお会いできますことを楽しみにしております。

素晴らしい日本GAP総会

大阪 口ノ町一男

透き通るような青い空、くつきりと見える富士山。素晴らしい天候に恵まれ、最高の気分です。総会に出席さ

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可能な住所氏名明記のこと。

させて頂きました。皆で久しぶりの再会を喜び合う事に大きな意義も感じました。出張続きで夕食会も一時間程しか参加できませんでしたが、とても楽しい時を過ごさせて頂きました。銀座で地下鉄を待っているとき、とても熱いものが体一杯に感じられ、今日一日の大きな感動が熱の塊となって私を包んでくれたように思います。アダムスキー哲学に救われた私達はとても幸福だと思います。

先生から知識として学び、無我夢中で実践したあの忘れられない日々。恐らく私達の人生で最も困難な瞬間の繰り返しであったと思います。本当に長いトンネルでした。しかし今は、妻が私に貴重な時間を提供してくれています。毎週土曜日に英会話学校や放送大学に行けるようになったのです。もう一年近くになります。とても充実した生活になっています。

かねてからの念願であった英語や他言語への挑戦、太陽系や惑星に関する最新の知識など、興味は尽きません。妻が入院していた頃からみるとまるで夢のようです。「看病してくれたその時間を今度は貴方の為に使わせて下さい」。私はこの言葉を初めて受けたとき、何と云っていいかわかりませんでした。「長い人生、後退あれば必ず前進あり」。人より遅れたり

苦しいことがあっても、決して悔やんではいけない。自分のヴィジョンをしっかりイメージして。常にそうありたいと思っています。ゆつくりでもいいから、私は妻と一緒に私達の人生を歩みたい。久保田先生、秋山先生、遠藤先生、平塚さん、本当にいろいろとありがとうございます。今後の皆様の益々のご健勝と御活躍を心よりお祈り申し上げます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

感動の総会

広島 粟田雅則

日本GAP総会大成功おめでとうございます。私は今回初めて総会に参加させて頂きましたが、多くの方が熱心にアダムスキー問題を考え、宇宙哲学を勉強されている姿を目の当たりにして大変感動しました。

御講演も演題の「宇宙的な信念・希望・勇気を引き出す方法」の通り、勇気づけられる内容が盛りだくさんで、久保田先生の波動が体に浸透するような素晴らしい内容でした。特に宇宙の意識との一体感を常時持ち続ける事の重要性や、善悪の観念を一本の棒に例えられての絶対善の考え方等、私自身覚醒させられる思いで聞き入りました。またUFO問題の秘話も聞くことができて大変有意義な講演でした。

総会に参加して特に必要性を感じたことは大宇宙思念法とテレパシー能力の開発です。宇宙的な波動を自ら放つ為には、大宇宙思念法によって「宇宙の意識の中に自分がある」というイメージをしっかりと体に覚えさせて、宇宙の意識との一体化を

図り、テレパシー能力開発との相乗効果により自分の波動を宇宙的に向上させなければならぬと感じました。現在、大宇宙思念法とテレパシー能力開発を少しずつですが毎日続けています。大宇宙思念法は掃りの車の中で、テレパシー能力開発はゼネカードで毎日一〇問。いつまで続くかわかりませんが、今回総会に参加したことがある種のトリガーとなつて能力開発を始めました。

やはり総会に参加するとインパクトが違います。多くの方の熱心な姿を見ますと自分自身のやる気につながります。GAPのエネルギーを充電して帰ったとでもいいたいような。とにかく総会に参加したことにより、Uコンを読んだり月例会のテープを聞くよりもかなり自分にプラスになりました。

大盛況の日本GAP総会

静岡 高梨十光

先頃の日本GAP総会、大盛況大成功で誠にありがとうございました。

先生の御講演を楽しみにしておりました。いつもながらの威厳ある立派な御講演で宇宙的に厳肅な雰囲気がいっぱい感動的でした。数々のエピソードも驚くことばかり。満場を沸かせたユーモアも素敵でした。

また、恐れ多くも小生のことを取り上げて下さり、ステージの上からお声をかけられるとは誠に感謝感激でありました。先生の御講演は日本GAPの熱心な会員にとって、地球上のどんなに有名な学者・大学教授・有名スター等の講演よりも立派で魅力的です。明日への夢と希望と勇気を与えて下さい。ありがとうございます。

うございました。

森の生物とのテレパシー

埼玉 福田あき子

一年ぶりにGAP総会に参加して先生の濃い宇宙哲学を聴講できました。その喜びだけでも行った甲斐がありました。ただ座っていただけで帰宅してから芯から疲れてしまいました。先生は長時間最後まで立ち放し力を抜かず、その精神力はたいへんものかと只々敬服致しました。

お話の中に人間社会における絶対善がありました。それを心がける私の生き方（のつもり）にも現代の流れにそぐわなくて足をすくわれることが間々あります。先生のお話の通り超能力を身に付ける為に、近くの森の静寂の中で深呼吸をして宇宙のエネルギーを体全体に取り入れるように努力しております。今回のUFOコンタクトティー119号は予告通り、今まで以上に充実した内容でした。

《巻頭言》テレパシーについて。いつもの森のなんともいえない匂いと香り、澄み渡る空気の中の小鳥のさえずりと羽ばたき、草花、枯れ葉、腐葉土、キノコ。その神秘的な自然の中で、私はそれぞれのもので手に触れ、話しかけます。目立たない小さな花でも精一杯に最高の美しい姿を惜しげもなく見せてくれます。私はそのような自然にいとおいさを感じます。そして動物たちに真心を込めて話しかけると、嬉しいことに一〇〇パーセントの愛情が返ってきます。どうして無言のうちに通じるのでしょうか。それが私流のテレパシー

いかなと思います。

オーラが見えるようになった

鹿児島市 抜迫英子

ふた月前とても嬉しい体験を致しました。GAPの支部会で皆さんと共に久保田先生の御講演のビデオを見ていた時の事です。当日は長崎の旅行（ハウスステンボスへ行ってきました）から帰ったばかりで、しかも大好きな雲の上を飛んできたので気分が高揚していたのでしょうか、とてもリラックスして静かな気持ちで時を感じておりました。

ビデオ画面の後ろの棚の上にワイネツキという葉が広くて明るいグリーン色の観葉植物が置いてありました。その後ろは窓ガラスで陽の光を柔らかく受けて、とても綺麗でした。「わあ綺麗だなあ」と自然に任せて感じておりましたら突然、沸き出るようにフワッと大きく色が見えました。大変綺麗な透明感のある薄い紫色でした。あんまり綺麗でしたのでしばらく見とれておりました。

あとで紙屋さんというオーラの見える方にそつと訪ねてみましたら、それはその植物のもつオーラというものでした。紙屋さんも同じ色に見えたそうです。私は胸躍る程嬉しくて、家に帰ってからその喜びに浸っておりました。そして後日、神社にお参りに行ったときにまわりにそびえていた楠木でオーラを見る練習をしていましたら、ぼんやりと色を感じる事ができました。でもそれからは忙しきにかまけて忘れておりましたので、どうなっているのかわかりません。今は掌の練習を時々やっております。白い壁などをバック

にすると薄く色が見えるようになりしました。実はこれにはまだ理由があるのです。オーラが見え始めた当初、「生命の科学」を毎日一ページ以上読もうと決心致しておりました。私は改めて「生命の科学」の素晴らしさと深遠さを感じました。ありがとうございました。

男児誕生

茨城県 石井晴美

報告が遅くなりましたが、私達夫婦に二世が誕生しました。結婚してからまだ日が浅いのですが、そのあたりは深く考えないで下さい。

氏名 石井 光

性別 男

生年月日 一九九二年八月二〇日

体重 出生時三二三四グラム

生後八日目の写真を同封します。この子の発展を願って頂ければ幸いです。

誕生時から目をカッと開いて、「ここはどこだ？」というふうに見回しておりました。日本GAPの益々の御発展を祈ります。

光くん(生後八日目)



青年海外協力量隊でパナマへ雄飛

茨城県 伊藤睦史

この度、今年一杯で現在の会社を

退職し、来年から「青年海外協力量隊」に参加してパナマ共和国へ行く事になりました。

大学卒業以来七年半、現在の会社で多くのことを学びましたが、最先端の業界の為に自分の時間が殆ど持てず、ここ数年は「このままで良いのか」とだいぶ悩んできました。最近話題の環境問題については中学の頃から知っていたいろいろな本を読んできました。けれども何も行動に移さなかった自分が情けなくなっていました。とにかく今何か行動に出なければならぬと思っていました。そこで自分でできることは何だろうと思っていたとき目に止まったのが「青年海外協力量隊」だったので、しかし私のできる職種が見つからないので、一年くらい独学で教員の勉強してから料理教師として受験しようと思いました。受験願書には「生産工学」という現在の仕事に近い職種がありました。

ところがこれは非常に珍しい職種で、数年に一度しかも一名だけしか募集がないということでは半ば締めかけていました。けれども応募から合格発表までの四ヶ月間、自分が「青年海外協力量隊」で頑張っているところをイメージしてしまいたら、めでたく五倍の競争率をクリアして合格できました。振り返ると私は人生の重要な分岐点でいつも何かに導かれてきたように思います。大学受験の時、一次試験の結果は到底合格できる点数ではありませんでした。初めての山形支店への参加の時は間違っていた日付を思い込んでいた為に参加できませんでした。また現在の会社に就職しなければ海外へ行く事も外人とコミ

ュニケーションする機会もなかったと思います。実に不思議な巡り合わせでした。

つい最近まで働き蜂のように過ごしてきた七年間は無駄だったのではないかと考えていましたが、「青年海外協力量隊」への参加が決まって自分の人生を良く見つめ直してみました。人生には無駄なものなど何もないのだと気づきました。総てのことが今の自分を形成してくれてこのことに気づいたことは私にとって大きな収穫でした。自分を作ってくれたものに恥ずかしくないように二年間パナマで精一杯がんばってきます。

「南米イースター島の旅」に参加して

東京 大浦路子

国内でもほとんど旅行らしい旅行を経験したことのない私にとって初めての海外旅行でした。外国の生活様式や文化的遺産を見れば実際に自分の内部に何かが目覚めるのではないかと、また、空気と星空が美しい所でスペースイープルの方々呼びかけたい、これらが旅行に参加した目的でした。

ブエノスアイレスでは土地の食物を食べようと意気込みましたが、その内容とボリュームにはびっくり。食生活の違いを胃と腸で感じた旅の始まりでした。

市内観光では時間の余裕があまりない為に足早の見学だと思いましたがしゅつくり味わえたいと思いましたがサン・マルティン將軍の棺のある大聖堂が印象に残りました。厳肅さの中で人々は何を祈っていたのでしょ

うか。その姿を見ると何か暖かい雰囲気を感じて自分も思わず祈らずにはいられない場所でした。

アルゼンチンタンゴのショーでは目の醒めるような体の動きと足の運びに円熟された魅力を感じました。昔タンゴができた時代のどこかやるせない悲しさが伝わってきました。イースター島では食物(特に水)が体に合わなくて、かなり苦しい体験が続きました。軟弱な自分の体に情けなさと怒りを覚えました。

オロンゴ草原での瞑想は澄み切った空の下、すがすがしいものがありました。太陽の光に包まれる幸福感を体全体で味わいました。太陽の力は凄いと改めて見直しました。

ラノラック火山の石切り場にある作りかけのモアイ像や山の斜面に立つモアイ像を見ていると作つた人々の情熱に頭の下がっている感じがしました。(今の時代は何でも機械で済ませてしまいます)

イースター島の夜空は黄金の輝きを放っていました。涙が自然とこみ上げてくるような素晴らしさでした。機内では窓側の席になる度にスペースイープルに対しての呼びかけや皆さんとの観測を行ないました。はつきりとした出現はありませんでした。でも良い経験をさせてもらったと感謝しています。自分のカルマ的な部分や想念のありかたを見つめ直す良いチャンスだったと思います。人生の階段を一步登った、そんな旅行しているとお話になりありがとうございます。

今後も機会があれば、また参加して視野を開きたいと思っています。

本誌バックナンバー掲載記事目録

★下記の他に100号よりあります(102、103号なし)。ハガキでご注文下さい(代金後払い)。バックナンバーに限り送料不要。

No.119 平成4年10月25日発行 ¥900

夜空に不思議な「U」の文字が出現——久保田八郎
私の超能力開発体験と異星人女性との出会い——佐々木八郎
瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快——口ノ町一男
ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る——穴原美智子
神室山上空のUFO——沼倉孝彦
UFO・異星人・地球人——G. アダムスキー

No.118 平成4年7月25日発行 ¥900

イエスの実像と転生の法則——久保田八郎
計り知れぬ影響力をもつアダムスキー——中村省三
宇宙の意識とともに願望を実現させる方法——高梨十光
私のUFO目撃と不思議な体験——川野晶子
音楽は生命エネルギーを運ぶ——鷺見弘
UFO・異星人・地球人(1)——G. アダムスキー
天地万物との一体化で長寿——塩屋信男

No.117 平成4年4月25日発行 ¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現！
地球救済活動を続ける異星人(2)——秋山真人
飛行機を助けた謎のUFO
奇跡を起こす反復思念とイメージ法——久保田八郎
善だけを探し求めてテレバシーが発現——小川隆志
ひとりで物品が動く現象——大嶋順子
思ひどおりに出現するUFO——中島直仁
ジョージ・アダムスキーと異星人(完)——アリス・ボマロイ

No.116 平成4年1月25日発行 ¥900

地球救済活動を続ける異星人——秋山真人
南フランスの不思議なコンタクト事件——中村省三
奇跡的に願望を実現させる方法——テッド・オーウェン
病氣治療の宇宙哲学的応用——高梨十光
ミラクル・ワードとミラクル・イメージ——久保田八郎
江東区上空のUFO——森田久恵
南九州支部からの声——曾我部勇人
ブラザーズに助けられた？——藤沢清則
ジョージ・アダムスキーと異星人——アリス・ボマロイ

No.115 平成3年10月25日発行 ¥900

アダムスキーとUFO問題の真相——ハンス・ピーターセン
金星表面に超長大な水路を発見！
28年ぶり宇宙からの帰還！？
突然消滅した10人の少年少女！
暗闇から現れた不思議な人々——服部哲雄
円筒型の奇妙な物体を見る
謎の飛行物体、米子に出現
UFOの色彩についての考察——斎藤俊徳
UFOと古代マヤの謎——久保田八郎

No.114 平成3年7月25日発行 ¥900

日本GAP 全国ネットワークテレバシーコール UFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景——松村芳之
尽きぬ宇宙へのロマン——高木澤
奇跡を起こす思念の力——遠藤昭則
私は巨大な円盤を見た！——松浦義教
タバヌイの謎の大爆発——ジャン・バジャック博士
アダムスキーの主張は正しかった——ダニエル・ロス

No.113 平成3年4月25日発行 ¥900

ファティマの大円盤出現事件——久保田八郎
奇跡のペンダントと転生の法則——ハンス・ピーターセン
ティモシー・グッドのアダムスキー体験——中村省三
オーラ透視力開発法——遠藤昭則
壁画の奇跡——永山稔恭
江戸川区上空の巨大UFO——北館博子
クリスマス前のUFO出現——伊藤芳和
私のUFO目撃体験——平井紗織
UFO-宇宙からの完全な証拠(完)——ダニエル・ロス

No.112 平成3年1月25日発行 ¥900

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
宇宙人の遺体はロボットだった！——ハンス・ピーターセン
高度に進化した金星人の実態(完)——G. アダムスキー
〈写真〉金星の不思議なスジ模様
青森県に頻発するUFO出現事件
UFO-宇宙からの完全な証拠(14)——ダニエル・ロス

No.111 平成2年10月25日発行 ¥900

高度に進化した金星人の実態——G. アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ——久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO——村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛び——番場博次
松本市にもフットボール型UFO——茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤——堀江健一
私のテレバシクな不思議人生——郡司典子
UFO-宇宙からの完全な証拠(13)——ダニエル・ロス

No.110 平成2年7月25日発行 ¥900

UFOの正体と観測の仕方——本誌編集部
UFO・異星人との遭遇体験記——藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法——久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視——遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話——向井裕
アメリカGAP発足！(完)——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠(12)——ダニエル・ロス

No.109 平成2年4月25日発行 ¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続——G. アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現！
デザートセンター円盤着陸事件(2)——久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち——川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー——遠藤昭則/秋山真人
「アメリカGAP」発足！——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠(11)——ダニエル・ロス

No.108 平成2年1月25日発行 ¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則——G. アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」——久保田八郎
超能力開発の新しい視点——秋山真人
潜在意識としてのDNA——N. H. M. D.
私は巨大な母船を見た——小瀬村美英子
私についてきた光るUFO——郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO——中根豊
ロイよ、来て助けておくれ！——久保田八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠(10)——ダニエル・ロス

No.107 平成元年10月25日発行 ¥900

テレバシー開発法とUFOの実態——G. アダムスキー
マチュピチュとナスカの謎——久保田八郎
私はブルーでUFOを見た——富岡設子
アダムスキーに会った唯一の日本人(完)——向井裕
超能力開発の基礎レッスン——斎藤庄一
宇宙哲学を生かした超能力開発法——遠藤昭則

1993年度

大阪支部大会

千年の古都・奈良へどうぞ！



●奈良県新公会堂

今年も日本GAP大阪支部は盛大な大会を開催致します。今回は趣向を変えて、古都奈良の若草山のふもと、奈良公園内の美しい和風建築様式の新公会堂において、宇宙的な雰囲気をかもし出すよう万全の準備をととのえてお待ちしております。久保田先生の感動的な名講義を拝聴して活力の充電を図ろうではありませんか。大会翌日は近郊の飛鳥に点在する古代の名高い遺跡を見学。ときは絶好の陽光きらめく5月の4連休！ 多数ご参加の程を大阪支部会員一同心からお待ちしております。

大阪支部代表 平塚和義



日時 1993年5月3日（4連休の2日目）午後1：00～4：45

会場 「奈良県新公会堂」1階第1会議室

奈良市春日野町101番地 TEL. 0472-27-2630

- 新幹線「京都駅」で近鉄京都線に乗換えて「奈良駅」下車、東へ徒歩15分。
- JR（関西本線・奈良線）「奈良駅」から奈良交通バス（市内循環）「大仏前」下車。東へ徒歩2分。

会費 ￥3000（全員記念写真希望者は￥1000を別納）

シングル・トリプル共大人1人￥12,360（朝食付）

※宿泊と夕食会は前金制。お支払い方法は申込者に後日連絡の予定。

観光 5月4日（4連休の3日目） 飛鳥サイクリングツアー。
日本建国期の数々のドラマを秘めた歴史の舞台、万葉のふるさと飛鳥は、まさにミステリー之宝庫。まぼろしの古都を求めて飛鳥ならではのロマンに満ちた魅力を満喫します。（正式には奈良県高市郡明日香村）

観光地 石舞台古墳、酒舟石、飛鳥寺跡、水落遺跡、川原寺跡、亀石、天武・持統天皇陵、鬼のまないた、鬼の雪隠（せつちん）、高松塚古墳、高松塚壁画館を見学の予定。自転車に乗れる方はサイクリングで巡遊。乗れない方はタクシーを利用。

会費 ￥3000 ただしタクシー利用の方は割高になります。
申込 夕食会、宿舎、観光を希望される方は、ハガキで下記宛に4月1日までに（必着）お申し込み下さい。申込者には個々に詳細案内書を差し上げます。

※観光シーズンでホテルの空室が少ないため、申込みは早いほうが有利です。

〒661 兵庫県尼崎市水堂町3丁目16-8

平塚和義 TEL. 06-436-3478

備考 5月の月例会は平常どおり開催します。

☆大会プログラム☆

- 司会 宇野秀樹
- 1：05 支部代表挨拶 平塚和義
 - 1：15 講演 久保田八郎日本GAP会長「アダムスキー問題と不思議な出来事」
 - 2：45 全員記念撮影・休憩
 - 3：15 全員自己紹介・質疑応答
 - 4：45 閉会

夕食会 6：00～8：00（希望者のみ）

会場 「奈良スリーエムホテル」宴会場（場所は下記を参照）

会費 ￥6500

宿舎 「奈良スリーエムホテル」 TEL. 0472-33-5656

奈良市芝辻町2-11-11 / 近鉄奈良線新大宮駅前
シングル10室、トリプル（3人部屋）8室を予約済。（ツインなし）

絶賛発売中

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。

新アダムスキー全集

—— 全面改訂・改訳 全10巻 ——

久保田八郎・訳／各四六判



中央アート出版社・発行 ①104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル5F ☎03(3561)7017 ●郵便振替 東京8-66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

アダムスキー

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的な文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文獻。

アダムスキー

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円

アダムスキーが「他界する前年」に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

④ UFO問答100 216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

⑤ 金星・土星探訪記 380頁・定価2400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が7巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

⑥ UFOの謎 262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文獻。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の友情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動の母体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が7巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

⑨ UFOの真相 320頁・定価1980円 1991年4月刊!

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実態と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。ア氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解説して画期的な水久モーターを開発したバシル・パン・デン・バーグラの証言が自叙。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー 232頁・定価1300円

偉大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの1人の人間像を克明に描写。これ1冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO—宇宙からの完全な証拠 480頁・定価2800円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

■新刊! 全国書店で絶賛発売中

UFO・遭遇と真実

四六判・264頁
美麗カバー付

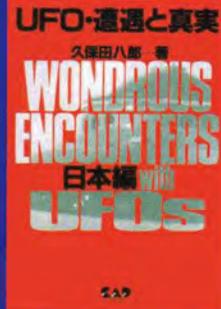
★久保田八郎著

¥1,500 送料 250

かつて本誌に掲載された驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろし読みやすく編纂した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が各事件現場を検証、体験者や証人達に直接会って徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。豊富な写真・イラストとあいまって読者を遙かな惑星群に誘う稀有の保存資料です。

〈内容〉

- ①関東大震災中に人々を救出した円盤（横浜の世にも珍しい大事件）
- ②東京タワーから目撃されたUFOと搭乗員（東京の素晴らしい目撃体験）
- ③超低空に降下した円盤と、手を振る異星人少年（高松市の驚異的事件）
- ④旭川市郊外の夜空に展開した物凄い光景（上富良野の仰天現象）
- ⑤UFOに乗ってエジプトまで飛んだ少年（松山市の物凄い事件）
- ⑥熱烈な願いに応じて出現したUFOを撮影（東京でのテレパシー体験）
- ⑦尾道市に出現したアダムスキー型UFO（尾道市の偶発事件）
- ⑧円盤や母船に乗って別な惑星へ行ってきた！（秋山眞人氏の超絶的体験）



■書店で品切れの際は下記へ郵便振替か現金書留で直接ご注文下さい。

中央アート出版社 〒104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル ☎03-3561-7017 振替・東京8-66324

*上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。ハガキでご注文下されば代金到着後払いで直送します。

英文版「UFO contactee」No.8 発行 日本GAP

B5判/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥175/3冊まで¥250

世界のUFO研究界で絶賛をあげている英文版ユーコン誌は、いまや各国の研究団体や個人研究者から注文が殺到、ロシアや南太平洋のフィージーあたりからも問い合わせがあるほどです。これは、小冊子ながら内容はきわめて重要な情報に満ちており、他に類似専門誌がないからです。No.8は「イエスの実像と転生の法則」の英訳、アダムスキーの講演、その他の記事、写真を満載。英語学習用にも最適。ぜひお求め下さい。(ただしNo.1~No.3は品切れです。)

編集後記

▼本号は昨年度総会の特集号としました。いささか時期遅れの感なきにしもあらずですが、年四回の発行ですから、やむを得ません。しかし内容は読み応えがあると自負しています。▼二人の異星人からの忠告は、近來まれにみる興味深い実話です。しかも単なる興味本位ではなくて何かを考えさせる深味があります。地球上の私たちの生活で「気付かないで、み使いをもてなしていた」という体験は案外、多くの人にあるのではないのでしょうか。▼久しぶりに遠藤氏の超能力関係記事掲載しました。氏独特の文章と論法による植物との対話に関する内容は読者を魅了するでしょう。超能力開発練習にも役立つ記事です。▼その他、堀江健一氏のテレパシーに関する科学的な解析も有益です。田邊優子氏の体験も大変不思議です。世の中にはさまざまな不可解な現象があるものです。▼アダムスキーの講演録の連載が始まりました。膨大な量の原稿を入手しましたので連載終了までに今後一〇年はかかりそうです。素晴らしい情報が含まれていますので、ご期待下さい。ちなみに編者はあと三〇年は現役で頑張りますから、ご安心下さい。▼UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。ふるってご応募下さい。▼本誌は多数のヴォランティアーにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。(K)

日本GAP機関誌・季刊 春季号
UFO contactee 120号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒103 東京都江戸川区本一色1-12-130
☎03-3665-1095 8
振替 東京4-35912
一九九三年一月二十五日発行
定価九二七円(本体九〇〇円)・送料210円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

平成5年度
日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※平成5年2月のみは11日(祭)に変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 テキスト=5月より「生命の科学」 3:10→5:00 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478 平成4年1~10月「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎25-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※4月のみは第3日曜日の18日に変更。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141(代)。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、月例会を休会。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎22-227-5333。仙台駅からお霊屋橋経由動物公園方面バスで約7~10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月月例会の前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	具市川市栄野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 ※ 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場については小川宛問い合わせること。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	指宿市東方12000番地「指宿市民会館」 ☎0993-22-4105 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-3252	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時・会場は変更があるため、関高宛問い合わせること。	高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。 ☎0878-39-2888。JR高松駅より徒歩15分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥400	同 上
IZU(伊豆)支部	※日時は変更があるため、事前に高梨宛電話で問い合わせること。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同 上



オーソン肖像写真

新アダムスキー全集第1巻に出てくる金星人の肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵の写真。10.5cm×17cm。

¥1,000 送料 ¥120



金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の4層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。9.3cm×8.8cm。

¥500 送料 ¥62



ESPカード

超能力開発練習用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カード各5枚ずつ、計25枚1セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。5.7cm×8.9cm。ポケットに入れて携帯するのに便利なので、どこでも気軽に練習できます。

¥900 送料 ¥120 (2~5個 ¥175)



テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第6弾。1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターでアダムスキーがコンタクトした金星人が、地面に残した靴の跡の不思議な図形を今回は取り入れました。これは今も謎のままになっています。

¥1,500 送料10枚まで ¥62



GAPキーホルダー

多数の方の要望にお応えして制作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲に「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。メタル部分は径3.2cm、全長9cm。

¥1,900 送料 ¥120



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物径1.7cm。

¥2,000 送料4個まで ¥120



ブックカバー

新アダムスキー全集のカヴァー用に作られたものですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも利用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」という意味の英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料 ¥175 5枚まで ¥250

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。黒地のため黒カバンや黒い物に最適。その他の品物にも似合います。

¥200 送料10枚まで ¥62



新アダムスキー全集★★★★訳・著者 久保田八郎のサイン・捺印入り!!★★★★

中央アート出版社刊の新アダムスキー全集を日本GAPでも取り扱います。各巻とも扉に久保田八郎の直筆サインと捺印を入れてお届けします。全巻注文の割引はありません。送料はご注文内容によって異なりますので、ご注文の際は書籍代のみご送金下さい。書籍発送の際、送料の請求書と振込用紙を同封します。ハガキでご注文下されば代金あと払いでお送りします。(電話によるご注文はご遠慮下さい)

申込先

住所、氏名、電話番号、商品名、種類、個数等をご明記の上、郵便振替または現金書留でお申込下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに品名個数をご記入の上、投函して下さい。品物をお送りするときに専用振替用紙を同封しますから、現品到着後、それを用いて郵便局よりご送金下さい。振替によるご送金は当方へ到着す

るまでに約1週間かかります。この欄の商品はすべて消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP 振替・東京4-35912 ☎03-3651-0958

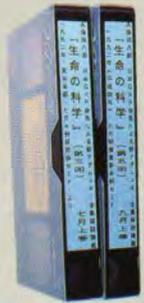


日本GAP能力開発テープ

●日本GAP東京月例セミナー
毎月開催される東京本部月例セミナーから、久保田会長の「生命の科学」解説講義と質疑応答その他を録音したものを、これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、人生の荒波を超えて成功をめざして堂々と前進できます。
●テープ① ¥1500 送料 ¥175
〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集第3巻「生命の科学」の講義。近況報告付
●テープ② ¥1200 送料 ¥175
〈内容〉会員による講演、超能力開発練習。質疑応答。※1990年以前のバックナンバーあり。往復ハガキでお問い合わせ下さい。
●1992年度日本GAP総会 2巻セット ¥2700 送料 ¥250
〈内容〉久保田会長講演「宇宙的な信念と勇気を起こす方法」。質疑応答。

申込先

申込先「品名」「〇年〇月分」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 振替・東京0-162644 ☎03-3653-9387



日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。
●東京本部月例セミナー 全1巻 ¥4000
〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約120分。
●日本GAP総会 全2巻 ¥3000
〈内容〉毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)
●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000
〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)
●1992年度デザートセンター誘致行 全1巻 ¥3000
〈内容〉1952年11月20日、アダムスキーが金星人とコンタクトした地点その他を調査した記録。送料はビデオ1本 ¥360。2本以上3本まで ¥540。4本以上7本までは距離に応じて変わります。
ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所、電話番号を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103
伊東芳和 振替・東京4-13811 ☎03-3351-9526

申込先

先着500名様限り

超高速英語学習テープ 無料進呈

サジェストロニクス テストテープ (C-30デジタル録音)

●「短期間に英会話をマスターしたい」「ほんとうにしゃべれる英語を身につけたい」「楽しく聞いて、しかも飽きることないテープがほしい!」そんな方にぜひお勧めします。

●BGMとして楽しんでいるだけで「自然に英語を口ずさみ始める」

●BGM感覚で、聴き流しているだけで、自然に英語が身についてしまいう、ブルガリア出身のインバルザコ博士の手になる超高速学習テープ「サジェストロニクス・ラーニングテープ」がアメリカからやってきました。

●日常英会話シリーズの試験用テストテープ(デジタル録音C-30)を、この広告をご覧の方、先着500名様に無料で差し上げます。

●お申込みは下記の下記の住所までおハガキ、お電話で。

サジェストロニクス・ラーニングテープとは、モントリオール、パリ、ハビバルグリアー等のクラシック音楽に、ブルガリアの専門家が独特の技法を用いながら、3パターンの特長を兼ね備え、音楽と絶妙のハーモニーをかも出しながら、3パターンのナレーションを吹き込んだ特殊な学習テープ。

●この歌の調を憶えるように自然に頭に入っていく「何度聴いても飽きることない」BGM感覚で、心地よく苦痛なしに聴ける」というのが、このテープの特徴。子供が母親から言葉を吸収してゆくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。

下記までおハガキ、又は電話で試験用テストテープ希望」と明記してお申込み下さい。詳しく案内書とテストテープの引換商品券をお送りします。

お好みのサブリミナルテープ®を1本(60分テープ) デジタル録音 無料進呈!

先着250名様

●「記憶力・集中力強化」「魅力の性格」「学力向上」「心のやすらぎ」「最高の頭脳」等々を努力なしに現実のものにしてくれる、アメリカからやってきた「サブリミナルテープ」がNHK等でも紹介され、話題になっています。

●その人気16シリーズの実際効果を試せるベースックテープ(60分デジタル録音)をこの広告をご覧の方、先着250名様に無料で差し上げます。

●お申込みは下記までおハガキ、又はお電話で。



サブリミナルテープ®の美しい音楽をBGMとして聴くだけであなたの人生が変わる!



●女優 吉川十和子
「人間の種々の可能性を切り開いてくれる、使いこたえのあるテープだと思います」



●俳優 辰巳琢郎
「おいしい話であるもんですね。楽しみながら能力開発できるなんて。サブリミナルテープ! 万才」

サブリミナルテープとは、ストレスを解消し、気分をさわやかにする特殊な音楽に、「特定の効果」をもたらす「耳に聴こえない周波数」に変換された心理的メッセージを調整させた特殊な音楽テープ。BGMとして聴き流しているだけで、自然に潜在能力が開発されたり、理想的な習慣が身につきます。「無料ベースックテープ引換券」と同時に「能力開発」「心身の健康」「性格の改善」等の各シリーズの案内書をお送りいたします。



先着250名に無料テープ進呈!

あなたは、自分が思っている以上にすばらしい人間になれる!

自己開発講座

恋愛やいろいろな人間関係、それに会社での仕事も、自分の持っている個性や魅力、そしてパワー、行動力を最大限に発揮すれば、すべて思い通りにゆくもの。しかしほとんどの人が自分の生まれながらにして持っているこれらの要素を潜在意識レベルでブレーキをかけて80~90%を殺してしまいます。(日本人は特にこの傾向が強い)このブレーキをすばらしい個性と魅力、パワーに満ちくりするくらい力を発揮できるようになります。

●「自分の個性や魅力がパワーや行動力が即発揮できるように!」

●「仕事やいろいろな人間関係が思い通りに!」

●「自分の個性や魅力がパワーや行動力が即発揮できるように!」

この広告で案内書請求された方、先着250名に潜在的な個性や魅力を引き出すための「ポテンシャル・ウェイフテープ」一本の商品引換券を進呈中!

お申込みは下記までおハガキ、又はお電話で!



先着300名に無料テープ進呈!

集中力開発講座

●「入試・就職試験の合格率が倍増!」

●「仕事の能率・成績もメキメキ向上!」

この広告で案内書請求された方、先着300名に潜在的集中力をめざめさせるための「ブレイン・ティハロツプメントテープ」一本の商品引換券を進呈中!

お申込みは下記までおハガキ、又はお電話で!

製作・監修:カリフォルニア・ヒューマンテクノロジージャ

希望 41

郵便はがき 107

〒107 東京都港区南青山 2-9-24

アメリカンライラリ社 1-784 係

住所 氏名 年齢 職業 電話番号を明記の上、

●住 所 氏名 年齢 職業 電話番号

●氏 名

●電話 番号

●年 齢

●職 業

無料ベースックテープ・超高速英語学習・集中力開発講座・自己開発講座をご希望の方は

住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、無料案内書希望」と左記までおハガキ、又は下記までお電話でお申込み下さい。(今回のお申込みでお届けしたテープ・案内書の返品の義務や商品購入の義務は全くなりませんので安心してお申込み下さい。)

「無料ベースックテープ案内書と商品券希望」「無料テストテープ希望」「無料テープと集中力開発講座無料案内書希望」「無料テープと自己開発講座

お電話でのお申込みは 0120-363-002 受付時間AM8~PM23 (日・祝日も受付中)